
久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査
【17歳以下】

報 告 書



平成30年1月
久留米市

目次

第1章	調査の概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査対象者	1
3.	調査期間	1
4.	回収結果	1
5.	集計・分析上の注意	1
第2章	調査結果【0～17歳】	2
1.	調査回答者の属性	2
2.	調査結果の詳細	4
(1)	ケガの状況	4
(2)	ケガの原因	5
(3)	ケガをしたときの状況	7
(4)	ケガをした場所	9
(5)	ケガをした状況・きっかけ	11
(6)	ケガをした部位	13
(7)	ケガの種類	14
(8)	自宅でのケガの状況とケガをした際の対応（未就学児）	16
(9)	家庭内の安全対策の認知度と実践状況（未就学児）	17
(10)	久留米市内でのケガの状況とケガをした際の対応	18
(11)	自転車の利用状況	19
(12)	自転車保険等の加入状況	20
(13)	ヘルメットの着用状況	21
(14)	交通事故にあった又はあいそうになった経験（バイクの運転中）	22
(15)	交通事故にあった又はあいそうになった経験（自転車の運転中）	23
(16)	交通事故にあった又はあいそうになった経験（歩行中）	24
(17)	交通事故にあった又はあいそうになったときの状況	25
(18)	虐待にあたると思う行為（保護者）	26
(19)	虐待に関わる情報の認知度（保護者）	27
(20)	児童虐待を見聞きした経験の有無（保護者）	29
(21)	虐待をしたと思った経験の有無（保護者）	30
(22)	自身の行為について感じること（保護者）	32
(23)	自身の虐待行為についての相談状況（保護者）	33
(24)	相談相手（保護者）	34
(25)	児童虐待防止として有効な手段（保護者）	35
(26)	保健室の利用状況（小学1年生以上）	37
(27)	保健室を利用した理由（小学1年生以上）	38
(28)	主な交通手段（小学1年生以上）	39

(29)	不審者にあった経験の有無（小学1年生以上）	40
(30)	不審者にあった際の対応（小学1年生以上）	42
(31)	子どもが犯罪にあうことに対する不安	44
(32)	子どもが巻き込まれる可能性があると思う犯罪	45
(33)	子どもが犯罪に巻き込まれると思う状況	47
(34)	子どもに対する防犯の取り組み	49
(35)	子どもの「男は仕事、女は家庭」という考え方について（中学1年生以上）	51
(36)	子どもの「暴力」に対する考え方（中学1年生以上）	52
(37)	子どものデートDVという言葉の認知度（中学1年生以上）	53
(38)	子どもがデートDVを受けた又は見聞きした経験（中学1年生以上）	54
(39)	子どもの「パープルリボン」の認知度（中学1年生以上）	55
(40)	自然災害から身を守るために重要だと思うこと（小学1年生以上）	56
(41)	「自助」の重要性を教えるために重要だと思うこと（小学1年生以上）	57
(42)	子どもの地域の避難所の認知度（小学1年生以上）	59
(43)	自主防災組織が行なう避難訓練や講演会等の参加状況（小学1年生以上）	60
(44)	災害が発生したときのひとりで避難できるか（小学1年生以上）	62

第3章	調査票＜子ども（17歳以下）＞	64
-----	-----------------	----

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

ケガや事故の予防を目的とした市民、関係機関、団体との協働による「セーフコミュニティ」活動に取り組むことにより、「みんなが安全に安心して暮らせるまちづくり」を目指している。本調査は、本市のセーフコミュニティの取り組みの基礎資料として、市民の経験や考えなどを把握する目的で、実施したものである。

2. 調査対象者

- ①市内に居住する0歳～17歳の男女 1,000人
 - ②市内に居住する18歳～64歳の男女 1,500人
 - ③市内に居住する65歳以上の男女 1,000人
- 合計 3,500人

[対象者抽出方法]

住民基本台帳からの層化二段無作為抽出

3. 調査期間

[調査開始] 平成29年8月17日

[投函期限] 平成29年8月31日

4. 回収結果

	設定標本数 (人)	有効回収数 (人)	有効回収率 (%)
0～17歳	1,000	574	57.4%
18～64歳	1,500	703	46.9%
65歳以上	1,000	727	72.7%
計	3,500	2,004	57.3%

5. 集計・分析上の注意

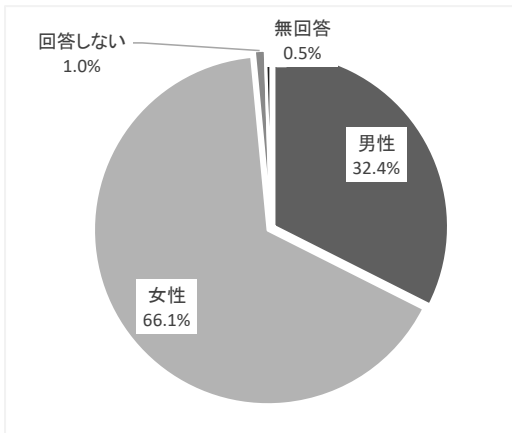
図表中の「N」はサンプル数（回答者数）を示す。

図表中の値は原則として回答数を100とした場合の構成比（%）で示した。端数処理（小数点第2位を四捨五入）のため、その合計が必ずしも100.0%にならない場合がある。なお、複数回答（2つ以上の選択肢を回答）は原則として100%を超える。また年代別等のクロス集計は、回答に年代等不明（無回答）がある場合、各項目のサンプル数の合計が全体サンプル数と合致しない場合がある

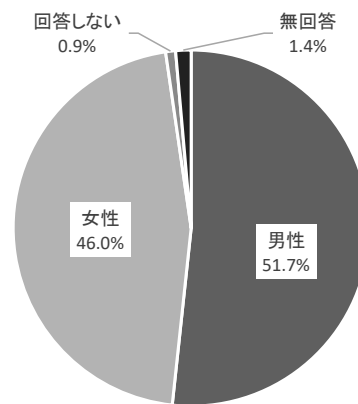
第2章 調査結果【0～17歳】

1. 調査回答者の属性

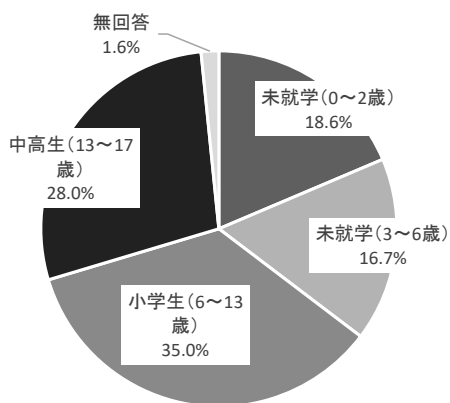
(1) 回答者の性別



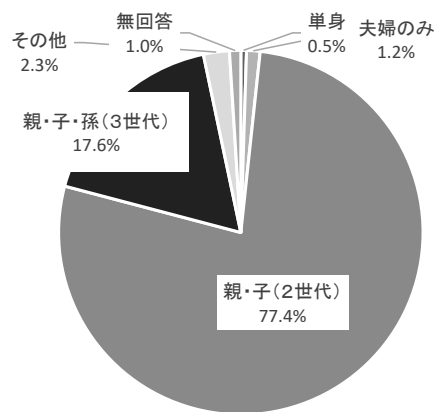
(2) 子どもの性別



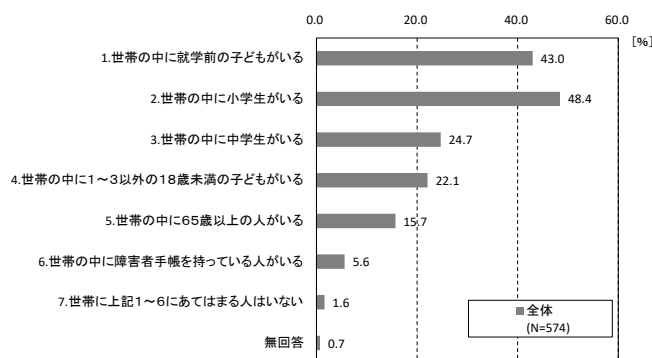
(3) 子どもの年齢 (学年)



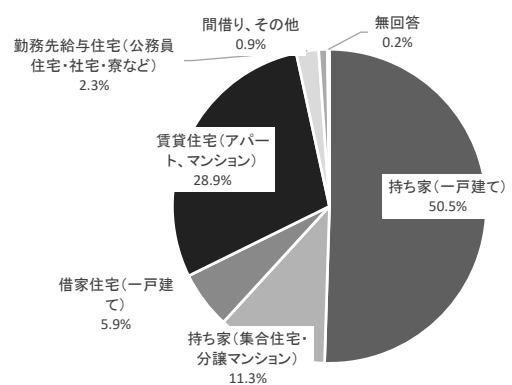
(4) 家族構成



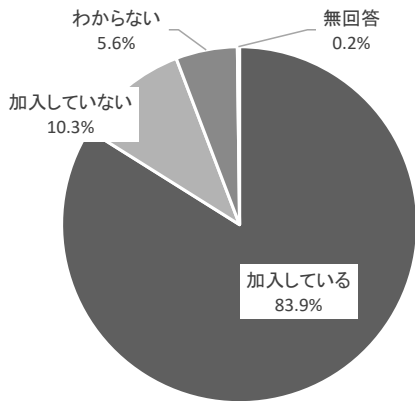
(5) 同居している家族



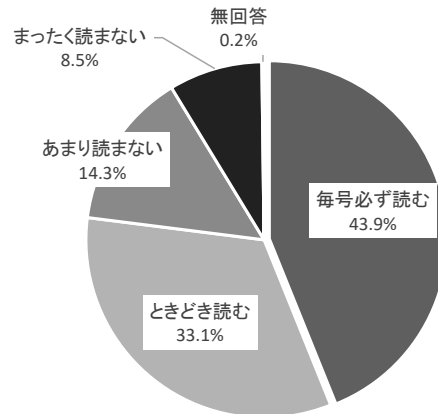
(6) 住居形態



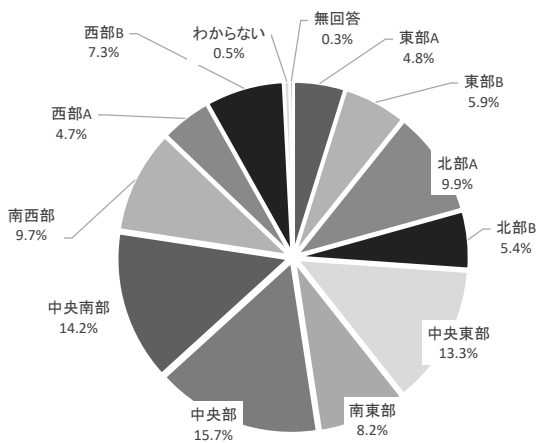
(7) 自治会の加入状況



(8) 「広報くるめ」の閲読状況



(9) 居住校区



< 居住校区の詳細 >

東部A					東部B						
山川	山本	草野	善導寺	大橋	船越	水分	柴刈	川会	竹野	水縄	田主丸

北部A			北部B				中央東部		
小森野	合川	宮ノ陣	北野	弓削	大城	金島	西国分	東国分	御井

南東部			中央部						中央南部			
上津	高良内	青峰	荘島	日吉	篠山	京町	南薫	長門石	鳥飼	金丸	南	津福

南西部			西部A				西部B		
荒木	大善寺	安武	城島	下田	青木・浮島	江上	犬塚	三瀬	西牟田

1 「主なケガ」について

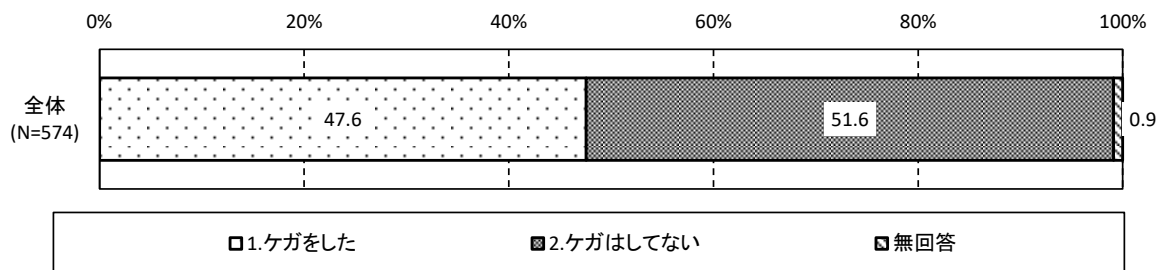
2. 調査結果の詳細

(1) ケガの状況

問 1. お子さんは、過去1年間(平成28年8月以降)にケガをされましたか。(〇はひとつ) (ケガとは、骨折、捻挫、打撲、切り傷などで、病院にかからないようなものも対象とします。)

過去1年間では、半数近くがケガをしている

●過去1年間のケガの状況は、「ケガをしていない」が51.6%、「ケガをした」が47.6%となっている。



【属性別特徴】

- 未就学（3～6歳）及び小学生（6～13歳）では「ケガをした」割合が高い。
- 南東部、中央南部では「ケガをした」の割合が高い。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	1.ケガをした	2.ケガはしてない	無回答	
上段:実数、下段:%						
全 体		574	273	296	5	
		100.0	47.6	51.6	0.9	
性別	男性	297	151	144	2	
		100.0	50.8	48.5	0.7	
	女性	264	117	144	3	
		100.0	44.3	54.5	1.1	
	回答しない	5	2	3	0	
		100.0	40.0	60.0	0.0	
性別・年代別	未就学 (0～2歳)	男性	58	21	37	0
			100.0	36.2	63.8	0.0
	女性	49	17	31	1	
		100.0	34.7	63.3	2.0	
	未就学 (3～6歳)	男性	52	28	24	0
			100.0	53.8	46.2	0.0
	女性	43	24	19	0	
		100.0	55.8	44.2	0.0	
	小学生 (6～13歳)	男性	102	65	37	0
			100.0	63.7	36.3	0.0
女性	98	52	46	0		
	100.0	53.1	46.9	0.0		
中高生 (13～17歳)	男性	84	36	46	2	
		100.0	42.9	54.8	2.4	
女性	73	24	47	2		
	100.0	32.9	64.4	2.7		

◆表 居住校区別◆

		サンプル数	1.ケガをした	2.ケガはしてない	無回答
上段:実数、下段:%					
全 体		574	273	296	5
		100.0	47.6	51.6	0.9
居住校区	東部A	28	13	15	0
		100.0	46.4	53.6	0.0
	東部B	34	14	20	0
		100.0	41.2	58.8	0.0
	北部A	57	22	35	0
		100.0	38.6	61.4	0.0
	北部B	31	16	15	0
		100.0	51.6	48.4	0.0
	中央東部	76	33	41	2
		100.0	43.4	53.9	2.6
	南東部	47	28	19	0
		100.0	59.6	40.4	0.0
	中央部	90	43	45	2
		100.0	47.8	50.0	2.2
中央南部	81	44	36	1	
	100.0	54.3	44.4	1.2	
南西部	56	27	29	0	
	100.0	48.2	51.8	0.0	
西部A	27	10	17	0	
	100.0	37.0	63.0	0.0	
西部B	42	20	22	0	
	100.0	47.6	52.4	0.0	

(2) ケガの原因

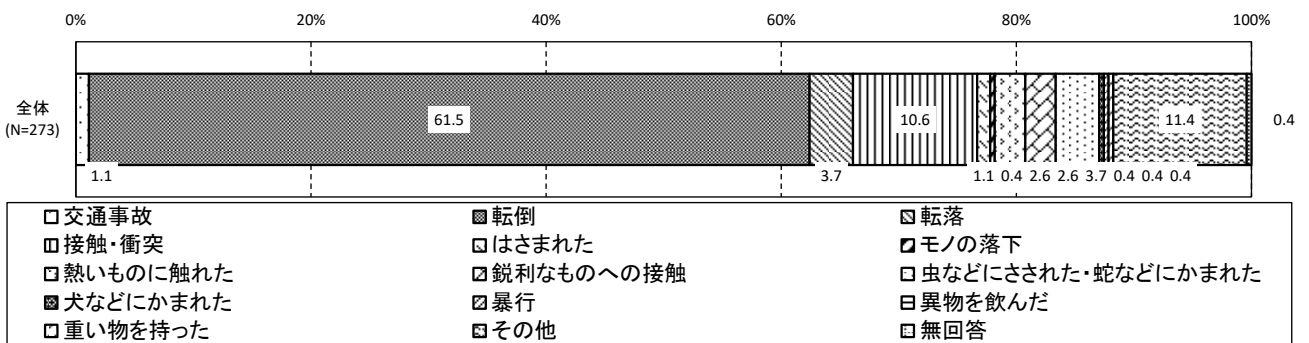
問1で、「1」と回答された方にお聞きします。

※複数の経験があれば、最も重症だったものを選んでください。

問1-1. ケガの原因は何でしたか。(○はひとつ)

ケガの原因は、「転倒」が6割以上

- ケガの原因は「転倒」が61.5%を占めている。
- 「その他」の内訳については、「部活動中」や「スポーツの練習中」など、運動中にケガをしたという回答が多くみられた。



【属性別特徴】

- いずれの年代も「転倒」の割合が高いが、特に未就学（3～6歳）で高くなっている。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	交通事故	転倒	転落	接触・衝突	はさまれた	モノの落下	熱いものに触れた	鋭利なものへの接触	虫などにさされた・蛇などにかまれた	犬などにかまれた	暴行	異物を飲んだ	重い物を持った	その他	無回答	
上段:実数,下段:%																		
全体		273	3	168	10	29	3	1	7	7	10	1	1	0	1	31	1	
		100.0	1.1	61.5	3.7	10.6	1.1	0.4	2.6	2.6	3.7	0.4	0.4	0.0	0.4	11.4	0.4	
性別	男性	151	1	91	8	18	1	1	3	3	5	0	1	0	1	18	0	
		100.0	0.7	60.3	5.3	11.9	0.7	0.7	2.0	2.0	3.3	0.0	0.7	0.0	0.7	11.9	0.0	
	女性	117	2	75	2	10	1	0	4	4	5	1	0	0	0	12	1	
	100.0	1.7	64.1	1.7	8.5	0.9	0.0	3.4	3.4	4.3	0.9	0.0	0.0	0.0	10.3	0.9		
	回答しない	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別・年代別	未就学 (0~2歳)	男性	21	0	13	3	1	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0
			100.0	0.0	61.9	14.3	4.8	0.0	0.0	4.8	4.8	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		女性	17	0	9	0	2	0	0	0	2	1	1	0	0	0	2	0
		100.0	0.0	52.9	0.0	11.8	0.0	0.0	0.0	11.8	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0
	未就学 (3~6歳)	男性	28	0	22	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0
			100.0	0.0	78.6	10.7	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0
		女性	24	0	21	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	87.5	4.2	0.0	0.0	0.0	4.2	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小学生 (6~13歳)	男性	65	0	43	1	11	1	0	1	1	1	0	0	0	0	6	0
			100.0	0.0	66.2	1.5	16.9	1.5	0.0	1.5	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	9.2	0.0
		女性	52	2	35	1	1	1	0	2	2	2	0	0	0	0	5	1
		100.0	3.8	67.3	1.9	1.9	1.9	0.0	3.8	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	9.6	1.9	
中高生 (13~17歳)	男性	36	1	13	1	6	0	0	1	1	2	0	1	0	1	9	0	
		100.0	2.8	36.1	2.8	16.7	0.0	0.0	2.8	2.8	5.6	0.0	2.8	0.0	2.8	25.0	0.0	
	女性	24	0	10	0	7	0	0	1	0	1	0	0	0	0	5	0	
	100.0	0.0	41.7	0.0	29.2	0.0	0.0	4.2	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	20.8	0.0		

1 「主なケガ」について

● 東部A、東部B、南東部では「転倒」の割合が高い。

◆ 表 居住校區別 ◆

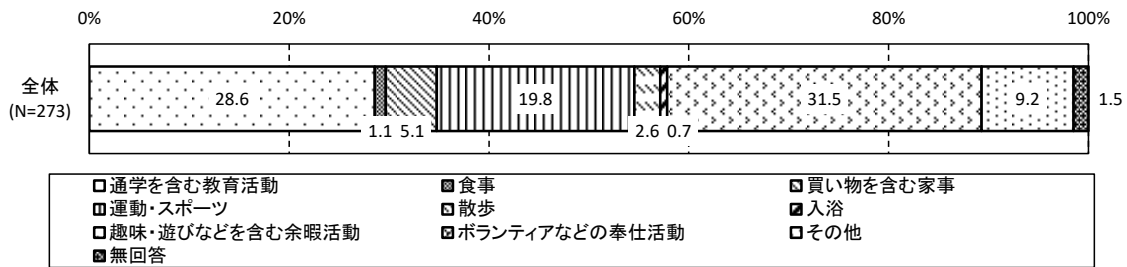
		サンプル数	交通事故	転倒	転落	接触・衝突	はさまれた	モノの落下	熱いものに触れた	鋭利なものへの接触	虫などにかまれた	犬などにかまれた	暴行	異物を飲んだ	重い物を持った	その他	無回答	
上段:実数、下段:%																		
全体		273 100.0	3 1.1	168 61.5	10 3.7	29 10.6	3 1.1	1 0.4	7 2.6	7 2.6	10 3.7	1 0.4	1 0.4	0 0.0	1 0.4	31 11.4	1 0.4	
居住校區	東部A	13 100.0	1 7.7	10 76.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.7	0 0.0	
	東部B	14 100.0	0 0.0	10 71.4	2 14.3	1 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.1	0 0.0	
	北部A	22 100.0	0 0.0	14 63.6	1 4.5	2 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 18.2	0 0.0	
	北部B	16 100.0	0 0.0	10 62.5	1 6.3	1 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.3	1 6.3	0 0.0
	中央東部	33 100.0	0 0.0	15 45.5	2 6.1	7 21.2	1 3.0	0 0.0	0 0.0	1 3.0	1 3.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 18.2	0 0.0	
	南東部	28 100.0	0 0.0	20 71.4	1 3.6	1 3.6	0 0.0	0 0.0	2 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 10.7	1 3.6	
	中央部	43 100.0	0 0.0	28 65.1	1 2.3	7 16.3	0 0.0	1 2.3	1 2.3	1 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 9.3	0 0.0	
	中央南部	44 100.0	1 2.3	26 59.1	1 2.3	3 6.8	2 4.5	0 0.0	2 4.5	2 4.5	1 2.3	0 0.0	1 2.3	0 0.0	0 0.0	5 11.4	0 0.0	
	南西部	27 100.0	1 3.7	15 55.6	0 0.0	4 14.8	0 0.0	0 0.0	2 7.4	0 0.0	2 7.4	1 3.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 7.4	0 0.0	
	西部A	10 100.0	0 0.0	6 60.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	
	西部B	20 100.0	0 0.0	13 65.0	1 5.0	2 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 10.0	0 0.0	

(3) ケガをしたときの状況

問 1-2. ケガをした時は何をしていましたか。(○はひとつ)

ケガをしたときの状況は、「趣味・遊びなどを含む余暇活動」「通学を含む教育活動」の割合が高い

●ケガをしたときの状況については、「趣味・遊びを含む余暇活動」が 31.5% で最も高い。「通学を含む教育活動」も 28.6% となっている。



【属性別特徴】

- 未就学（0～2歳）及び未就学（3～6歳）では、「趣味・遊びなどを含む余暇活動」の割合が高い。
- 小学生（6～13歳）では、「通学を含む教育活動」が4割を占めている。
- 中高生（13～17歳）では、「通学を含む教育活動」「運動・スポーツ」の割合が高い。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	通学を含む教育活動	食事	買い物を含む家事	運動・スポーツ	散歩	入浴	趣味・遊びなどを含む余暇	ボランティアなどの奉仕活動	その他	無回答	
上段:実数、下段:%													
全体		273	78	3	14	54	7	2	86	0	25	4	
		100.0	28.6	1.1	5.1	19.8	2.6	0.7	31.5	0.0	9.2	1.5	
性別	男性	151	48	2	6	34	2	1	45	0	11	2	
		100.0	31.8	1.3	4.0	22.5	1.3	0.7	29.8	0.0	7.3	1.3	
	女性	117	30	1	7	18	5	1	39	0	14	2	
		100.0	25.6	0.9	6.0	15.4	4.3	0.9	33.3	0.0	12.0	1.7	
	回答しない	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	
性別・年代別	未就学 (0～2歳)	男性	21	2	1	3	0	1	0	9	0	5	0
			100.0	9.5	4.8	14.3	0.0	4.8	0.0	42.9	0.0	23.8	0.0
		17	0	0	0	1	2	0	10	0	3	1	
		100.0	0.0	0.0	0.0	5.9	11.8	0.0	58.8	0.0	17.6	5.9	
	未就学 (3～6歳)	男性	28	4	0	3	4	1	0	14	0	2	0
			100.0	14.3	0.0	10.7	14.3	3.6	0.0	50.0	0.0	7.1	0.0
		24	4	1	2	2	2	0	10	0	3	0	
		100.0	16.7	4.2	8.3	8.3	8.3	0.0	41.7	0.0	12.5	0.0	
	小学生 (6～13歳)	男性	65	26	0	0	13	0	1	20	0	3	2
			100.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	1.5	30.8	0.0	4.6	3.1
	52	17	0	5	7	1	1	15	0	5	1		
	100.0	32.7	0.0	9.6	13.5	1.9	1.9	28.8	0.0	9.6	1.9		
中高生 (13～17歳)	男性	36	16	1	0	16	0	0	2	0	1	0	
		100.0	44.4	2.8	0.0	44.4	0.0	0.0	5.6	0.0	2.8	0.0	
	24	9	0	0	8	0	0	4	0	3	0		
	100.0	37.5	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0	12.5	0.0		

1 「主なケガ」について

- 転倒では、「趣味・遊びなどを含む余暇活動」の割合が高い。
- 接触・衝突では、「通学を含む教育活動」「運動・スポーツ」の割合が高い。

◆表 ケガの原因別◆

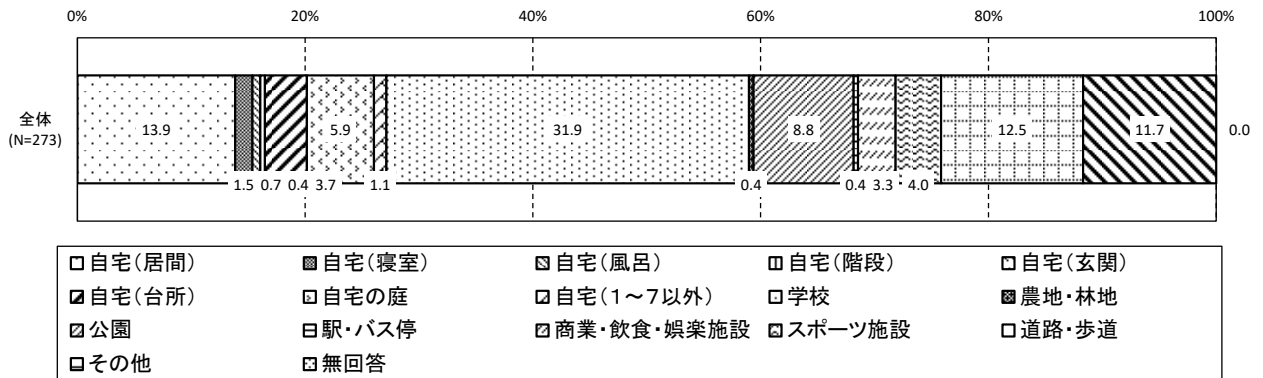
	サンプル数	通学を含む教育活動	食事	買い物を含む家事	運動・スポーツ	散歩	入浴	活動・趣味・遊びなどを含む余暇	ボランティアなどの奉仕活動	その他	無回答
上段:実数、下段:%											
全体	273 100.0	78 28.6	3 1.1	14 5.1	54 19.8	7 2.6	2 0.7	86 31.5	0 0.0	25 9.2	4 1.5
ケガの原因	交通事故	3 100.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0
	転倒	168 100.0	56 33.3	1 0.6	6 3.6	27 16.1	6 3.6	1 0.6	60 35.7	0 0.0	9 5.4
	転落	10 100.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	4 40.0	0 0.0	3 30.0
	接触・衝突	29 100.0	10 34.5	0 0.0	0 0.0	11 37.9	0 0.0	1 3.4	6 20.7	0 0.0	1 3.4
	はさまれた	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7
	モノの落下	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 100.0	1 0.0	0 0.0	0 0.0
	熱いものに触れた	7 100.0	0 0.0	2 28.6	3 42.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 28.6	0 0.0	0 0.0
	鋭利なものへの接触	7 100.0	1 14.3	0 0.0	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 28.6	0 0.0	2 28.6
	虫などにさされた・蛇などにかまれた	10 100.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	6 60.0	0 0.0	0 0.0
	犬などにかまれた	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 100.0	0 0.0
	暴行	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	異物を飲んだ	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	重い物を持った	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	31 100.0	4 12.9	0 0.0	1 3.2	14 45.2	0 0.0	0 0.0	4 12.9	0 0.0	6 19.4

(4) ケガをした場所

問 1-3. ケガをした場所はどこでしたか。(○はひとつ)

ケガをした場所は、「学校」の割合が高い

- ケガをした場所は「学校」が 31.9%と最も高い。次に「自宅」の様々な場所を合わせると「自宅」が 27.2%、「道路・歩道」が 12.5%と続く。
- 「その他」の内訳については、「保育園」の回答が多くみられた。



【属性別特徴】

- 未就学（0～2歳）では、「自宅（居間）」「公園」の割合が高い。
- 中高生（13～17歳）では、男女ともに「学校」が大半を占めている。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	自宅(居間)	自宅(寝室)	自宅(風呂)	自宅(階段)	自宅(玄関)	自宅(台所)	自宅の庭	自宅(1~7以外)	学校	農地・林地	公園	駅・バス停	商業・飲食・娯楽施設	スポーツ施設	道路・歩道	その他	
上段:実数、下段:%																			
全体		273 100.0	38 13.9	4 1.5	2 0.7	1 0.4	0 0.0	10 3.7	16 5.9	3 1.1	87 31.9	1 0.4	24 8.8	1 0.4	9 3.3	11 4.0	34 12.5	32 11.7	
性別	男性	151 100.0	20 13.2	2 1.3	1 0.7	0 0.0	0 0.0	5 3.3	6 4.0	2 1.3	52 34.4	1 0.7	14 9.3	0 0.0	3 2.0	7 4.6	16 10.6	22 14.6	
	女性	117 100.0	17 14.5	2 1.7	1 0.9	1 0.9	0 0.0	5 4.3	9 7.7	1 0.9	32 27.4	0 0.0	10 8.5	1 0.9	6 5.1	4 3.4	18 15.4	10 8.5	
	回答しない	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
性別・年代別	未就学(0~2歳)	男性	21 100.0	7 33.3	1 4.8	0 0.0	0 0.0	2 9.5	1 4.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 14.3	0 0.0	1 4.8	0 0.0	0 0.0	6 28.6
		女性	17 100.0	5 29.4	1 5.9	0 0.0	0 0.0	1 5.9	0 0.0	0 0.0	1 5.9	0 0.0	0 0.0	4 23.5	1 5.9	0 0.0	0 0.0	5 29.4	1 5.9
	未就学(3~6歳)	男性	28 100.0	3 10.7	1 3.6	0 0.0	0 0.0	1 3.6	2 7.1	1 3.6	2 7.1	2 7.1	1 3.6	3 10.7	0 0.0	2 7.1	0 0.0	4 14.3	8 28.6
		女性	24 100.0	8 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 20.8	0 0.0	0 0.0	1 4.2	0 0.0	2 8.3	0 0.0	1 4.2	0 0.0	4 16.7	3 12.5
	小学生(6~13歳)	男性	65 100.0	9 13.8	0 0.0	1 1.5	0 0.0	1 1.5	3 4.6	1 1.5	3 4.6	23 35.4	0 0.0	8 12.3	0 0.0	0 0.0	4 6.2	8 12.3	7 10.8
		女性	52 100.0	2 3.8	1 1.9	1 1.9	1 1.9	4 7.7	4 7.7	0 0.0	0 0.0	19 36.5	0 0.0	4 7.7	0 0.0	4 7.7	2 3.8	8 15.4	2 3.8
	中高生(13~17歳)	男性	36 100.0	1 2.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	26 72.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 8.3	4 11.1
		女性	24 100.0	2 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.2	2 8.3	5 20.8	2 8.3

1 「主なケガ」について

● 居住形態別では、特に大きな差はみられない。

◆ 表 居住形態別 ◆

	サンプル数	自宅（居間）	自宅（寝室）	自宅（風呂）	自宅（階段）	自宅（玄関）	自宅（台所）	自宅の庭	自宅（1〜7以外）	学校	農地・林地	公園	駅・バス停	商業・飲食・娯楽施設	スポーツ施設	道路・歩道	その他	
上段:実数、下段:%																		
全体	273 100.0	38 13.9	4 1.5	2 0.7	1 0.4	0 0.0	10 3.7	16 5.9	3 1.1	87 31.9	1 0.4	24 8.8	1 0.4	9 3.3	11 4.0	34 12.5	32 11.7	
住居携帯	持ち家(一戸建て)	142 100.0	21 14.8	1 0.7	0 0.0	1 0.7	0 0.0	2 1.4	15 10.6	1 0.7	50 35.2	0 0.0	9 6.3	0 0.0	4 2.8	8 5.6	19 13.4	11 7.7
	持ち家(集合住宅・分譲マンション)	26 100.0	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 7.7	0 0.0	0 0.0	8 30.8	1 3.8	1 3.8	0 0.0	0 0.0	2 7.7	6 23.1	4 15.4
	借家住宅(一戸建て)	14 100.0	3 21.4	0 0.0	1 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 28.6	0 0.0	2 14.3	0 0.0	1 7.1	0 0.0	1 7.1	2 14.3
	賃貸住宅(アパート、マンション)	83 100.0	10 12.0	3 3.6	1 1.2	0 0.0	0 0.0	6 7.2	1 1.2	2 2.4	23 27.7	0 0.0	11 13.3	1 1.2	4 4.8	1 1.2	7 8.4	13 15.7
	勤務先給与住宅(公務員住宅・社宅・寮など)	6 100.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	1 16.7
	間借り、その他	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0

● 転倒では、1番は「学校」、2番が「道路・歩道」の順で割合が高い。

● 接触・衝突では、1番は「学校」、2番が「スポーツ施設」の順で割合が高い。

◆ 表 ケガの原因別 ◆

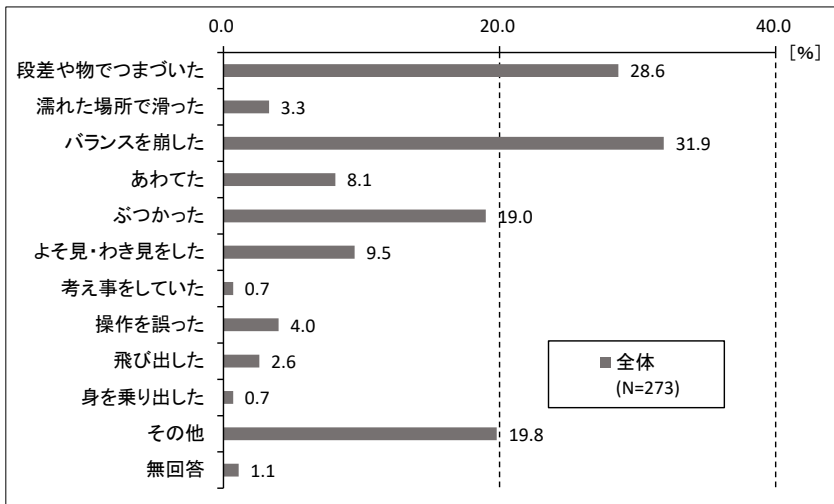
	サンプル数	自宅（居間）	自宅（寝室）	自宅（風呂）	自宅（階段）	自宅（玄関）	自宅（台所）	自宅の庭	自宅（1〜7以外）	学校	農地・林地	公園	駅・バス停	商業・飲食・娯楽施設	スポーツ施設	道路・歩道	その他	
上段:実数、下段:%																		
全体	273 100.0	38 13.9	4 1.5	2 0.7	1 0.4	0 0.0	10 3.7	16 5.9	3 1.1	87 31.9	1 0.4	24 8.8	1 0.4	9 3.3	11 4.0	34 12.5	32 11.7	
ケガの原因	交通事故	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 100.0	0 0.0	
	転倒	168 100.0	27 16.1	0 0.0	1 0.6	1 0.6	0 0.0	4 2.4	12 7.1	1 0.6	52 31.0	1 0.6	17 10.1	0 0.0	4 2.4	4 2.4	27 16.1	17 10.1
	転落	10 100.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	2 20.0
	接触・衝突	29 100.0	3 10.3	0 0.0	1 3.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.4	0 0.0	13 44.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.4	5 17.2	2 6.9	3 10.3
	はさまれた	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	33.3 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	モノの落下	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	熱いものに触れた	7 100.0	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 57.1	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	鋭利なものへの接触	7 100.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 28.6
	虫などにさされた・蛇などにかまれた	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	3 30.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	3 30.0
	犬などにかまれた	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	暴行	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	異物を飲んだ	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	重い物を持った	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	31 100.0	3 9.7	1 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17 54.8	0 0.0	2 6.5	0 0.0	1 3.2	2 6.5	0 0.0	5 16.1

(5) ケガをした状況・きっかけ

問 1-4. ケガをした状況・きっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

ケガをした状況・きっかけは、「バランスを崩した」「階段や物でつまづいた」の割合が高い

- ケガをした状況・きっかけについては、「バランスを崩した」が31.9%で最も高い。
- 「その他」の内訳について、「キャッチボール」や「バレーの授業」等、運動中にケガをしたという回答が多くみられた。



【属性別特徴】

- 女性・未就学（0～2歳）、男性・小学生（6～13歳）、男性・中高生（13～17歳）では、「ぶつかった」の割合が高くなっている。
- 未就学（3～6歳）では、「段差や物でつまづいた」の割合が高い。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	段差や物でつまづいた	濡れた場所で滑った	バランスを崩した	あわてた	ぶつかった	よそ見・わき見をした	考え事をしていた	操作を誤った	飛び出した	身を乗り出した	その他	無回答	
上段:実数, 下段:%															
全 体		273 100.0	78 28.6	9 3.3	87 31.9	22 8.1	52 19.0	26 9.5	2 0.7	11 4.0	7 2.6	2 0.7	54 19.8	3 1.1	
性別	男性	151 100.0	41 27.2	6 4.0	43 28.5	13 8.6	34 22.5	13 8.6	1 0.7	3 2.0	4 2.6	1 0.7	35 23.2	1 0.7	
	女性	117 100.0	37 31.6	3 2.6	42 35.9	9 7.7	18 15.4	13 11.1	1 0.9	6 5.1	3 2.6	1 0.9	18 15.4	2 1.7	
	回答しない	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
性別・年代別	未就学 (0～2歳)	男性	21 100.0	6 28.6	0 0.0	8 38.1	1 4.8	2 9.5	3 14.3	0 0.0	0 0.0	1 4.8	1 4.8	5 23.8	0 0.0
		女性	17 100.0	4 23.5	0 0.0	6 35.3	1 5.9	5 29.4	1 5.9	0 0.0	1 5.9	0 0.0	0 0.0	3 17.6	2 11.8
	未就学 (3～6歳)	男性	28 100.0	14 50.0	2 7.1	6 21.4	2 7.1	2 7.1	2 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 32.1	0 0.0
		女性	24 100.0	12 50.0	1 4.2	8 33.3	1 4.2	5 20.8	4 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 8.3	0 0.0
	小学生 (6～13歳)	男性	65 100.0	18 27.7	1 1.5	20 30.8	8 12.3	20 30.8	7 10.8	0 0.0	3 4.6	3 4.6	0 0.0	12 18.3	0 0.0
		女性	52 100.0	18 34.6	2 3.8	21 40.4	6 11.5	4 7.7	5 9.6	1 1.9	3 5.8	3 5.8	1 1.9	8 15.4	0 0.0
	中高生 (13～17歳)	男性	36 100.0	3 8.3	3 8.3	9 25.0	2 5.6	10 27.8	1 2.8	1 2.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12 33.3	1 2.8
		女性	24 100.0	3 12.5	0 0.0	7 29.2	1 4.2	4 16.7	3 12.5	0 0.0	2 8.3	0 0.0	0 0.0	5 20.8	0 0.0

1 「主なケガ」について

- 転倒では、「段差や物でつまづいた」「バランスを崩した」の割合が高い。
- 接触・衝突では、「ぶつかった」の割合が高い。

◆表 ケガの原因別◆

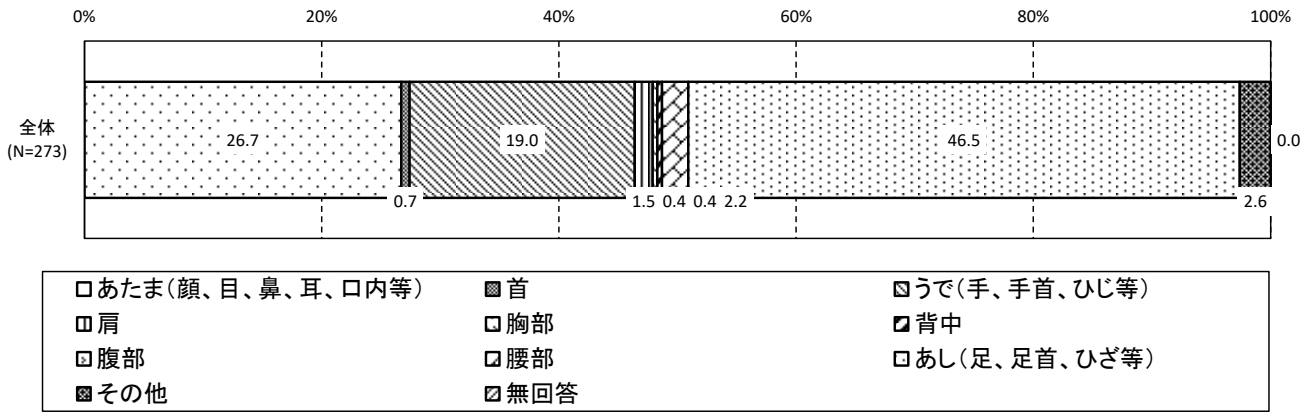
	サンプル数	段差や物でつまづいた	濡れた場所で滑った	バランスを崩した	あわてた	ぶつかった	よそ見・わき見をした	考え事をしていた	操作を誤った	飛び出した	身を乗り出した	その他	無回答
上段:実数, 下段:%													
全 体	273 100.0	78 28.6	9 3.3	87 31.9	22 8.1	52 19.0	26 9.5	2 0.7	11 4.0	7 2.6	2 0.7	54 19.8	3 1.1
ケガの原因	交通事故	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0
	転倒	168 100.0	71 42.3	9 5.4	72 42.9	18 10.7	27 16.1	16 9.5	2 1.2	4 2.4	5 3.0	0 0.0	15 8.9
	転落	10 100.0	1 10.0	0 0.0	4 40.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	4 40.0
	接触・衝突	29 100.0	3 10.3	0 0.0	2 6.9	0 0.0	17 58.6	3 10.3	0 0.0	2 6.9	1 3.4	0 0.0	4 13.8
	はさまれた	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	モノの落下	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	熱いものに触れた	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	1 14.3	3 42.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	1 14.3
	鋭利なものへの接触	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	3 42.9	0 0.0	0 0.0	4 57.1
	虫などにさされた・蛇などにかまれた	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 70.0
	犬などにかまれた	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	暴行	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	異物を飲んだ	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	重い物を持った	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	31 100.0	1 3.2	0 0.0	7 22.6	0 0.0	5 16.1	1 3.2	0 0.0	1 3.2	0 0.0	1 3.2	16 51.6

(6) ケガをした部位

問 1-5. ケガをした部位（からだの場所）はどこですか。（○はひとつ）

ケガをした部位は「あし（足、足首、ひざ等）」が半数近くを占める

●ケガをした部位については、「あし（足、足首、ひざ等）」が46.5%で最も高い。



【属性別特徴】

- 未就学（0～6歳）では、「あたま（顔、目、鼻、耳、口内等）」の割合が高い。
- 小学生（6～13歳）、中高生（13～17歳）では、「あし（足、足首、ひざ等）」の割合が高い。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	あたま(顔、目、鼻、耳、口内等)	首	うで(手、手首、ひじ等)	肩	胸部	背中	腹部	腰部	あし(足、足首、ひざ等)	その他	
上段:実数、下段:%													
全 体		273	73	2	52	4	1	1	0	6	127	7	
		100.0	26.7	0.7	19.0	1.5	0.4	0.4	0.0	2.2	46.5	2.6	
性別	男性	151	47	1	27	0	0	1	0	5	66	4	
		100.0	31.1	0.7	17.9	0.0	0.0	0.7	0.0	3.3	43.7	2.6	
	女性	117	25	1	24	3	1	0	0	1	59	3	
		100.0	21.4	0.9	20.5	2.6	0.9	0.0	0.0	0.9	50.4	2.6	
	回答しない	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別・年代別	未就学(0～2歳)	男性	21	16	0	1	0	0	0	0	0	4	0
			100.0	76.2	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.0	0.0
		女性	17	8	0	5	0	0	0	0	0	4	0
			100.0	47.1	0.0	29.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.5	0.0
	未就学(3～6歳)	男性	28	11	0	6	0	0	0	0	0	11	0
			100.0	39.3	0.0	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	39.3	0.0
		女性	24	7	0	4	0	0	0	0	0	13	0
			100.0	29.2	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	54.2	0.0
	小学生(6～13歳)	男性	65	15	0	12	0	0	1	0	1	34	2
			100.0	23.1	0.0	18.5	0.0	0.0	1.5	0.0	1.5	52.3	3.1
		女性	52	10	1	10	1	1	0	0	1	26	2
			100.0	19.2	1.9	19.2	1.9	1.9	0.0	0.0	1.9	50.0	3.8
中高生(13～17歳)	男性	36	5	1	7	0	0	0	0	4	17	2	
		100.0	13.9	2.8	19.4	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	47.2	5.6	
	女性	24	0	0	5	2	0	0	0	0	16	1	
		100.0	0.0	0.0	20.8	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	4.2	

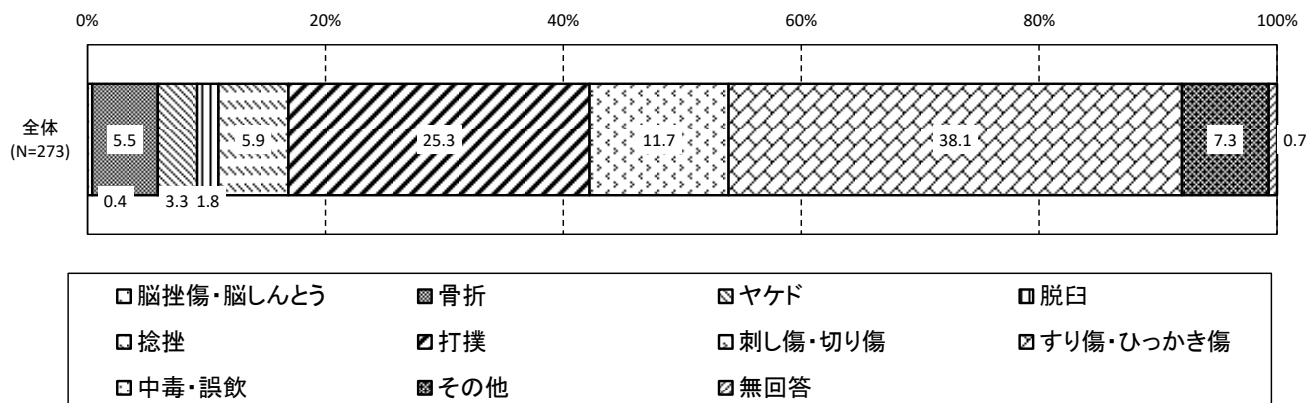
1 「主なケガ」について

(7) ケガの種類

問 1-6. どのようなケガでしたか。(○はひとつ)

ケガの種類は「すり傷・ひっかき傷」の割合が高い

●ケガの種類については、「すり傷・ひっかき傷」が38.1%で最も高く、「打撲」も25.3%と続く。



【属性別特徴】

●未就学（3～6歳）及び男性・小学生（6～13歳）では、「すり傷・ひっかき傷」の割合が高い。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	脳挫傷・脳しんとう	骨折	ヤケド	脱臼	捻挫	打撲	刺し傷・切り傷	すり傷・ひっかき傷	中毒・誤飲	その他	無回答	
上段:実数、下段:%														
全 体		273 100.0	1 0.4	15 5.5	9 3.3	5 1.8	16 5.9	25.3	32 11.7	104 38.1	0 0.0	20 7.3	2 0.7	
性別	男性	151 100.0	1 0.7	9 6.0	5 3.3	2 1.3	7 4.6	38 25.2	18 11.9	59 39.1	0 0.0	11 7.3	1 0.7	
	女性	117 100.0	0 0.0	6 5.1	4 3.4	2 1.7	8 6.8	29 24.8	14 12.0	45 38.5	0 0.0	6 6.8	1 0.9	
	回答しない	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
性別・年代別	未就学 (0～2歳)	男性	21 100.0	0 0.0	1 4.8	1 4.8	0 0.0	0 0.0	6 28.6	5 23.8	5 23.8	0 0.0	14 14.3	0 0.0
		女性	17 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 17.6	7 41.2	6 35.3	0 0.0	0 0.0	1 5.9
	未就学 (3～6歳)	男性	28 100.0	0 0.0	0 0.0	2 7.1	2 7.1	0 0.0	5 17.9	2 7.1	16 57.1	0 0.0	3 3.6	0 0.0
		女性	24 100.0	0 0.0	1 4.2	1 4.2	0 0.0	0 0.0	6 25.0	2 8.3	13 54.2	0 0.0	1 4.2	0 0.0
	小学生 (6～13歳)	男性	65 100.0	1 1.5	4 6.2	1 1.5	0 0.0	3 4.6	13 20.0	8 12.3	31 47.7	0 0.0	4 6.2	0 0.0
		女性	52 100.0	0 0.0	4 7.7	2 3.8	2 3.8	3 5.8	13 25.0	4 7.7	20 38.5	0 0.0	4 7.7	0 0.0
	中高生 (13～17歳)	男性	36 100.0	0 0.0	4 11.1	1 2.8	0 0.0	4 11.1	13 36.1	3 8.3	7 19.4	0 0.0	3 8.3	1 2.8
		女性	24 100.0	0 0.0	1 4.2	1 4.2	0 0.0	5 20.8	7 29.2	1 4.2	6 25.0	0 0.0	3 12.5	0 0.0

- 転倒では、「すり傷・ひっかき傷」の割合が高い。
- 接触・衝突では、「打撲」の割合が高い。

◆ 表 ケガの原因別 ◆

		サンプル数	脳挫傷・脳しんとう	骨折	ヤケド	脱臼	捻挫	打撲	刺し傷・切り傷	すり傷・ひっかき傷	中毒・誤飲	その他	無回答	
上段:実数、下段:%														
全 体		273 100.0	1 0.4	15 5.5	9 3.3	5 1.8	16 5.9	69 25.3	32 11.7	104 38.1	0 0.0	20 7.3	2 0.7	
ケガの原因	交通事故	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	
	転倒	168 100.0	0 0.0	7 4.2	2 1.2	1 0.6	7 4.2	42 25.0	16 9.5	90 53.6	0 0.0	0 0.0	3 1.8	0 0.0
	転落	10 100.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 50.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0
	接触・衝突	29 100.0	1 3.4	5 17.2	0 0.0	0 0.0	3 10.3	10 34.5	3 10.3	5 17.2	0 0.0	0 0.0	2 6.9	0 0.0
	はさまれた	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0
	モノの落下	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	熱いものに触れた	7 100.0	0 0.0	0 0.0	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	鋭利なものへの接触	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	虫などにさされた・蛇などに かまれた	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	2 20.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	3 30.0	1 10.0
	犬などにかまれた	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	暴行	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	異物を飲んだ	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	重い物を持った	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	31 100.0	0 0.0	2 6.5	0 0.0	4 12.9	4 12.9	7 22.6	2 6.5	3 9.7	0 0.0	0 0.0	8 25.8	1 3.2

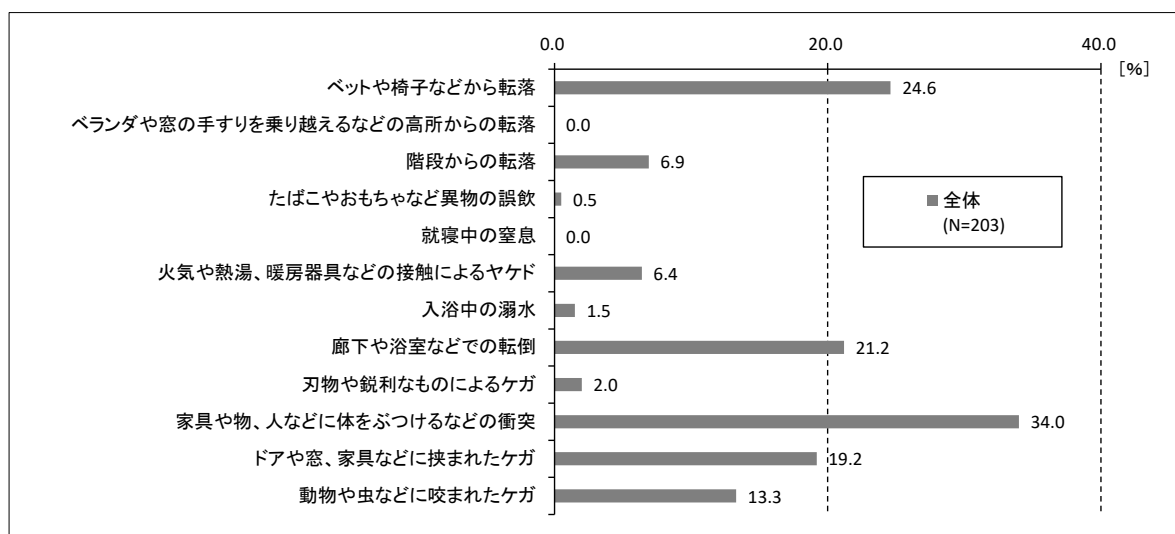
2「自宅でのケガや事故」について

(8) 自宅でのケガの状況とケガをした際の対応（未就学児）

問2. お子さんは、過去1年間(平成28年8月以降)に、自宅でケガをされましたか。該当するものを選んでください。

自宅でのケガでは、「家具や物、人などに体をぶつけるなどの衝突」の割合が高くなっている。

- 自宅でのケガの状況について、「家具や物、人などに体をぶつけるなどの衝突」が34.0%で最も高い。
- 「ベットや椅子などから転落」「廊下や浴室などでの転倒」も2割強存在する。



【自宅でケガをした際の状況と対応】

- 自宅でケガをした際に、周りに大人がいたかどうか・医療機関に行ったかどうかをたずねた結果、ケガをした全体件数は少ないが、ケガをした際に「大人がいた」割合は全体的に高くなっている。

	ケガをした状況		大人がいた		医療機関に行った	
	合計	%	合計	%	合計	%
ベットや椅子などから転落	50	24.6	45	90.0	2	4.0
ベランダや窓の手すりを乗り越えるなどの高所からの転落	-	-	-	-	-	-
階段からの転落	14	6.9	11	78.6	1	7.1
たばこやおもちゃなど異物の誤飲	1	0.5	1	100.0	0	0.0
就寝中の窒息	-	-	-	-	-	-
火気や熱湯、暖房器具などの接触によるヤケド	13	6.4	10	76.9	3	23.1
入浴中の溺水	3	1.5	3	100.0	0	0.0
廊下や浴室などでの転倒	43	21.2	38	88.4	1	2.3
刃物や鋭利なものによるケガ	4	2.0	3	75.0	1	25.0
家具や物、人などに体をぶつけるなどの衝突	69	34.0	64	92.8	3	4.3
ドアや窓、家具などに挟まれたケガ	39	19.2	37	94.9	0	0.0
動物や虫などに咬まれたケガ	27	13.3	22	81.5	3	11.1

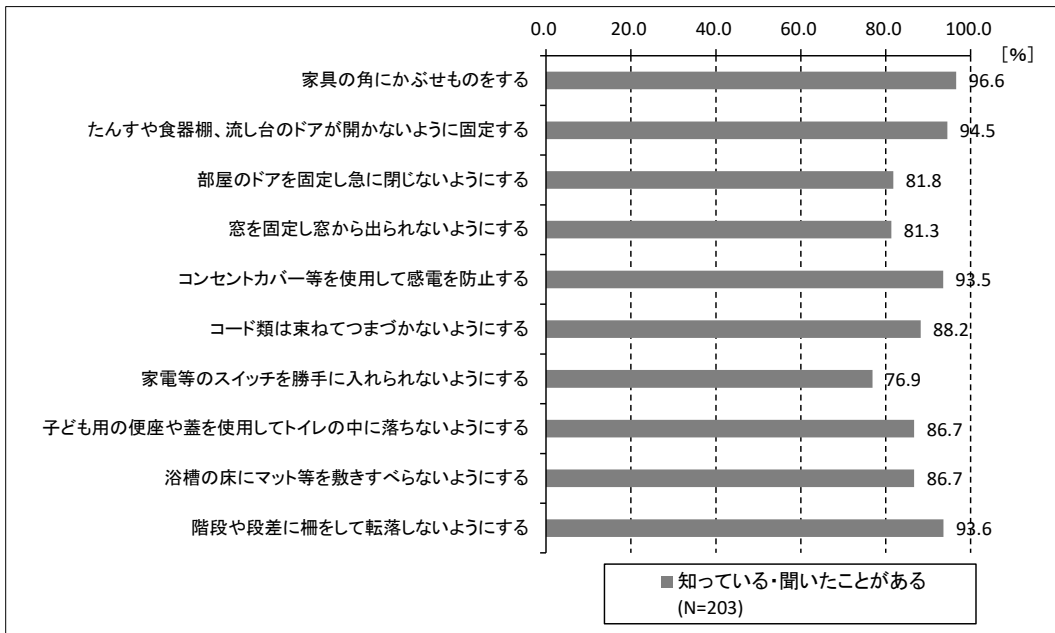
(9) 家庭内の安全対策の認知度と実践状況（未就学児）

問 3. あなたは、家庭内の安全対策について、知っていたり、聞いたことがありますか。

該当するものを選んでください。

安全対策については、全体的に高い認知度となっている。

●安全対策の認知状況について、「家電等のスイッチを勝手に入れられないようにする」以外の項目では、8割以上となっている。



【安全対策の実践状況】

●安全対策の実践状況について、それぞれの項目でばらつきがあるが、「コード類を束ねてつまづかないようにする」「子供用の便座や蓋を使用してトイレの中に落ちないようにする」については、半数以上が実践している。

●「階段や段差に柵をして転落しないようにする」については、「実践している」の割合が低い。

	実践している		実践していない	
	合計	%	合計	%
家具の角にかぶせものをする	93	47.4	92	46.9
たんすや食器棚、流し台のドアが開かないように固定する	92	47.9	90	46.9
部屋のドアを固定し急に閉じないようにする	62	37.3	95	57.2
窓を固定し窓から出られないようにする	67	40.6	92	55.8
コンセントカバー等を使用して感電を防止する	82	43.2	98	51.6
コード類は束ねてつまづかないようにする	90	50.3	79	44.1
家電等のスイッチを勝手に入れられないようにする	47	30.1	99	63.5
子ども用の便座や蓋を使用してトイレの中に落ちないようにする	105	59.7	62	35.2
浴槽の床にマット等を敷きすべらないようにする	71	40.3	98	55.7
階段や段差に柵をして転落しないようにする	55	28.9	126	66.3

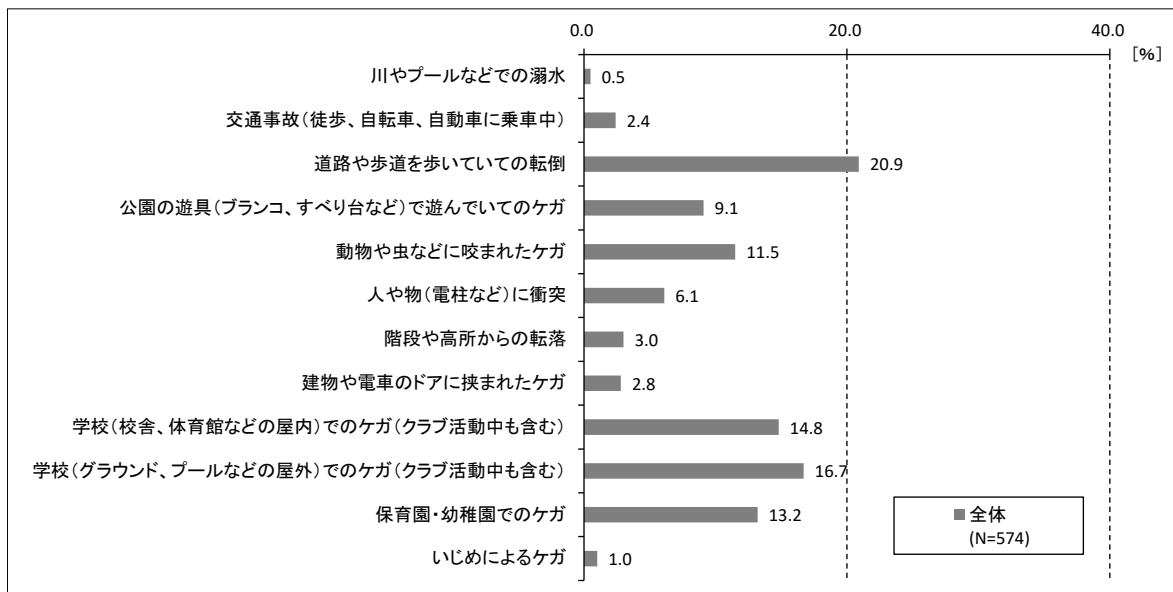
3 「自宅外でのケガや事故」について

(10) 久留米市内でのケガの状況とケガをした際の対応

問 4. お子さんは、過去1年間(平成28年8月以降)に、久留米市内(自宅を除く)で、ケガをされましたか。該当するものを選んでください。

自宅以外でのケガの状況については、「道路や歩道を歩いているの転倒」が最も高い割合となっている

● 自宅以外でのケガの状況については、「道路や歩道を歩いているの転倒」が20.9%で最も高いが、「学校でのケガ」の屋内と屋外をあわせると、31.5%で最多となる。



【自宅以外でケガをした際の状況と対応】

● 子どもが自宅以外でケガをした時に、周りに大人がいたかどうか・医療機関に行ったかどうかをたずねたところ、「保育園・幼稚園でのケガ」では、「大人がいた」割合が高くなっている。

● 「交通事故(徒歩、自転車、自動車に乗車中)」「学校(校舎、体育館などの屋内)でのケガ(クラブ活動中も含む)」「学校(グラウンド、プールなどの屋外)でのケガ(クラブ活動中も含む)」では、「医療機関に行った」割合が高い。

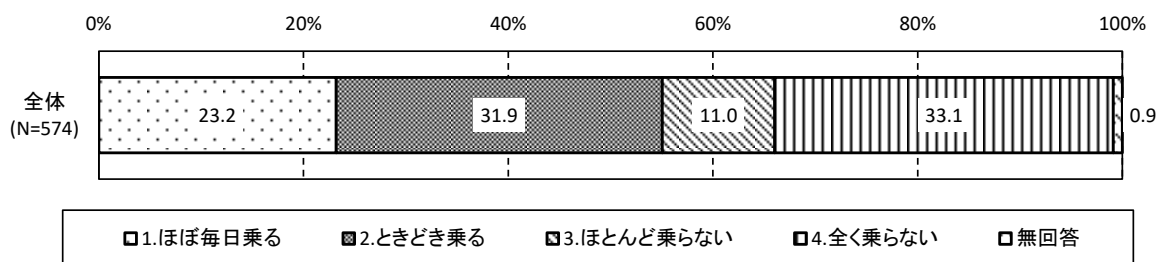
	ケガをした状況		大人がいた		医療機関に行った	
	合計	%	合計	%	合計	%
川やプールなどでの溺水	3	0.5	2	66.7	0	0.0
交通事故(徒歩、自転車、自動車に乗車中)	14	2.4	5	35.7	6	42.9
道路や歩道を歩いているの転倒	120	20.9	76	63.3	7	5.8
公園の遊具(ブランコ、すべり台など)で遊んでいるケガ	52	9.1	34	65.4	3	5.8
動物や虫などに咬まれたケガ	66	11.5	34	51.5	16	24.2
人や物(電柱など)に衝突	35	6.1	20	57.1	4	11.4
階段や高所からの転落	17	3.0	9	52.9	2	11.8
建物や電車のドアに挟まれたケガ	16	2.8	10	62.5	0	0.0
学校(校舎、体育館などの屋内)でのケガ(クラブ活動中も含む)	85	14.8	40	47.1	24	28.2
学校(グラウンド、プールなどの屋外)でのケガ(クラブ活動中も含む)	96	16.7	42	43.8	19	19.8
保育園・幼稚園でのケガ	76	13.2	60	78.9	5	6.6
いじめによるケガ	6	1.0	1	16.7	0	0.0

(1 1) 自転車の利用状況

問 5. お子さんは、普段、自転車に乗りますか。(○はひとつ)

小学生は 7 割弱、中高生は 8 割強が「ほぼ毎日」「ときどき」自転車を利用

●自転車の利用状況は、「ときどき乗る」が 31.9%で最も高く、「ほぼ毎日乗る」は 23.2%となっている。



【属性別特徴】

- 中高生 (13~17 歳) では「ほぼ毎日乗る」の割合が高い。
- 中央南部、西部 A では、「ほぼ毎日乗る」の割合が高い。
- 東部 B、中央部では、「全く乗らない」の割合が高い。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	1. ほぼ毎日乗る	2. ときどき乗る	3. ほとんど乗らない	4. 全く乗らない	無回答	
上段:実数、下段:%								
全 体		574 100.0	133 23.2	183 31.9	63 11.0	190 33.1	5 0.9	
性別	男性	297 100.0	74 24.9	88 29.6	32 10.8	101 34.0	2 0.7	
	女性	264 100.0	55 20.8	90 34.1	30 11.4	86 32.6	3 1.1	
	回答しない	5 100.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	
性別・年代別	未就学 (0~2歳)	男性	58 100.0	0 0.0	4 6.9	2 3.4	52 89.7	0 0.0
		女性	49 100.0	1 2.0	1 2.0	1 2.0	45 91.8	1 2.0
	未就学 (3~6歳)	男性	52 100.0	2 3.8	16 30.8	7 13.5	27 51.9	0 0.0
		女性	43 100.0	4 9.3	12 27.9	6 14.0	21 48.8	0 0.0
	小学生 (6~13歳)	男性	102 100.0	18 17.6	49 48.0	15 14.7	19 18.6	1 1.0
		女性	98 100.0	11 11.2	56 57.1	16 16.3	14 14.3	1 1.0
	中高生 (13~17歳)	男性	84 100.0	53 63.1	19 22.6	8 9.5	3 3.6	1 1.2
		女性	73 100.0	39 53.4	21 28.8	7 9.6	5 6.8	1 1.4

◆表 居住校区别◆

		サンプル数	1. ほぼ毎日乗る	2. ときどき乗る	3. ほとんど乗らない	4. 全く乗らない	無回答
上段:実数、下段:%							
全 体		574 100.0	133 23.2	183 31.9	63 11.0	190 33.1	5 0.9
居住校区	東部A	28 100.0	7 25.0	9 32.1	4 14.3	8 28.6	0 0.0
	東部B	34 100.0	9 26.5	5 14.7	5 14.7	15 44.1	0 0.0
	北部A	57 100.0	10 17.5	20 35.1	7 12.3	20 35.1	0 0.0
	北部B	31 100.0	4 12.9	10 32.3	5 16.1	12 38.7	0 0.0
	中央東部	76 100.0	18 23.7	25 32.9	9 11.8	23 30.3	1 1.3
	南東部	47 100.0	9 19.1	18 38.3	5 10.6	15 31.9	0 0.0
	中央部	90 100.0	12 13.3	32 35.6	7 7.8	38 42.2	1 1.1
	中央南部	81 100.0	25 30.9	23 28.4	7 8.6	25 30.9	1 1.2
	南西部	56 100.0	15 26.8	20 35.7	5 8.9	14 25.0	2 3.6
	西部A	27 100.0	11 40.7	4 14.8	4 14.8	8 29.6	0 0.0
	西部B	42 100.0	12 28.6	16 38.1	5 11.9	9 21.4	0 0.0

4 「自転車事故の防止」について

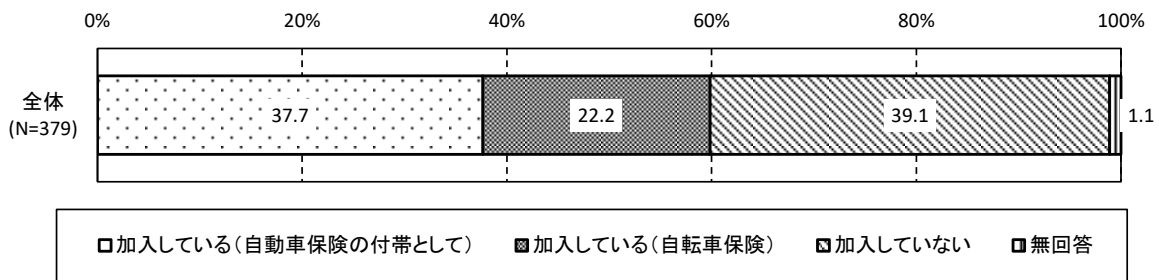
(12) 自転車保険等の加入状況

問5で、「1」～「3」と回答された方にお聞きします。

問5-1. あなたは、お子さんの自転車による加害事故の損害責任に備えて、自転車保険等に加入していますか。(○はひとつ)

自転車保険等の加入状況は、「加入している」人が6割弱

●自転車保険等の加入状況は、「加入している（自動車保険の付帯として）」が37.7%、「加入している（自転車保険）」22.2%となっている。一方、「加入していない」も39.1%存在する。



【属性別特徴】

- 男性・小学性（6～13歳）では、「加入している（自動車保険の付帯として）」の割合が高い。
- 男性・中高生（13～17歳）では、「加入している（自転車保険）」の割合が高い。

◆表 子どもの性別・年代別◆

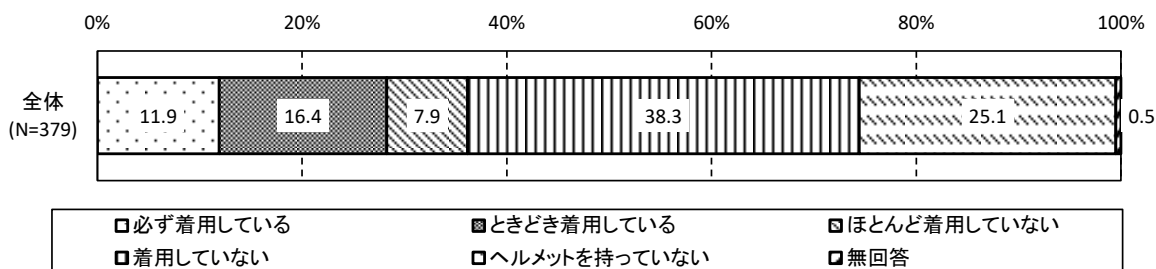
		サンプル数	の加入している(自動車保険の付帯として)	加入している(自転車保険)	加入していない	無回答	
上段:実数、下段:%							
全体		379	143	84	148	4	
		100.0	37.7	22.2	39.1	1.1	
性別	男性	194	80	48	65	1	
		100.0	41.2	24.7	33.5	0.5	
	女性	175	62	35	75	3	
		100.0	35.4	20.0	42.9	1.7	
	回答しない	4	0	1	3	0	
		100.0	0.0	25.0	75.0	0.0	
性別・年代別	未就学(0～2歳)	男性	6	2	0	4	0
			100.0	33.3	0.0	66.7	0.0
		女性	3	0	0	3	0
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
	未就学(3～6歳)	男性	25	7	3	15	0
			100.0	28.0	12.0	60.0	0.0
		女性	22	5	5	12	0
		100.0	22.7	22.7	54.5	0.0	
	小学生(6～13歳)	男性	82	39	19	24	0
			100.0	47.6	23.2	29.3	0.0
	女性	83	31	16	36	0	
	100.0	37.3	19.3	43.4	0.0		
中高生(13～17歳)	男性	80	31	26	22	1	
		100.0	38.8	32.5	27.5	1.3	
	女性	67	26	14	24	3	
	100.0	38.8	20.9	35.8	4.5		

(13) ヘルメットの着用状況

問 5-2. お子さんは、自転車に乗るときに、ヘルメットを着用していますか。(○はひとつ)

ヘルメットの着用状況は、「着用していない」人の割合が高く、「ヘルメットを持っていない」人も多数存在する

●ヘルメットの着用状況について、「着用していない」が 38.3%で最も高く、「ヘルメットを持っていない」も 25.1%となっている。



【属性別特徴】

- 女性・小学生（6～13歳）では、「ときどき着用している」の割合が高い。
- 北部B、中央部、中央南部では、「着用していない」の割合が高い。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	必ず着用している	ときどき着用している	ほとんど着用していない	着用していない	ヘルメットを持っていない	無回答	
上段:実数、下段:%									
全 体		379	45	62	30	145	95	2	
		100.0	11.9	16.4	7.9	38.3	25.1	0.5	
性別	男性	194	22	29	19	76	47	1	
		100.0	11.3	14.9	9.8	39.2	24.2	0.5	
	女性	175	22	31	9	66	46	1	
		100.0	12.6	17.7	5.1	37.7	26.3	0.6	
回答しない		4	0	2	1	1	0	0	
		100.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	
性別・年代別	未就学 (0~2歳)	男性	6	1	2	1	1	1	0
			100.0	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0
	未就学 (3~6歳)	女性	3	1	0	0	0	2	0
			100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
	小学生 (6~13歳)	男性	25	4	5	1	9	6	0
			100.0	16.0	20.0	4.0	36.0	24.0	0.0
	小学生 (6~13歳)	女性	22	3	4	1	8	6	0
			100.0	13.6	18.2	4.5	36.4	27.3	0.0
小学生 (6~13歳)	男性	82	5	9	13	33	22	0	
		100.0	6.1	11.0	15.9	40.2	26.8	0.0	
小学生 (6~13歳)	女性	83	7	19	5	31	21	0	
		100.0	8.4	22.9	6.0	37.3	25.3	0.0	
中高生 (13~17歳)	男性	80	12	13	4	32	18	1	
		100.0	15.0	16.3	5.0	40.0	22.5	1.3	
中高生 (13~17歳)	女性	67	11	8	3	27	17	1	
		100.0	16.4	11.9	4.5	40.3	25.4	1.5	

◆表 居住校区別◆

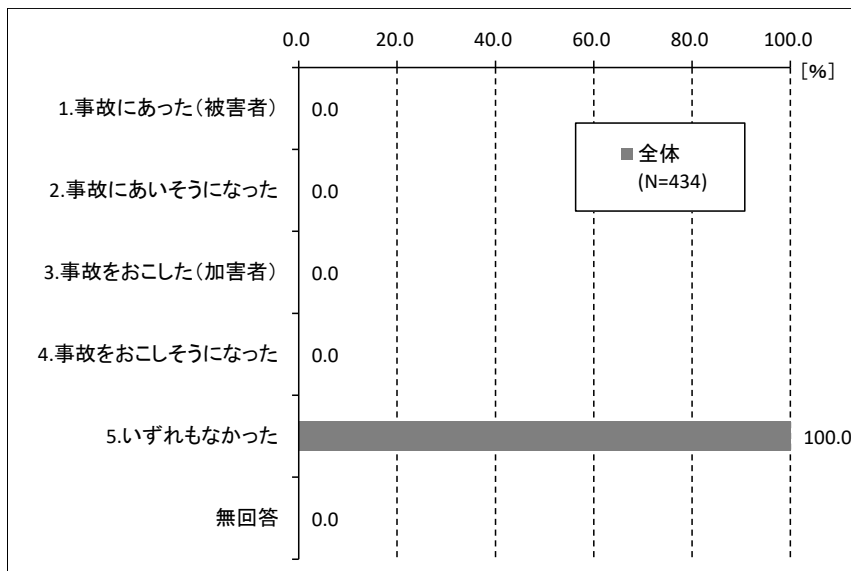
		サンプル数	必ず着用している	ときどき着用している	ほとんど着用していない	着用していない	ヘルメットを持っていない	無回答
上段:実数、下段:%								
全 体		379	45	62	30	145	95	2
		100.0	11.9	16.4	7.9	38.3	25.1	0.5
居住校区	東部A	20	4	2	0	8	6	0
		100.0	20.0	10.0	0.0	40.0	30.0	0.0
	東部B	19	3	3	1	8	4	0
		100.0	15.8	15.8	5.3	42.1	21.1	0.0
	北部A	37	5	3	1	13	15	0
		100.0	13.5	8.1	2.7	35.1	40.5	0.0
	北部B	19	3	1	0	11	4	0
		100.0	15.8	5.3	0.0	57.9	21.1	0.0
	中央東部	52	4	14	2	18	14	0
		100.0	7.7	26.9	3.8	34.6	26.9	0.0
	南東部	32	3	6	7	9	7	0
		100.0	9.4	18.8	21.9	28.1	21.9	0.0
	中央部	51	3	7	4	24	13	0
	100.0	5.9	13.7	7.8	47.1	25.5	0.0	
中央南部	55	3	11	4	26	10	1	
	100.0	5.5	20.0	7.3	47.3	18.2	1.8	
南西部	40	6	5	5	14	10	0	
	100.0	15.0	12.5	12.5	35.0	25.0	0.0	
西部A	19	7	4	0	1	6	1	
	100.0	36.8	21.1	0.0	5.3	31.6	5.3	
西部B	33	4	6	6	12	5	0	
	100.0	12.1	18.2	18.2	36.4	15.2	0.0	

4 「自転車事故の防止」について

(14) 交通事故にあった又はあいそうになった経験（バイクの運転中）

問 6-a. お子さんは、過去1年間（平成28年8月以降）に、「バイクの運転中」「自転車の運転中」「歩行中」に、交通事故にあった又はあいそうになったことがありますか。

バイクの運転中に交通事故にあいそうになった経験はなし

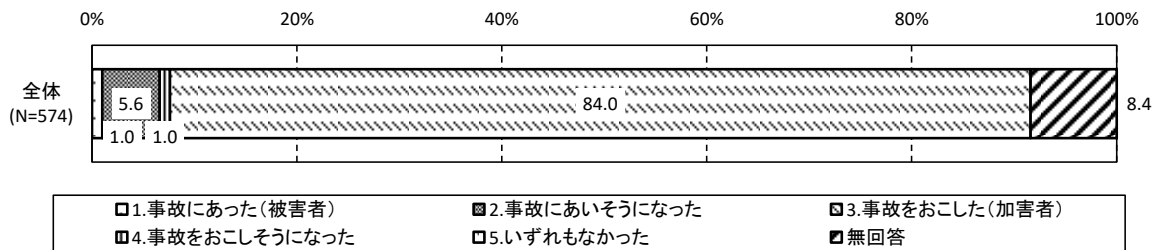


(15) 交通事故にあった又はあいそうになった経験（自転車の運転中）

問 6-b. お子さんは、過去1年間（平成28年8月以降）に、「バイクの運転中」「自転車の運転中」「歩行中」に、交通事故にあった又はあいそうになったことがありますか。

小学生、中高生の約1割は自転車の運転中に「事故にあった」「事故にあいそうになった」ことがある

●全体では、交通事故にあった又はあいそうになった経験は、「事故にあいそうになった」が5.6%、「事故にあった（被害者）」が1.0%となっている。



【属性別特徴】

●中高生（13～17歳）では、「事故にあいそうになった」割合がやや高い。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	1. 事故にあった(被害者)	2. 事故にあいそうになった	3. 事故をおこした(加害者)	4. 事故をおこしそうになった	5. いずれもなかった	無回答	
		上段:実数、下段:%							
全体		574	6	32	0	6	482	48	
		100.0	1.0	5.6	0.0	1.0	84.0	8.4	
性別	男性	297	2	19	0	4	242	30	
		100.0	0.7	6.4	0.0	1.3	81.5	10.1	
	女性	264	4	12	0	2	228	18	
		100.0	1.5	4.5	0.0	0.8	86.4	6.8	
	回答しない	5	0	0	0	0	5	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
性別・年代別	未就学(0~2歳)	男性	58	0	1	0	0	48	9
			100.0	0.0	1.7	0.0	0.0	82.8	15.5
	未就学(3~6歳)	女性	49	0	0	0	1	43	5
			100.0	0.0	0.0	0.0	2.0	87.8	10.2
	小学生(6~13歳)	男性	52	0	1	0	0	43	8
			100.0	0.0	1.9	0.0	0.0	82.7	15.4
	小学生(6~13歳)	女性	43	0	0	0	0	40	3
			100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	93.0	7.0
	中高生(13~17歳)	男性	102	0	8	0	2	84	8
			100.0	0.0	7.8	0.0	2.0	82.4	7.8
	中高生(13~17歳)	女性	98	1	5	0	1	84	7
			100.0	1.0	5.1	0.0	1.0	85.7	7.1
中高生(13~17歳)	男性	84	2	9	0	2	66	5	
		100.0	2.4	10.7	0.0	2.4	78.6	6.0	
中高生(13~17歳)	女性	73	3	7	0	0	60	3	
		100.0	4.1	9.6	0.0	0.0	82.2	4.1	

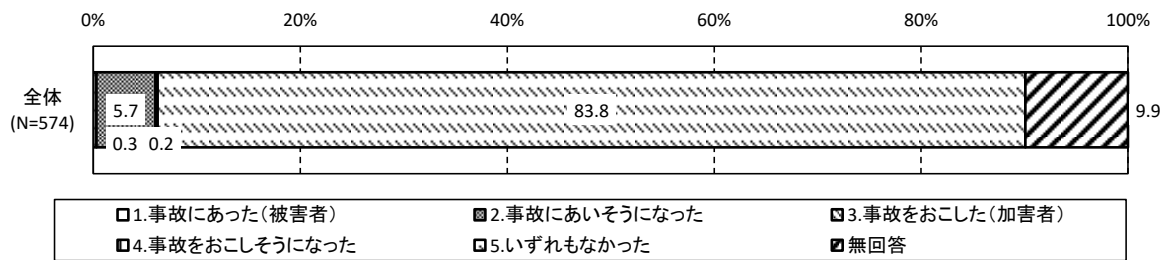
4 「自転車事故の防止」について

(16) 交通事故にあった又はあいそうになった経験（歩行中）

問 6-c. お子さんは、過去1年間（平成28年8月以降）に、「バイクの運転中」「自転車の運転中」「歩行中」に、交通事故にあった又はあいそうになったことがありますか。

歩行中に「事故にあいそうになった」人は1割未満

● 交通事故にあった又はあいそうになった経験は、「事故にあいそうになった」が5.7%となっている。



【属性別特徴】

● 属性別では、特に大きな差はみられない。

◆ 表 子どもの性別・年代別 ◆

		サンプル数	1. 事故にあった(被害者)	2. 事故にあいそうになった	3. 事故をおこした(加害者)	4. 事故をおこしそうになった	5. いずれもなかった	無回答	
		上段:実数、下段:%							
全体		574	2	33	0	1	481	57	
		100.0	0.3	5.7	0.0	0.2	83.8	9.9	
性別	男性	297	0	23	0	1	239	34	
		100.0	0.0	7.7	0.0	0.3	80.5	11.4	
	女性	264	2	10	0	0	229	23	
		100.0	0.8	3.8	0.0	0.0	86.7	8.7	
	回答しない	5	0	0	0	0	5	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
性別・年代別	未就学(0~2歳)	男性	58	0	5	0	0	45	8
			100.0	0.0	8.6	0.0	0.0	77.6	13.8
	未就学(3~6歳)	女性	49	1	2	0	0	43	3
			100.0	2.0	4.1	0.0	0.0	87.8	6.1
	小学生(6~13歳)	男性	52	0	4	0	0	41	7
			100.0	0.0	7.7	0.0	0.0	78.8	13.5
	小学生(6~13歳)	女性	43	0	0	0	0	41	2
			100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	95.3	4.7
	中高生(13~17歳)	男性	102	0	9	0	1	87	5
			100.0	0.0	8.8	0.0	1.0	85.3	4.9
	中高生(13~17歳)	女性	98	1	6	0	0	84	7
			100.0	1.0	6.1	0.0	0.0	85.7	7.1
中高生(13~17歳)	男性	84	0	5	0	0	65	14	
		100.0	0.0	6.0	0.0	0.0	77.4	16.7	
中高生(13~17歳)	女性	73	0	2	0	0	60	11	
		100.0	0.0	2.7	0.0	0.0	82.2	15.1	

(17)交通事故にあった又はあいそうになったときの状況

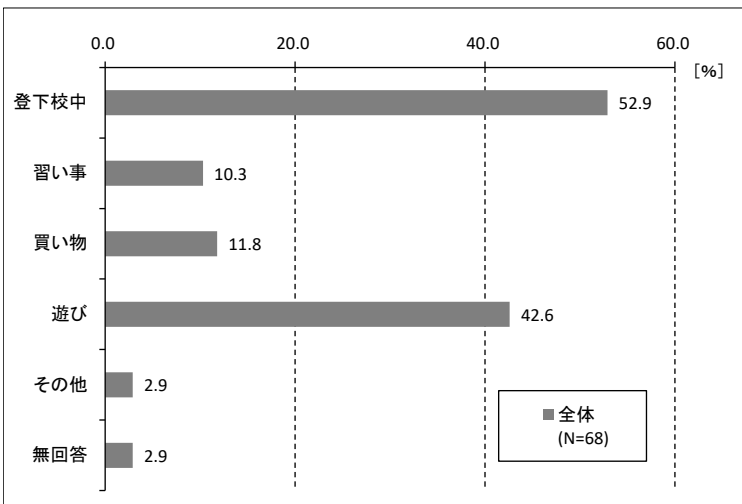
問6で「5」以外と回答された方にお聞きします。

問6-1. お子さんは、どのようなときに交通事故にあった又はあいそうになりましたか。

(あてはまるものすべてに○)

交通事故にあった又はあいそうになったときの状況は、「登下校中」が過半数

●交通事故にあったまたはあいそうになったときの状況については、「登下校中」が52.9%で最も高く、次いで「遊び」が42.6%となっている。



【属性別特徴】

- 女性では、「登下校中」の割合が高く「遊び」の割合が低い。
- 男性・小学生（6～13歳）では、「遊び」の割合が高い。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	登下校中	習い事	買い物	遊び	その他	無回答	
上段:実数、下段:%									
全体		68	36	7	8	29	2	2	
		100.0	52.9	10.3	11.8	42.6	2.9	2.9	
性別	男性	41	19	5	4	20	1	1	
		100.0	46.3	12.2	9.8	48.8	2.4	2.4	
	女性	26	17	2	4	8	1	1	
		100.0	65.4	7.7	15.4	30.8	3.8	3.8	
	回答しない	0	0	0	0	0	0	0	
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別・年代別	未就学 (0～2歳)	男性	5	1	1	3	1	0	0
			100.0	20.0	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0
	未就学 (3～6歳)	女性	4	2	0	0	1	1	0
			100.0	50.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0
	小学生 (6～13歳)	男性	4	1	0	0	3	0	0
			100.0	25.0	0.0	0.0	75.0	0.0	0.0
	小学生 (6～13歳)	女性	0	0	0	0	0	0	0
			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小学生 (6～13歳)	男性	16	7	2	1	9	1	0
			100.0	43.8	12.5	6.3	56.3	6.3	0.0
	小学生 (6～13歳)	女性	11	6	1	3	6	0	0
			100.0	54.5	9.1	27.3	54.5	0.0	0.0
中高生 (13～17歳)	男性	16	10	2	0	7	0	1	
		100.0	62.5	12.5	0.0	43.8	0.0	6.3	
中高生 (13～17歳)	女性	11	9	1	1	1	0	1	
		100.0	81.8	9.1	9.1	9.1	0.0	9.1	

5 「児童虐待の防止」について

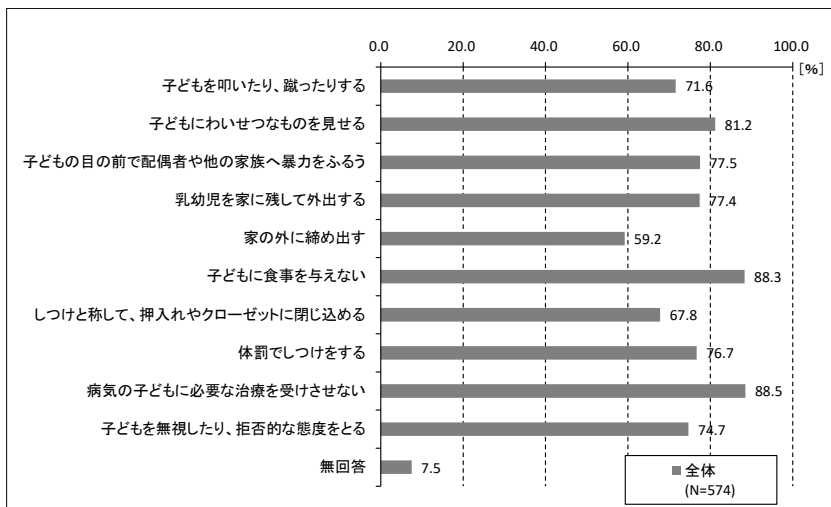
(18) 虐待にあたると思う行為（保護者）

問7. あなたは、次の行為は児童虐待にあたると思いますか。（あてはまるものすべてに

○)

虐待にあたると思う行為については、いずれの項目も半数以上

●虐待にあたると思う行為について、「子どもにわいせつなものを見せる」「子どもに食事を与えない」「病気の子どもの必要な治療を受けさせない」では8割を超えているが、「家の外に締め出す」は6割弱、「子どもを叩いたり、蹴ったりする」が7割強にとどまっている。



【属性別特徴】

- 「子どもを叩いたり、蹴ったりする」の割合が20代ではやや高く、40代ではやや低い。
- 「家の外に締め出す」の行為は、子どもの年齢が上がるにしたがって割合が低くなっている。

◆表 保護者の性別・年代別◆

保護者の性別・年代別	サンプル数	行為											無回答
		子どもを叩いたり、蹴ったりする	子どもにわいせつなものを見せる	子どもの目の前で配偶者や他の家族へ暴力をふるう	乳幼児を家に残して外出する	家の外に締め出す	子どもに食事を与えない	しつけと称して、押入れやクローゼットに閉じ込める	体罰でしつけをする	病気の子どもの必要な治療を受けさせない	子どもを無視したり、拒否的な態度をとる	無回答	
全体	574	411	466	445	444	340	507	359	440	508	429	43	
男性	186	132	146	142	146	115	162	122	136	164	134	18	
女性	379	272	311	294	290	222	338	262	297	335	289	25	
回答しない	6	5	6	6	6	2	6	4	5	6	4	0	
20代	8	7	8	7	7	7	7	7	6	8	8	0	
30代	26	21	24	20	24	17	25	21	22	25	22	1	
40代	59	43	52	48	50	42	57	42	46	57	46	2	
50代以上	147	113	117	115	118	89	131	100	121	128	109	10	

◆表 子どもの性別・年代別◆

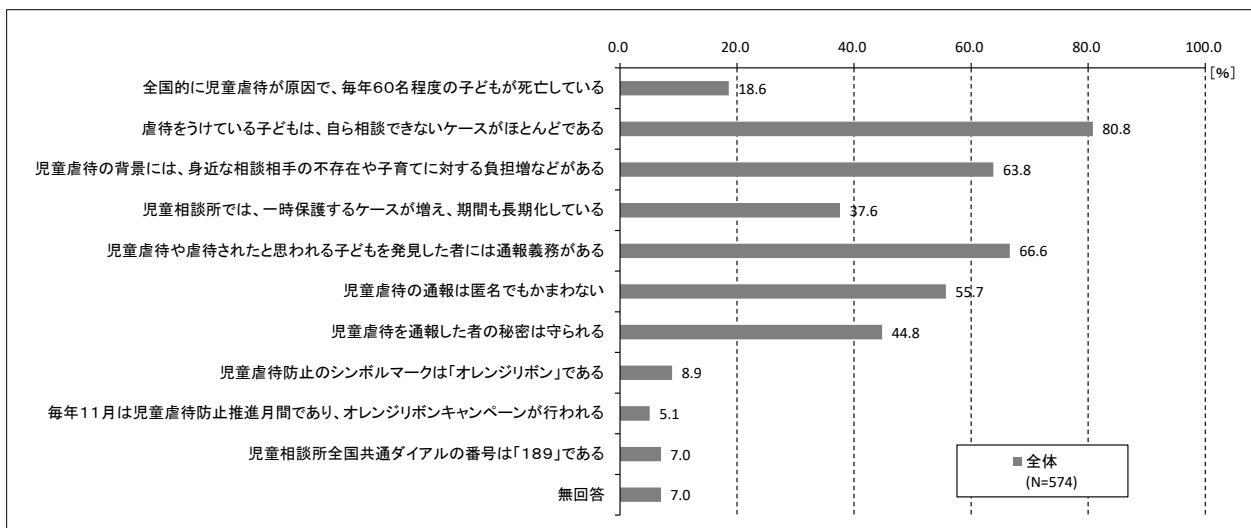
子どもの性別・年代別	サンプル数	行為											無回答
		子どもを叩いたり、蹴ったりする	子どもにわいせつなものを見せる	子どもの目の前で配偶者や他の家族へ暴力をふるう	乳幼児を家に残して外出する	家の外に締め出す	子どもに食事を与えない	しつけと称して、押入れやクローゼットに閉じ込める	体罰でしつけをする	病気の子どもの必要な治療を受けさせない	子どもを無視したり、拒否的な態度をとる	無回答	
全体	574	411	466	445	444	340	507	359	440	508	429	43	
男性	297	203	236	231	227	173	262	200	232	269	222	21	
女性	264	199	219	205	207	162	234	183	199	228	198	20	
回答しない	5	4	5	5	5	2	5	3	4	5	4	0	
未就学 (0~2歳)	58	40	49	45	49	41	53	44	47	53	45	5	
3~6歳	43	33	36	33	33	29	39	29	36	39	36	2	
小学生 (6~11歳)	98	70	82	77	81	55	90	68	69	85	71	5	
中学生 (13~17歳)	84	57	64	62	61	45	75	52	70	76	61	5	

(19) 虐待に関わる情報の認知度（保護者）

問 8. あなたは、児童虐待について、次のことを知っていますか。（あてはまるものすべてに○）

8割以上の人々が「虐待を受けている子どもは、自ら相談できないケースがほとんどである」と認知している

- 虐待に関わる情報の認知度について、「虐待を受けている子どもは、自ら相談できないケースがほとんどである」が 80.8% と大半占める。
- 「児童虐待の背景には、身近な相談相手の不存在や子育てに対する負担増などがある」「児童虐待や虐待されたと思われる子どもを発見した者には通報義務がある」も 6割以上の人々が認識している。
- 一方で、「全国的に児童虐待が原因で、毎年 60 名程度の子どもが死亡している」や「オレンジリボン」や「全国共通ダイヤル」についての認知度が低い。



5 「児童虐待の防止」について

【属性別特徴】

- 50代以上の男女では、多くの項目で認知度の差が大きい。

◆表 保護者の性別・年代別◆

		サンプル数	亡年60名程に児童虐待が原因で死している	全国的に児童虐待が増えている	自ら相談できないケースは、ほとんどである	虐待をうけている子どもは、虐待をうけていない子どもと比べて、負担が増えている	相談相手の存在が、身近にない	児童相談所の背景には、身近な関係者がいる	児童相談所では、一時保護期間も長期化する	児童虐待や虐待された者には、通報義務がある	児童虐待の通報は匿名でもかまわない	児童虐待の通報した者の秘密は守られる	児童虐待防止のシンボルマークは「オレンジリボン」である	進月間11月は児童虐待防止推進キャンペーンが行われる	児童相談所全国共通ダイヤルの番号は「189」である	無回答
		上段:実数、下段:%														
全体		574 100.0	107 18.6	464 80.8	366 63.8	216 37.6	382 66.6	320 55.7	257 44.8	51 8.9	29 5.1	40 7.0	40 7.0			
保護者の性別	男性	186 100.0	37 19.9	146 78.5	115 61.8	76 40.9	118 63.4	95 51.1	85 45.7	21 11.3	13 7.0	19 10.2	18 9.7			
	女性	379 100.0	66 17.4	310 81.8	245 64.6	135 35.6	260 68.6	220 58.0	168 44.3	26 6.9	15 4.0	20 5.3	21 5.5			
	回答しない	6 100.0	4 66.7	6 100.0	4 66.7	4 66.7	4 66.7	4 66.7	3 50.0	3 50.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0			
保護者の性別・年代別	20代	男性	8 100.0	1 12.5	8 100.0	6 75.0	3 37.5	8 100.0	6 75.0	6 75.0	0 0.0	0 0.0	2 25.0	0 0.0		
		女性	26 100.0	1 3.8	20 76.9	19 73.1	5 19.2	18 69.2	14 53.8	13 50.0	1 3.8	1 3.8	1 3.8	2 7.7		
	30代	男性	59 100.0	11 18.6	46 78.0	38 64.4	18 30.5	34 57.6	24 40.7	22 37.3	9 15.3	5 8.5	4 6.8	6 10.2		
		女性	147 100.0	23 15.6	116 78.9	94 63.9	36 24.5	95 64.6	78 53.1	55 37.4	12 8.2	8 5.4	7 4.8	9 6.1		
	40代	男性	79 100.0	18 22.8	61 77.2	48 60.8	36 45.6	54 68.4	45 57.0	40 50.6	10 12.7	7 8.9	11 13.9	9 11.4		
		女性	169 100.0	33 19.5	142 84.0	106 62.7	72 42.6	120 71.0	111 65.7	84 49.7	8 4.7	5 3.0	10 5.9	8 4.7		
50代以上	男性	34 100.0	6 17.6	26 76.5	19 55.9	16 47.1	17 50.0	17 50.0	15 44.1	1 2.9	0 0.0	1 2.9	3 8.8			
	女性	26 100.0	8 30.8	25 96.2	20 76.9	18 69.2	21 80.8	14 53.8	13 50.0	4 15.4	1 3.8	1 3.8	0 0.0			

- 広報紙を毎月必ず読む人は、多くの項目で認知度が高い。

◆表 広報紙の閲読状況別◆

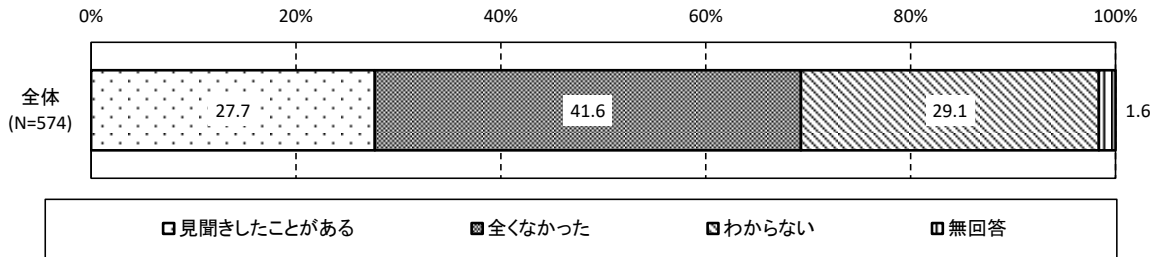
		サンプル数	亡年60名程に児童虐待が原因で死している	全国的に児童虐待が増えている	自ら相談できないケースは、ほとんどである	虐待をうけている子どもは、虐待をうけていない子どもと比べて、負担が増えている	相談相手の存在が、身近にない	児童相談所の背景には、身近な関係者がいる	児童相談所では、一時保護期間も長期化する	児童虐待や虐待された者には、通報義務がある	児童虐待の通報は匿名でもかまわない	児童虐待の通報した者の秘密は守られる	児童虐待防止のシンボルマークは「オレンジリボン」である	進月間11月は児童虐待防止推進キャンペーンが行われる	児童相談所全国共通ダイヤルの番号は「189」である	無回答
		上段:実数、下段:%														
全体		574 100.0	107 18.6	464 80.8	366 63.8	216 37.6	382 66.6	320 55.7	257 44.8	51 8.9	29 5.1	40 7.0	40 7.0			
「広報 読る め」 の 閲 読 状 況	毎月必ず読む	252 100.0	59 23.4	206 81.7	169 67.1	113 44.8	176 69.8	159 63.1	132 52.4	27 10.7	17 6.7	27 10.7	12 4.8			
	ときどき読む	190 100.0	28 14.7	154 81.1	116 61.1	61 32.1	121 63.7	91 47.9	74 38.9	16 8.4	7 3.7	8 4.2	14 7.4			
	あまり読まない	82 100.0	11 13.4	65 79.3	50 61.0	26 31.7	54 65.9	39 47.6	30 36.6	4 4.9	3 3.7	2 2.4	8 9.8			
	まったく読まない	49 100.0	9 18.4	38 77.6	30 61.2	15 30.6	30 61.2	30 61.2	20 40.8	4 8.2	2 4.1	3 6.1	6 12.2			

(20) 児童虐待を見聞きした経験の有無（保護者）

問 9. あなたは、児童虐待を見聞きしたことがありますか。（○はひとつ）

児童虐待を見聞きした経験は、「見聞きしたことがある」人が 3 割弱

● 児童虐待を見聞きした経験の有無については、「見聞きしたことがある」が 27.7% となっている。



【属性別特徴】

● 女性では、「見聞きしたことがある」の割合が男性より高い。男性では、20、30代で「全くなかった」が5割を超えている。

◆ 表 保護者の性別・年代別 ◆

		サンプル数	見聞きしたことがある	全くなかった	わからない	無回答	
上段:実数、下段:%							
全 体		574	159	239	167	9	
		100.0	27.7	41.6	29.1	1.6	
保護者の性別	男性	186	48	77	59	2	
		100.0	25.8	41.4	31.7	1.1	
	女性	379	109	158	105	7	
		100.0	28.8	41.7	27.7	1.8	
	回答しない	6	2	2	2	0	
		100.0	33.3	33.3	33.3	0.0	
保護者の性別・年代別	20代	男性	8	1	5	2	0
			100.0	12.5	62.5	25.0	0.0
	女性	26	8	11	7	0	
		100.0	30.8	42.3	26.9	0.0	
	30代	男性	59	9	30	20	0
			100.0	15.3	50.8	33.9	0.0
	女性	147	35	71	39	2	
		100.0	23.8	48.3	26.5	1.4	
	40代	男性	79	25	28	25	1
			100.0	31.6	35.4	31.6	1.3
女性	169	55	61	49	4		
	100.0	32.5	36.1	29.0	2.4		
50代以上	男性	34	9	12	12	1	
		100.0	26.5	35.3	35.3	2.9	
女性	26	8	10	8	0		
	100.0	30.8	38.5	30.8	0.0		

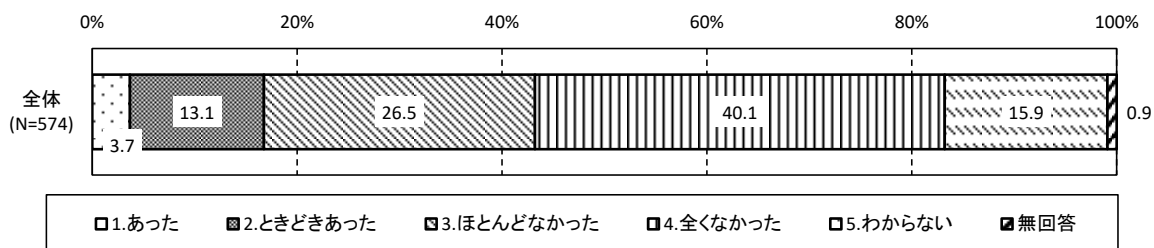
5 「児童虐待の防止」について

(2 1) 虐待をしたと思った経験の有無（保護者）

問 10. あなたは、これまで自分が児童虐待をしているのではないかと思うことがありましたか。（○はひとつ）

2 割弱が『あり』と回答、『わからない』も 1 割以上存在する

●虐待をしたと思った経験の有無は、「あった」「ときどきあった」を合わせた割合は 2 割弱となっている。



【属性別特徴】

●小学生（6～13歳）がいる世帯の女性は、「あった」「ときどきあった」を合わせた割合が 3 割弱となっている。未就学（0～2歳）がいる世帯の女性では、「あった」「ときどきあった」の割合は 1 割を超えている。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	1. あった	2. ときどきあった	3. ほとんどなかった	4. 全くなかった	5. わからない	無回答	
上段:実数、下段:%									
全 体		574	21	75	152	230	91	5	
		100.0	3.7	13.1	26.5	40.1	15.9	0.9	
性別	男性	297	8	39	89	111	48	2	
		100.0	2.7	13.1	30.0	37.4	16.2	0.7	
	女性	264	11	35	62	114	39	3	
		100.0	4.2	13.3	23.5	43.2	14.8	1.1	
	回答しない	5	1	1	0	1	2	0	
		100.0	20.0	20.0	0.0	20.0	40.0	0.0	
性別・年代別	未就学 (0～2歳)	男性	58	0	5	14	33	6	0
			100.0	0.0	8.6	24.1	56.9	10.3	0.0
	未就学 (3～6歳)	女性	49	1	5	8	29	5	1
			100.0	2.0	10.2	16.3	59.2	10.2	2.0
	小学生 (6～13歳)	男性	52	0	8	16	19	9	0
			100.0	0.0	15.4	30.8	36.5	17.3	0.0
	中高生 (13～17歳)	女性	43	1	3	12	16	11	0
			100.0	2.3	7.0	27.9	37.2	25.6	0.0
	小学生 (6～13歳)	男性	102	4	19	29	32	16	2
			100.0	3.9	18.6	28.4	31.4	15.7	2.0
	中高生 (13～17歳)	女性	98	7	21	24	33	13	0
			100.0	7.1	21.4	24.5	33.7	13.3	0.0
未就学 (0～2歳)	男性	84	4	6	30	27	17	0	
		100.0	4.8	7.1	35.7	32.1	20.2	0.0	
未就学 (3～6歳)	女性	73	2	6	18	35	10	2	
		100.0	2.7	8.2	24.7	47.9	13.7	2.7	

● 40代・女性では、「あった」の割合が6割を超えており、他の年代を大きく上回っている。20代・女性では、「ときどきあった」が4分の1を超えている。

◆表 保護者の性別・年代別◆

		サンプル数	1・あった	2・ときどきあった	3・ほとんどなかった	4・全くなかった	5・わからない	無回答	
上段:実数、下段:%									
全体		574 100.0	21 3.7	75 13.1	152 26.5	230 40.1	91 15.9	5 0.9	
保護者の性別	男性	186 100.0	4 2.2	17 9.1	49 26.3	87 46.8	27 14.5	2 1.1	
	女性	379 100.0	16 4.2	56 14.8	102 26.9	141 37.2	61 16.1	3 0.8	
	回答しない	6 100.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	1 16.7	3 50.0	0 0.0	
保護者の性別・年代別	20代	男性	8 100.0	0 0.0	0 0.0	3 37.5	4 50.0	1 12.5	0 0.0
		女性	26 100.0	0 0.0	7 26.9	8 30.8	9 34.6	2 7.7	0 0.0
	30代	男性	59 100.0	1 1.7	6 10.2	16 27.1	27 45.8	9 15.3	0 0.0
		女性	147 100.0	4 2.7	20 13.6	35 23.8	58 39.5	30 20.4	0 0.0
	40代	男性	79 100.0	3 3.8	6 7.6	17 21.5	40 50.6	11 13.9	2 2.5
		女性	169 100.0	12 7.1	25 14.8	48 28.4	59 34.9	23 13.6	2 1.2
	50代以上	男性	34 100.0	0 0.0	4 11.8	12 35.3	13 38.2	5 14.7	0 0.0
		女性	26 100.0	0 0.0	3 11.5	8 30.8	11 42.3	4 15.4	0 0.0

● 親・子・孫（3世代）では、「ときどきあった」の割合が他に比べて高い。

◆表 家族構成別◆

		サンプル数	1・あった	2・ときどきあった	3・ほとんどなかった	4・全くなかった	5・わからない	無回答
上段:実数、下段:%								
全体		574 100.0	21 3.7	75 13.1	152 26.5	230 40.1	91 15.9	5 0.9
家族構成	単身	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0
	夫婦のみ	7 100.0	0 0.0	0 0.0	2 28.6	5 71.4	0 0.0	0 0.0
	親・子(2世代)	444 100.0	17 3.8	53 11.9	126 28.4	178 40.1	66 14.9	4 0.9
	親・子・孫(3世代)	101 100.0	3 3.0	19 18.8	20 19.8	37 36.6	21 20.8	1 1.0
	その他	13 100.0	1 7.7	1 7.7	1 7.7	7 53.8	3 23.1	0 0.0

5 「児童虐待の防止」について

(22) 自身の行為について感じる事 (保護者)

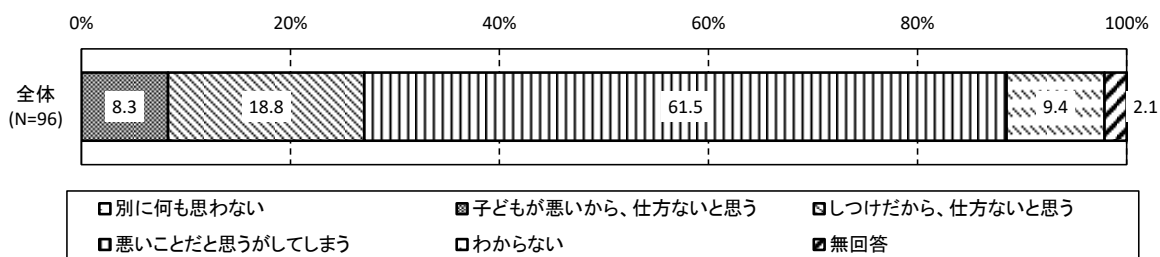
問 10 で、「1」又は「2」と回答された方にお聞きします。

問 10-1. あなたは、問 10 でお答えいただいた行為について、どう思っていますか。

(○はひとつ)

『悪いことだと思うがしてしまう』が 6 割以上

●自身の行為について感じる事について、「悪いことだと思うがしてしまう」が、6割以上、一方で、「子どもが悪いから、仕方ないと思う」「しつけだから、仕方ないと思う」の割合を合わせると、3割弱となっている。



【属性別特徴】

●20代、40代の女性は、「子どもが悪いから、仕方ないと思う」「しつけだから、仕方ないと思う」の割合が、他の年代に比べて高い。

◆表 保護者の性別・年代別◆

		サンプル数	別に何も思わない	子どもが悪いから、仕方ないと思う	しつけだから、仕方ないと思う	悪いことだと思うがしてしまう	わからない	無回答	
上段:実数、下段:%									
全 体		96	0	8	18	59	9	2	
		100.0	0.0	8.3	18.8	61.5	9.4	2.1	
保護者の性別	男性	21	0	2	1	15	2	1	
		100.0	0.0	9.5	4.8	71.4	9.5	4.8	
	女性	72	0	6	15	43	7	1	
		100.0	0.0	8.3	20.8	59.7	9.7	1.4	
	回答しない	2	0	0	1	1	0	0	
		100.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	
保護者の性別・年代別	20代	男性	0	0	0	0	0	0	0
			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30代	女性	7	0	1	2	3	1	0
			100.0	0.0	14.3	28.6	42.9	14.3	0.0
	40代	男性	7	0	0	0	5	2	0
			100.0	0.0	0.0	0.0	71.4	28.6	0.0
	50代以上	女性	24	0	1	2	17	4	0
			100.0	0.0	4.2	8.3	70.8	16.7	0.0
20代	男性	9	0	1	0	7	0	1	
		100.0	0.0	11.1	0.0	77.8	0.0	11.1	
30代	女性	37	0	4	9	21	2	1	
		100.0	0.0	10.8	24.3	56.8	5.4	2.7	
40代	男性	4	0	1	0	3	0	0	
		100.0	0.0	25.0	0.0	75.0	0.0	0.0	
50代以上	女性	3	0	0	1	2	0	0	
		100.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	

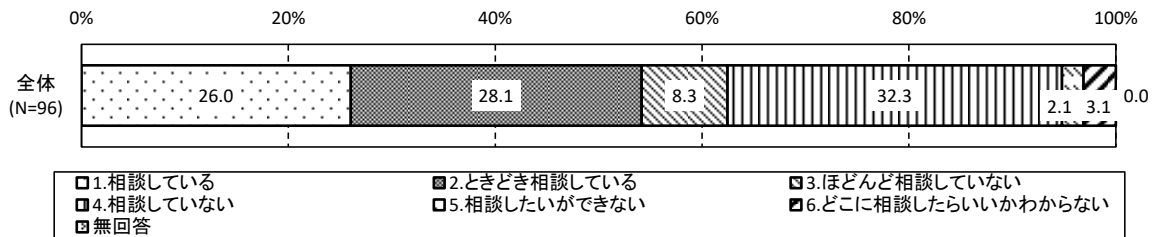
(23)自身の虐待行為についての相談状況（保護者）

問 10-2. あなたは、問 10 でお答えいただいた行為について、相談していますか。

(○はひとつ)

自身の虐待行為について、5割以上の方が『相談している』

●自身の虐待行為について、「相談している」「ときどき相談している」を合わせると5割以上の方が相談している。一方で、「相談していない」人も3割以上となっている。



【属性別特徴】

●40代の女性では、「ほとんど相談していない」「相談していない」を合わせると5割を超えている。

●しつけだから仕方ないと思う人では、「相談していない」の割合が高い。

◆表 保護者の性別・年代別◆

		サンプル数	1.相談している	2.ときどき相談している	3.ほとんど相談していない	4.相談していない	5.相談したいができない	6.どこに相談したらいいかわからない	
上段:実数、下段:%									
全体		96	25	27	8	31	2	3	
		100.0	26.0	28.1	8.3	32.3	2.1	3.1	
保護者の性別	男性	21	5	7	2	7	0	0	
		100.0	23.8	33.3	9.5	33.3	0.0	0.0	
	女性	72	20	18	6	23	2	3	
	100.0	27.8	25.0	8.3	31.9	2.8	4.2		
	回答しない	2	0	1	0	1	0	0	
		100.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	
保護者の性別・年代別	20代	男性	0	0	0	0	0	0	
			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		女性	7	3	2	0	2	0	0
		100.0	42.9	28.6	0.0	28.6	0.0	0.0	
	30代	男性	7	2	3	0	2	0	0
			100.0	28.6	42.9	0.0	28.6	0.0	0.0
		女性	24	8	8	0	5	1	2
		100.0	33.3	33.3	0.0	20.8	4.2	8.3	
	40代	男性	9	3	2	1	3	0	0
			100.0	33.3	22.2	11.1	33.3	0.0	0.0
		女性	37	9	7	5	14	1	1
		100.0	24.3	18.9	13.5	37.8	2.7	2.7	
50代以上	男性	4	0	1	1	2	0	0	
		100.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	
	女性	3	0	1	0	2	0	0	
	100.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0		

◆表 自身の行為について感じる事別◆

		サンプル数	1.相談している	2.ときどき相談している	3.ほとんど相談していない	4.相談していない	5.相談したいができない	6.どこに相談したらいいかわからない
上段:実数、下段:%								
全体		96	25	27	8	31	2	3
		100.0	26.0	28.1	8.3	32.3	2.1	3.1
自身の行為について感じる	別に何も思わない	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	子どもが悪いから、仕方ないと思う	8	1	3	1	3	0	0
		100.0	12.5	37.5	12.5	37.5	0.0	0.0
	しつけだから、仕方ないと思う	18	4	4	2	8	0	0
	100.0	22.2	22.2	11.1	44.4	0.0	0.0	
悪いことだと思うがしてしまふ	59	15	18	5	16	2	3	
	100.0	25.4	30.5	8.5	27.1	3.4	5.1	
わからない	9	5	2	0	2	0	0	
	100.0	55.6	22.2	0.0	22.2	0.0	0.0	

5 「児童虐待の防止」について

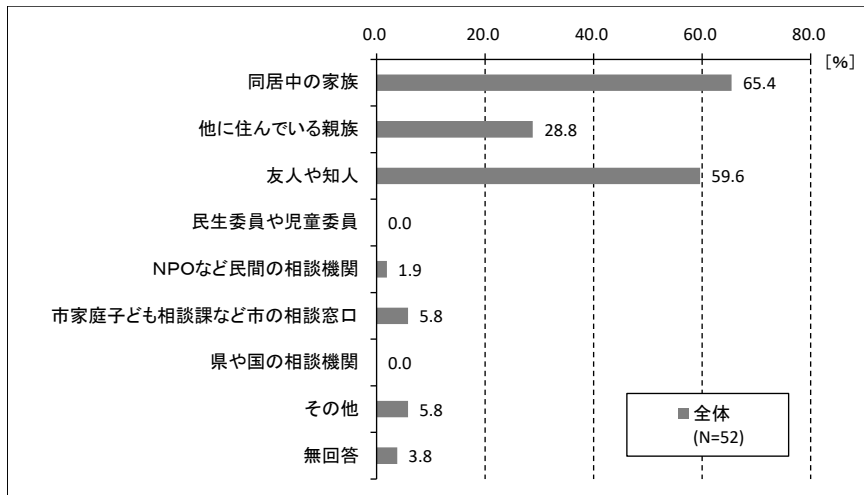
(24) 相談相手（保護者）

問 10-2 で、「1」又は「2」と回答された方にお聞きします。

問 10-3. あなたは、誰に相談していますか。（あてはまるものすべてに○）

相談相手は『同居中の家族』が7割弱、『友人や知人』が6割弱

●相談相手について、「同居中の家族」が65.4%で最も高く、「友人や知人」59.6%と続く。一方で、「市の相談窓口」や「県や国の相談機関」に相談している割合が非常に低い。



【属性別特徴】

●年代を問わず、「同居中の家族」「友人や知人」に相談する割合が高い一方、「市の相談窓口」や「県や国の相談機関」に相談している割合が低い。

◆表 保護者の性別・年代別◆

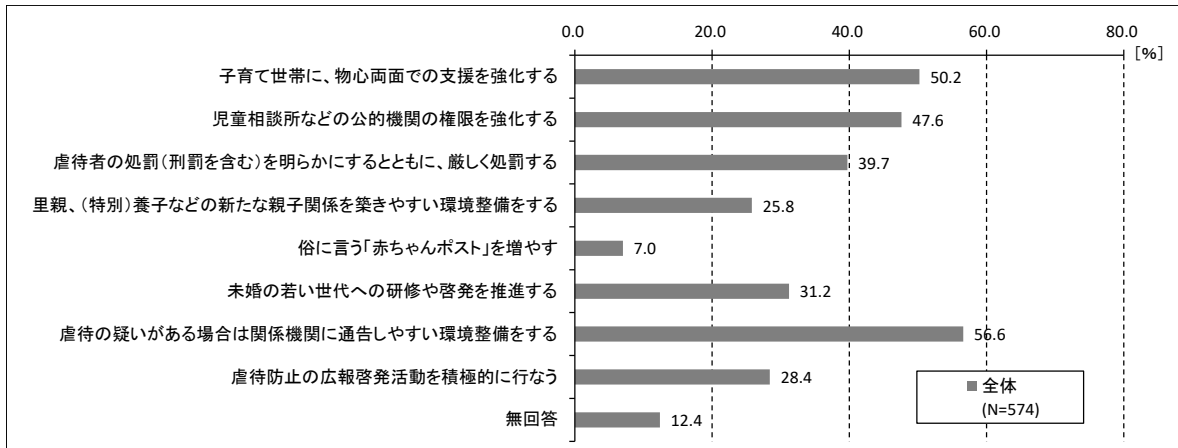
		サンプル数	同居中の家族	他に住んでいる親族	友人や知人	民生委員や児童委員	NPOなど民間の相談機関	市家庭子ども相談課など市の相談窓口	県や国の相談機関	その他	無回答	
上段:実数、下段:%												
全体		52	34	15	31	0	1	3	0	3	2	
		100.0	65.4	28.8	59.6	0.0	1.9	5.8	0.0	5.8	3.8	
保護者の性別	男性	12	7	3	6	0	0	1	0	0	1	
		100.0	58.3	25.0	50.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3	
	女性	38	26	11	24	0	1	2	0	3	1	
		100.0	68.4	28.9	63.2	0.0	2.6	5.3	0.0	7.9	2.6	
	回答しない	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	
		100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
保護者の性別・年代別	20代	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		女性	5	3	3	5	0	0	0	0	1	0
			100.0	60.0	60.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	30代	男性	5	3	1	2	0	0	1	0	0	0
			100.0	60.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
		女性	16	13	6	11	0	1	0	0	0	0
			100.0	81.3	37.5	68.8	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	40代	男性	5	3	2	3	0	0	0	0	0	1
			100.0	60.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	女性	16	10	2	8	0	0	1	0	2	1	
		100.0	62.5	12.5	50.0	0.0	0.0	6.3	0.0	12.5	6.3	
50代以上	男性	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	女性	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	

(25) 児童虐待防止として有効な手段（保護者）

問 11. あなたは、児童虐待の防止策として、何が有効だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

児童虐待防止の有効手段は、『通告し易い環境整備』が約 6 割

● 児童虐待防止の有効な手段について、「虐待の疑いがある場合は関係機関に通告し易い環境整備をする」「子育て世帯に、物心両面での支援を強化する」が半数以上となっている。



【属性別特徴】

● 20代、30代では、「子育て世帯に、物心両面での支援を強化する」の割合が高い。

◆ 表 保護者の性別・年代別 ◆

		サンプル数	子育て世帯に、物心両面での支援を強化する	児童相談所などの公的機関の権限を強化する	虐待者の処罰(刑罰を含む)を明らかにするとともに、厳しく処罰する	里親、(特別)養子などの新たな親子関係を築きやすい環境整備をする	俗に言う「赤ちゃんポスト」を増やす	未婚の若い世代への研修や啓発を推進する	関係機関に通告しやすい環境整備をする	積極的に行なう広報啓発活動	無回答	
上段:実数、下段:%												
全体		574	288	273	228	148	40	179	325	163	71	
		100.0	50.2	47.6	39.7	25.8	7.0	31.2	56.6	28.4	12.4	
保護者の性別	男性	186	89	85	66	40	10	47	104	63	26	
		100.0	47.8	45.7	35.5	21.5	5.4	25.3	55.9	33.9	14.0	
	女性	379	193	183	157	105	29	128	217	97	43	
	100.0	50.9	48.3	41.4	27.7	7.7	33.8	57.3	25.6	11.3		
	回答しない	6	5	4	3	3	1	4	3	3	1	
		100.0	83.3	66.7	50.0	50.0	16.7	66.7	50.0	50.0	16.7	
保護者の性別・年代別	20代	男性	8	6	3	5	3	0	1	7	3	0
			100.0	75.0	37.5	62.5	37.5	0.0	12.5	87.5	37.5	0.0
		女性	26	15	7	13	4	2	8	14	8	2
		100.0	57.7	26.9	50.0	15.4	7.7	30.8	53.8	30.8	7.7	
	30代	男性	59	34	25	24	18	8	18	38	14	2
			100.0	57.6	42.4	40.7	30.5	13.6	30.5	64.4	23.7	3.4
		女性	147	79	66	58	40	9	44	77	27	16
		100.0	53.7	44.9	39.5	27.2	6.1	29.9	52.4	18.4	10.9	
	40代	男性	79	32	36	24	14	1	18	40	32	17
			100.0	40.5	45.6	30.4	17.7	1.3	22.8	50.6	40.5	21.5
		女性	169	79	90	73	52	13	56	104	52	19
		100.0	46.7	53.3	43.2	30.8	7.7	33.1	61.5	30.8	11.2	
50代以上	男性	34	14	19	11	4	1	8	16	12	5	
		100.0	41.2	55.9	32.4	11.8	2.9	23.5	47.1	35.3	14.7	
	女性	26	11	16	8	7	4	14	17	5	4	
	100.0	42.3	61.5	30.8	26.9	15.4	53.8	65.4	19.2	15.4		

5 「児童虐待の防止」について

● 経験があった人やときどきあった人では、「子育て世帯に、物心両面での支援を強化する」の割合が高い。

◆ 表 虐待をしたと思った経験の有無 ◆

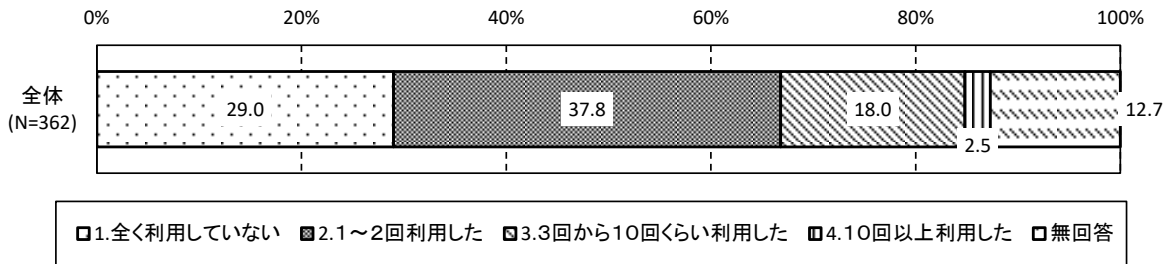
	サンプル数	の子育て世帯に、物心両面での支援を強化する	の児童相談所などの公的機関	にむく、厳しく処罰する	虐待者の処罰へ刑罰を含む	新たな親子関係を築きやす	環境整備をする	里親、(特別)養子などの	ト)を増やす	「赤ちゃんポスト」を増やす	未婚の若い世代への研修や啓発を推進する	整備に関する通告しやすい環境関係機関	虐待防止の広報啓発活動を積極的に行なう	無回答
上段:実数、下段:%														
全体	574 100.0	288 50.2	273 47.6	228 39.7	148 25.8	40 7.0	179 31.2	325 56.6	163 28.4	71 12.4				
虐待をした経験の有無	あった	21 100.0	12 57.1	11 52.4	11 52.4	3 14.3	2 9.5	4 19.0	8 38.1	5 23.8	2 9.5			
	ときどきあった	75 100.0	46 61.3	28 37.3	20 26.7	19 25.3	5 6.7	24 32.0	27 36.0	16 21.3	4 5.3			
	ほとんどなかった	152 100.0	77 50.7	79 52.0	60 39.5	40 26.3	9 5.9	40 26.3	98 64.5	50 32.9	15 9.9			
	全くなかった	230 100.0	109 47.4	108 47.0	102 44.3	68 29.6	18 7.8	83 36.1	141 61.3	75 32.6	37 16.1			
	わからない	91 100.0	44 48.4	47 51.6	35 38.5	18 19.8	6 6.6	28 30.8	51 56.0	17 18.7	8 8.8			

(26) 保健室の利用状況 (小学1年生以上)

問 12. お子さんは、過去1年間(平成28年8月以降)に、ケガや病気等で学校の保健室を利用したことはありますか。(○はひとつ)

保健室の利用状況は、『全く利用していない』人が約3割

●保健室の利用状況については、「全く利用していない」が29.0%となっている。「1~2回利用した」は37.8%で最も高い。



【属性別特徴】

- 6歳、7歳、14歳では、「1~2回利用した」の割合が高い。
- 10歳、11歳では、「3回から10回くらい利用した」の割合が高い。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	1. 全く利用していない	2. 1~2回利用した	3. 3回から10回くらい利用した	4. 10回以上利用した	無回答
上段:実数、下段:%							
全 体		362 100.0	105 29.0	137 37.8	65 18.0	9 2.5	46 12.7
性別	男性	186 100.0	60 32.3	75 40.3	30 16.1	2 1.1	19 10.2
	女性	171 100.0	43 25.1	61 35.7	34 19.9	7 4.1	26 15.2
	回答しない	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
子どもの年代別	6歳	35 100.0	4 11.4	19 54.3	4 11.4	0 0.0	8 22.9
	7歳	36 100.0	7 19.4	17 47.2	8 22.2	2 5.6	2 5.6
	8歳	28 100.0	7 25.0	10 35.7	6 21.4	2 7.1	3 10.7
	9歳	32 100.0	10 31.3	10 31.3	9 28.1	1 3.1	2 6.3
	10歳	28 100.0	5 17.9	10 35.7	10 35.7	1 3.6	2 7.1
	11歳	32 100.0	10 31.3	12 37.5	10 31.3	0 0.0	0 0.0
	12歳	26 100.0	12 46.2	6 23.1	5 19.2	0 0.0	3 11.5
	13歳	34 100.0	9 26.5	12 35.3	3 8.8	1 2.9	9 26.5
	14歳	28 100.0	8 28.6	14 50.0	1 3.6	0 0.0	5 17.9
	15歳	33 100.0	14 42.4	12 36.4	4 12.1	0 0.0	3 9.1
	16歳	23 100.0	9 39.1	6 26.1	3 13.0	1 4.3	4 17.4
17歳	27 100.0	10 37.0	9 33.3	2 7.4	1 3.7	5 18.5	

6 「学校の安全」について

(27) 保健室を利用した理由（小学1年生以上）

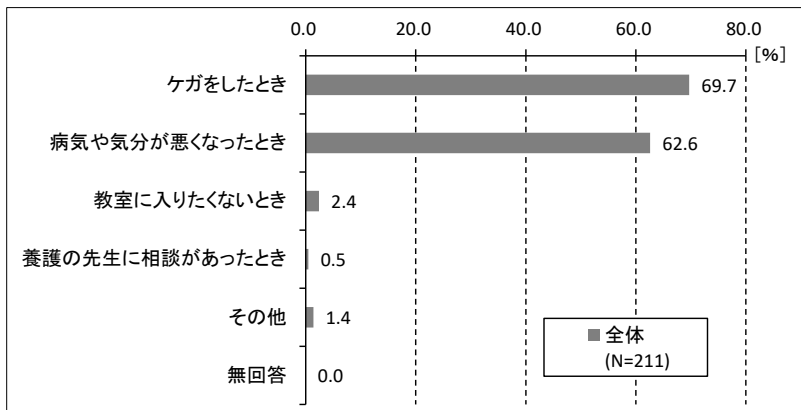
問12で「2」～「4」と回答された方にお聞きします。

問12-1. お子さんは、どんなときに保健室を利用しましたか。（あてはまるものすべてに

○)

保健室を利用した理由は、『ケガをしたとき』が約7割

●保健室を利用した理由について、「ケガをしたとき」「病気や気分が悪くなったとき」がそれぞれ6割以上となっている。



【属性別特徴】

- 7歳、9歳、11歳では、「ケガをしたとき」の割合が高い。
- 8歳、11歳、14歳、15歳では、「病気や気分が悪くなったとき」の割合が高い。

◆表 子どもの性別・年代別◆

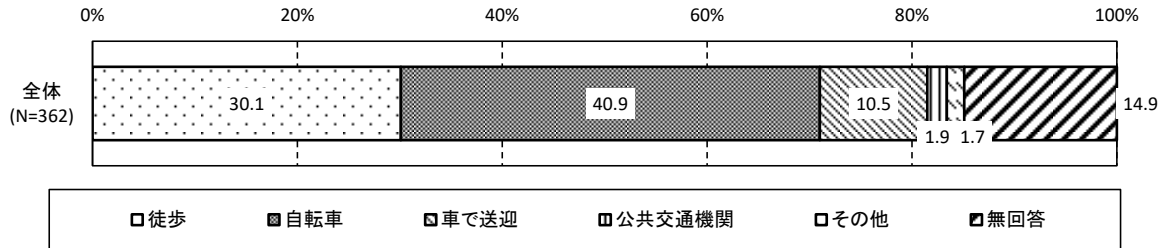
		サンプル数	ケガをしたとき	病気や気分が悪くなったとき	教室に入りたくないとき	養護の先生に相談があったとき	その他
上段:実数、下段:%							
全体		211 100.0	147 69.7	132 62.6	5 2.4	1 0.5	3 1.4
性別	男性	107 100.0	81 75.7	59 55.1	4 3.7	0 0.0	2 1.9
	女性	102 100.0	65 63.7	72 70.6	1 1.0	1 1.0	1 1.0
	回答しない	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	子どもの年代別						
	6歳	23 100.0	17 73.9	12 52.2	0 0.0	0 0.0	2 8.7
	7歳	27 100.0	22 81.5	11 40.7	0 0.0	0 0.0	1 3.7
	8歳	18 100.0	14 77.8	13 72.2	1 5.6	0 0.0	0 0.0
	9歳	20 100.0	16 80.0	9 45.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	10歳	21 100.0	15 71.4	13 61.9	1 4.8	0 0.0	0 0.0
	11歳	22 100.0	19 86.4	17 77.3	0 0.0	1 4.5	0 0.0
	12歳	11 100.0	7 63.6	5 45.5	1 9.1	0 0.0	0 0.0
	13歳	16 100.0	9 56.3	11 68.8	1 6.3	0 0.0	0 0.0
	14歳	15 100.0	7 46.7	12 80.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	15歳	16 100.0	10 62.5	13 81.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	16歳	10 100.0	6 60.0	7 70.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0
	17歳	12 100.0	5 41.7	9 75.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

(28) 主な交通手段 (小学1年生以上)

問 13. お子さんは、帰宅後、外へ出かけるとき主な交通手段は何ですか。(○はひとつ)

外出時の主な交通手段は、『自転車』が4割、『徒歩』が3割

- 外へでかける際の交通手段について、「自転車」が40.9%で最も高くなっている。



【属性別特徴】

- 6歳～9歳では、「徒歩」の割合が高い。
- 10歳～16歳では、「自転車」の割合が高い。
- 中央部、中央南部では、「徒歩」の割合が高い。
- 北部A、南東部、中央南部、南西部、西部Aでは、「自転車」の割合が高い。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	徒歩	自転車	車で送迎	公共交通機関	その他	無回答
上段:実数、下段:%								
全体		362 100.0	109 30.1	148 40.9	38 10.5	7 1.9	6 1.7	54 14.9
性別	男性	186 100.0	60 32.3	87 46.8	12 6.5	2 1.1	4 2.2	21 11.3
	女性	171 100.0	47 27.5	59 34.5	26 15.2	5 2.9	2 1.2	32 18.7
	回答しない	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
子どもの年代別	6歳	35 100.0	18 51.4	4 11.4	5 14.3	0 0.0	0 0.0	8 22.9
	7歳	36 100.0	28 77.8	1 2.8	6 16.7	0 0.0	0 0.0	1 2.8
	8歳	28 100.0	14 50.0	5 17.9	6 21.4	0 0.0	0 0.0	3 10.7
	9歳	32 100.0	16 50.0	10 31.3	2 6.3	0 0.0	1 3.1	3 9.4
	10歳	28 100.0	8 28.6	14 50.0	3 10.7	0 0.0	0 0.0	3 10.7
	11歳	32 100.0	12 37.5	15 46.9	2 6.3	0 0.0	1 3.1	2 6.3
	12歳	26 100.0	3 11.5	17 65.4	1 3.8	0 0.0	0 0.0	5 19.2
	13歳	34 100.0	2 5.9	20 58.8	0 0.0	1 2.9	0 0.0	11 32.4
	14歳	28 100.0	3 10.7	16 57.1	2 7.1	1 3.6	1 3.6	5 17.9
	15歳	33 100.0	1 3.0	21 63.6	5 15.2	2 6.1	0 0.0	4 12.1
	16歳	23 100.0	1 4.3	13 56.5	3 13.0	1 4.3	1 4.3	4 17.4
	17歳	27 100.0	3 11.1	12 44.4	3 11.1	2 7.4	2 7.4	5 18.5

◆表 居住校區別◆

		サンプル数	徒歩	自転車	車で送迎	公共交通機関	その他	無回答
上段:実数、下段:%								
全体		362 100.0	109 30.1	148 40.9	38 10.5	7 1.9	6 1.7	54 14.9
居住校区	東部A	18 100.0	4 22.2	7 38.9	2 11.1	0 0.0	0 0.0	5 27.8
	東部B	18 100.0	1 5.6	5 27.8	9 50.0	0 0.0	1 5.6	2 11.1
	北部A	31 100.0	7 22.6	16 51.6	0 0.0	3 9.7	0 0.0	5 16.1
	北部B	17 100.0	6 35.3	3 17.6	2 11.8	1 5.9	1 5.9	4 23.5
	中央東部	51 100.0	18 35.3	20 39.2	5 9.8	1 2.0	1 2.0	6 11.8
	南東部	35 100.0	9 25.7	16 45.7	5 14.3	0 0.0	0 0.0	5 14.3
	中央部	54 100.0	23 42.6	14 25.9	6 11.1	1 1.9	0 0.0	10 18.5
	中央南部	56 100.0	23 41.1	26 46.4	2 3.6	0 0.0	1 1.8	4 7.1
	南西部	38 100.0	11 28.9	19 50.0	3 7.9	0 0.0	1 2.6	4 10.5
	西部A	18 100.0	4 22.2	9 50.0	1 5.6	0 0.0	1 5.6	3 16.7
	西部B	24 100.0	3 12.5	12 50.0	3 12.5	0 0.0	0 0.0	6 25.0

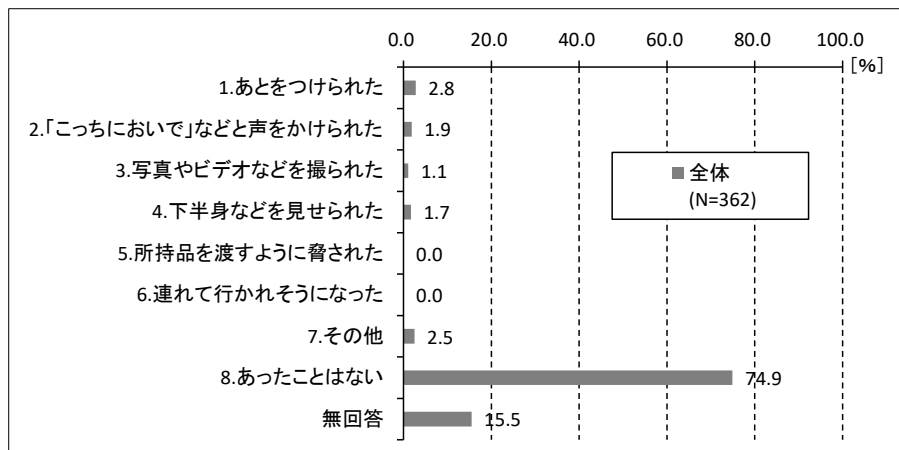
6 「学校の安全」について

(29) 不審者にあった経験の有無 (小学1年生以上)

問 14. お子さんは、これまで不審者にあったことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1割の人が『あとをつけられた』『下半身を見せられた』などの不審者にあっている

● 不審者にあった経験について、「あったことはない」が74.5%で最も高くなっている。



【属性別特徴】

● 女性・中高生（13～17歳）では、「下半身などを見せられた」の割合がやや高い。

◆ 表 子どもの性別・年代別 ◆

		サンプル数	1.あとをつけられた	2.「こっちにおいで」などと声をかけられた	3.写真やビデオなどを撮られた	4.下半身などを見せられた	5.所持品を渡すように脅された	6.連れて行かれそうになった	7.その他	8.あったことはない	無回答	
上段:実数、下段:%												
全体		362	10	7	4	6	0	0	9	271	56	
		100.0	2.8	1.9	1.1	1.7	0.0	0.0	2.5	74.9	15.5	
性別	男性	186	3	0	0	0	0	0	6	153	24	
		100.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	82.3	12.9	
	女性	171	7	7	4	6	0	0	3	114	31	
	100.0	4.1	4.1	2.3	3.5	0.0	0.0	1.8	66.7	18.1		
	回答しない	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
性別・年代別	未就学(0～2歳)	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	未就学(3～6歳)	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小学生(6～13歳)	男性	102	1	0	0	0	0	0	2	90	9
			100.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	88.2	8.8
		女性	98	2	4	2	1	0	0	0	79	10
			100.0	2.0	4.1	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	80.6	10.2
	中高生(13～17歳)	男性	84	2	0	0	0	0	0	4	63	15
			100.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	75.0	17.9
	女性	73	5	3	2	5	0	0	3	35	21	
		100.0	6.8	4.1	2.7	6.8	0.0	0.0	4.1	47.9	28.8	

● 居住校区別にみても、特に大きな差はみられない。

◆ 表 居住校区別 ◆

		サンプル数	1. あとをつけられた	2. 「こつちにおいて」と声をかけられた	3. 写真やビデオなどを撮られた	4. 下半身などを見せられた	5. 所持品を渡すように脅された	6. 連れて行かれそうになった	7. その他	8. あったことはない	無回答
上段:実数、下段:%											
全 体		362 100.0	10 2.8	7 1.9	4 1.1	6 1.7	0 0.0	0 0.0	9 2.5	271 74.9	56 15.5
居住校区	東部A	18 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13 72.2	5 27.8
	東部B	18 100.0	1 5.6	1 5.6	1 5.6	1 5.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12 66.7	2 11.1
	北部A	31 100.0	1 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.2	24 77.4	5 16.1
	北部B	17 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13 76.5	4 23.5
	中央東部	51 100.0	3 5.9	2 3.9	1 2.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	2 3.9	37 72.5	6 11.8
	南東部	35 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	29 82.9	6 17.1
	中央部	54 100.0	1 1.9	0 0.0	1 1.9	1 1.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	40 74.1	11 20.4
	中央南部	56 100.0	2 3.6	3 5.4	1 1.8	3 5.4	0 0.0	0 0.0	3 5.4	41 73.2	3 5.4
	南西部	38 100.0	1 2.6	1 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.6	31 81.6	4 10.5
	西部A	18 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.6	14 77.8	3 16.7
西部B	24 100.0	1 4.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	16 66.7	7 29.2	

6 「学校の安全」について

(30)不審者にあった際の対応（小学1年生以上）

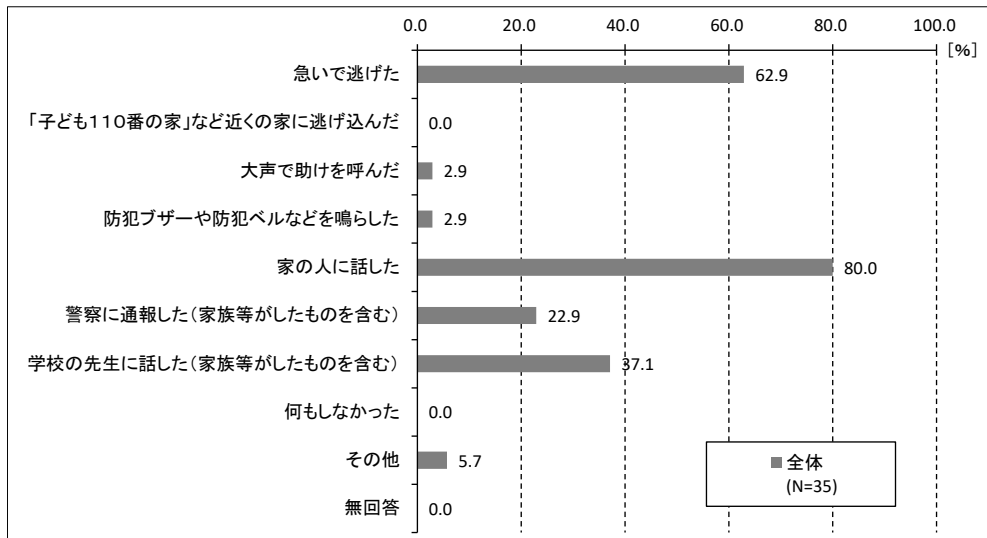
問14で、「1」～「7」と回答された方にお聞きします。

問14-1. お子さんは、不審者にあったときどうしましたか。（あてはまるものすべてに

○)

不審者にあった際の対応は、『急いで逃げた』が6割以上、『家の人に話した』が8割

●不審者にあった際の対応について、「家の人に話した」が80.0%で最も高く、「急いで逃げた」も6割以上となっている。



【属性別特徴】

●女性・小学生（6～13歳）では、「急いで逃げた」の割合が高くなっている。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	急いで逃げた	「子ども110番の家」など近くの家へ逃げ込んだ	大声で助けを呼んだ	防犯ブザーや防犯ベルなどを鳴らした	家の人に話した	警察に通報した(家族等がしたものを含む)	学校の先生に話した(家族等がしたものを含む)	何もしなかった	その他	
上段:実数、下段:%												
全体		35	22	0	1	1	28	8	13	0	2	
		100.0	62.9	0.0	2.9	2.9	80.0	22.9	37.1	0.0	5.7	
性別	男性	9	4	0	0	0	7	1	3	0	1	
		100.0	44.4	0.0	0.0	0.0	77.8	11.1	33.3	0.0	11.1	
	女性	26	18	0	1	1	21	7	10	0	1	
		100.0	69.2	0.0	3.8	3.8	80.8	26.9	38.5	0.0	3.8	
	回答しない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別・年代別	未就学(0～2歳)	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	未就学(3～6歳)	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小学生(6～13歳)	男性	3	1	0	0	0	3	0	2	0	0
			100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	66.7	0.0	0.0
		女性	9	7	0	1	1	7	1	4	0	0
			100.0	77.8	0.0	11.1	11.1	77.8	11.1	44.4	0.0	0.0
中高生(13～17歳)	男性	6	3	0	0	0	4	1	1	0	1	
		100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	66.7	16.7	16.7	0.0	16.7	
	女性	17	11	0	0	0	14	6	6	0	1	
		100.0	64.7	0.0	0.0	0.0	82.4	35.3	35.3	0.0	5.9	

◆表 居住校区別◆

		サンプル数	急いで逃げた	「子ども110番の家」など近くの家に逃げ込んだ	大声で助けを呼んだ	防犯ブザーや防犯ベルなどを鳴らした	家の人に話した	警察に通報した(家族等がしたものを含む)	学校の先生に話した(家族等がしたものを含む)	何もしなかった	その他
上段:実数、下段:%											
全 体		35 100.0	22 62.9	0 0.0	1 2.9	1 2.9	28 80.0	8 22.9	13 37.1	0 0.0	2 5.7
居住校区	東部A	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	東部B	4 100.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 75.0	1 25.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0
	北部A	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
	北部B	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	中央東部	8 100.0	5 62.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 87.5	0 0.0	2 25.0	0 0.0	1 12.5
	南東部	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	中央部	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0
	中央南部	12 100.0	10 83.3	0 0.0	1 8.3	1 8.3	9 75.0	4 33.3	6 50.0	0 0.0	0 0.0
	南西部	3 100.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0
	西部A	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	西部B	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

7 「犯罪の防止・防犯力の向上」について

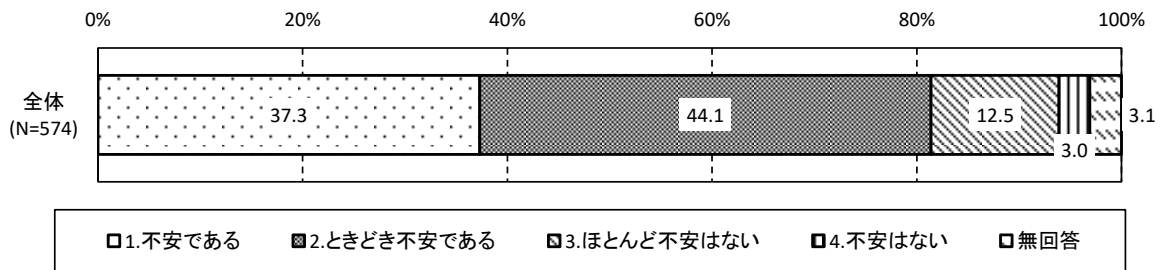
(3 1) 子どもが犯罪にあうことに対する不安

問 15. あなたは、お子さんが犯罪の被害にあうかもしれないという不安はありますか。

(○はひとつ)

子どもが犯罪にあう可能性について、8割弱の人が『不安がある』

●子どもが犯罪にあうことに対する不安について、「ときどき不安である」が44.1%で最も高く、次に「不安である」が37.3%と続き、不安を感じている人が8割弱となっている。



【属性別特徴】

- 男性より女性のほうが『不安がある』割合が高い。
- 中央東部、西部Bでは、「不安である」の割合が高い。
- 南東部、南西部では、「ときどき不安である」の割合が高い。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	1. 不安である	2. ときどき不安である	3. ほとんど不安はない	4. 不安はない	無回答	
上段:実数、下段:%								
全 体		574 100.0	214 37.3	253 44.1	72 12.5	17 3.0	18 3.1	
性別	男性	297 100.0	93 31.3	131 44.1	52 17.5	12 4.0	9 3.0	
	女性	264 100.0	116 43.9	115 43.6	20 7.6	4 1.5	9 3.4	
	回答しない	5 100.0	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
性別・年代別	未就学 (0~2歳)	男性	58 100.0	20 34.5	24 41.4	6 10.3	6 10.3	2 3.4
		女性	49 100.0	17 34.7	19 38.8	7 14.3	2 4.1	4 8.2
	未就学 (3~6歳)	男性	52 100.0	22 42.3	16 30.8	12 23.1	1 1.9	1 1.9
		女性	43 100.0	14 32.6	22 51.2	5 11.6	0 0.0	2 4.7
	小学生 (6~13歳)	男性	102 100.0	37 36.3	42 41.2	15 14.7	4 3.9	4 3.9
		女性	98 100.0	55 56.1	33 33.7	7 7.1	2 2.0	1 1.0
	中高生 (13~17歳)	男性	84 100.0	14 16.7	49 58.3	18 21.4	1 1.2	2 2.4
		女性	73 100.0	30 41.1	40 54.8	1 1.4	0 0.0	2 2.7

◆表 居住校區別◆

		サンプル数	1. 不安である	2. ときどき不安である	3. ほとんど不安はない	4. 不安はない	無回答
上段:実数、下段:%							
全 体		574 100.0	214 37.3	253 44.1	72 12.5	17 3.0	18 3.1
居住校区	東部A	28 100.0	11 39.3	13 46.4	2 7.1	0 0.0	2 7.1
	東部B	34 100.0	12 35.3	13 38.2	6 17.6	0 0.0	3 8.8
	北部A	57 100.0	23 40.4	26 45.6	5 8.8	1 1.8	2 3.5
	北部B	31 100.0	8 25.8	15 48.4	4 12.9	3 9.7	1 3.2
	中央東部	76 100.0	33 43.4	30 39.5	10 13.2	1 1.3	2 2.6
	南東部	47 100.0	13 27.7	26 55.3	7 14.9	1 2.1	0 0.0
	中央部	90 100.0	37 41.1	37 41.1	12 13.3	2 2.2	2 2.2
	中央南部	81 100.0	32 39.5	31 38.3	10 12.3	4 4.9	4 4.9
	南西部	56 100.0	17 30.4	30 53.6	9 16.1	0 0.0	0 0.0
	西部A	27 100.0	9 33.3	13 48.1	1 3.7	3 11.1	1 3.7
	西部B	42 100.0	19 45.2	16 38.1	5 11.9	1 2.4	1 2.4

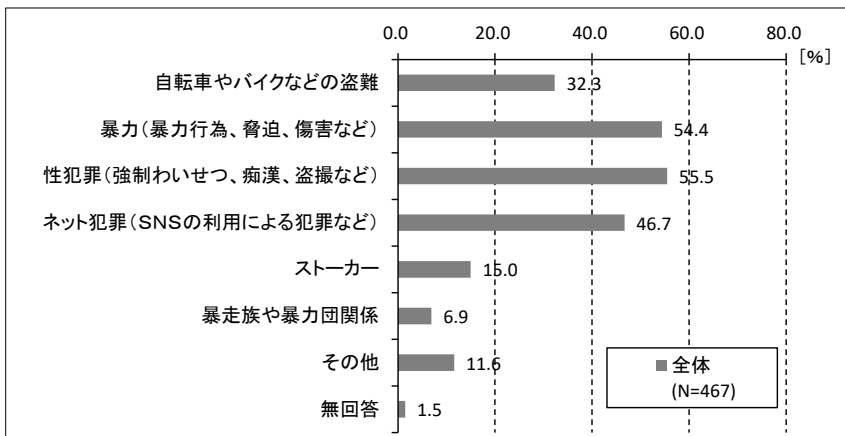
(32) 子どもが巻き込まれる可能性があると思う犯罪

問 15 で、「1」又は「2」と回答された方にお聞きします。

問 15-1. あなたは、お子さんがどのような犯罪に巻き込まれるかもしれないと感じますか。(あてはまるものすべてに○)

子どもが巻き込まれる可能性がある犯罪は、『性犯罪』『暴力』が共に 5 割以上

- 子どもが巻き込まれる可能性のある犯罪について、「性犯罪」(55.5%) 「暴力」(54.4%) がそれぞれ半数以上となっている。
- 「その他」の内訳について、「誘拐」「交通事故」の回答が多くみられた。



【属性別特徴】

- すべての学年の男性では、「暴力」の割合が高くなっている。
- すべての学年の女性では、「性犯罪」の割合が高くなっている。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	自転車やバイクなどの盗難	暴力(暴力行為、脅迫、傷害など)	性犯罪(強制わいせつ、痴漢、盗撮など)	ネット犯罪(SNSの利用による犯罪など)	ストーカー	暴走族や暴力団関係	その他	無回答	
上段:実数、下段:%											
全体		467	151	254	259	218	70	32	54	7	
		100.0	32.3	54.4	55.5	46.7	15.0	6.9	11.6	1.5	
性別	男性	224	86	145	65	89	14	23	33	3	
		100.0	38.4	64.7	29.0	39.7	6.3	10.3	14.7	1.3	
	女性	231	57	98	189	124	54	9	20	4	
		100.0	24.7	42.4	81.8	53.7	23.4	3.9	8.7	1.7	
	回答しない	5	3	5	4	2	2	0	0	0	
		100.0	60.0	100.0	80.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	
性別・年代別	未就学(0~2歳)	男性	44	10	32	13	17	2	3	7	1
			100.0	22.7	72.7	29.5	38.6	4.5	6.8	15.9	2.3
	未就学(3~6歳)	男性	38	13	26	14	12	2	4	7	1
			100.0	34.2	68.4	36.8	31.6	5.3	10.5	18.4	2.6
	小学生(6~13歳)	男性	79	31	48	25	26	6	6	16	1
			100.0	39.2	60.8	31.6	32.9	7.6	7.6	20.3	1.3
	中学生(13~17歳)	男性	63	18	37	69	32	14	3	9	2
			100.0	20.5	42.0	78.4	36.4	15.9	3.4	10.2	2.3
	未就学(0~2歳)	女性	70	23	20	59	51	21	1	3	0
			100.0	32.9	28.6	84.3	72.9	30.0	1.4	4.3	0.0

7 「犯罪の防止・防犯力の向上」について

- 東部Bでは、「自転車やバイクなどの盗難」の割合が高い。
- 東部Aでは、「暴力」の割合が高い。
- 西部A、西部Bでは、「性犯罪」の割合が高い。
- 東部A、東部B、中央南部では、「ネット犯罪」の割合が高い。
- 東部Bでは、「ストーカー」の割合が高い。

◆表 居住校區別◆

		サンプル数	自転車やバイクなどの盗難	暴力(暴力行為、脅迫、傷害など)	性犯罪(強制わいせつ、痴漢、盗撮など)	ネット犯罪(SNSの利用による犯罪など)	ストーカー	暴走族や暴力団関係	その他	無回答
上段:実数、下段:%										
全 体		467 100.0	151 32.3	254 54.4	259 55.5	218 46.7	70 15.0	32 6.9	54 11.6	7 1.5
居住校 区	東部A	24 100.0	5 20.8	15 62.5	8 33.3	13 54.2	3 12.5	1 4.2	3 12.5	1 4.2
	東部B	25 100.0	11 44.0	12 48.0	15 60.0	14 56.0	7 28.0	1 4.0	2 8.0	0 0.0
	北部A	49 100.0	16 32.7	27 55.1	22 44.9	20 40.8	5 10.2	4 8.2	7 14.3	0 0.0
	北部B	23 100.0	8 34.8	11 47.8	6 26.1	9 39.1	3 13.0	2 8.7	4 17.4	0 0.0
	中央東部	63 100.0	21 33.3	31 49.2	38 60.3	32 50.8	9 14.3	3 4.8	8 12.7	1 1.6
	南東部	39 100.0	11 28.2	21 53.8	21 53.8	14 35.9	7 17.9	2 5.1	5 12.8	1 2.6
	中央部	74 100.0	24 32.4	42 56.8	43 58.1	37 50.0	11 14.9	4 5.4	8 10.8	0 0.0
	中央南部	63 100.0	24 38.1	36 57.1	38 60.3	36 57.1	12 19.0	7 11.1	10 15.9	0 0.0
	南西部	47 100.0	16 34.0	27 57.4	26 55.3	15 31.9	5 10.6	3 6.4	4 8.5	2 4.3
	西部A	22 100.0	7 31.8	12 54.5	15 68.2	11 50.0	1 4.5	3 13.6	0 0.0	0 0.0
西部B	35 100.0	8 22.9	18 51.4	26 74.3	16 45.7	7 20.0	1 2.9	3 8.6	2 5.7	

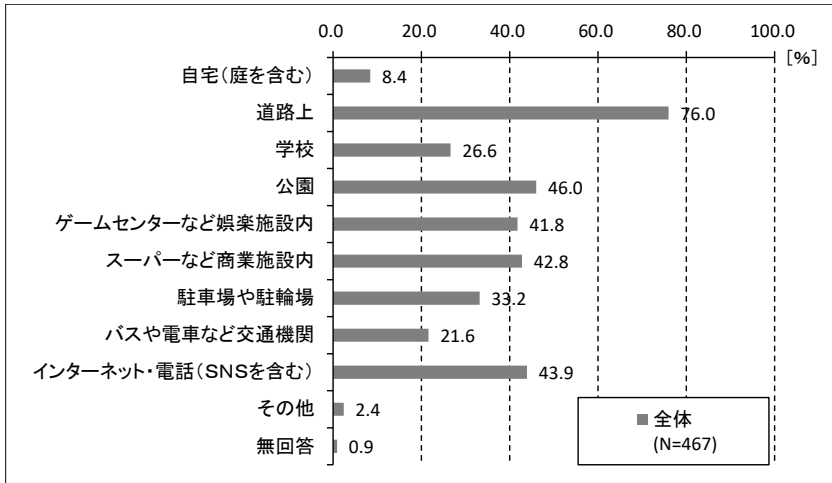
(33)子どもが犯罪に巻き込まれると思う状況

問 15-2. あなたは、お子さんがどこで犯罪に巻き込まれるかもしれないと感じますか。

(あてはまるものすべてに○)

子どもが犯罪に巻き込まれる状況については、『道路上』が7割以上

●子どもが犯罪に巻き込まれると思う状況について、「道路上」が76.0%で最も高くなっている。



【属性別特徴】

- 小学生（6～13歳）では、「道路上」の割合が高い。
- 中高生（13～17歳）では、「インターネット・電話」の割合が高い。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	自宅(庭を含む)	道路上	学校	公園	ゲームセンターなど娯楽施設内	スーパーなど商業施設内	駐車場や駐輪場	バスや電車など交通機関	インターネット・電話(SNSを含む)	その他	無回答	
上段:実数、下段:%														
全体		467	39	355	124	215	195	200	155	101	205	11	4	
		100.0	8.4	76.0	26.6	46.0	41.8	42.8	33.2	21.6	43.9	2.4	0.9	
性別	男性	224	18	156	61	100	99	90	71	28	87	5	3	
		100.0	8.0	69.6	27.2	44.6	44.2	40.2	31.7	12.5	38.8	2.2	1.3	
	女性	231	20	190	58	109	91	103	80	70	114	6	1	
		100.0	8.7	82.3	25.1	47.2	39.4	44.6	34.6	30.3	49.4	2.6	0.4	
	回答しない	5	1	4	1	4	2	2	3	1	1	0	0	
		100.0	20.0	80.0	20.0	80.0	40.0	40.0	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	
性別・年代別	未就学(0~2歳)	男性	44	5	26	15	22	17	15	14	7	14	2	2
			100.0	11.4	59.1	34.1	50.0	38.6	34.1	31.8	15.9	31.8	4.5	4.5
	未就学(3~6歳)	女性	36	7	30	16	19	23	19	18	15	24	0	1
			100.0	19.4	83.3	44.4	52.8	63.9	52.8	50.0	41.7	66.7	0.0	2.8
	小学生(6~13歳)	男性	38	2	24	12	18	20	22	16	5	11	0	0
			100.0	5.3	63.2	31.6	47.4	52.6	57.9	42.1	13.2	28.9	0.0	0.0
	小学生(6~13歳)	女性	36	3	26	14	17	15	22	12	7	13	0	0
			100.0	8.3	72.2	38.9	47.2	41.7	61.1	33.3	19.4	36.1	0.0	0.0
	中高生(13~17歳)	男性	79	9	69	21	47	37	29	22	7	28	1	0
			100.0	11.4	87.3	26.6	59.5	46.8	36.7	27.8	8.9	35.4	1.3	0.0
	中高生(13~17歳)	女性	88	7	76	14	51	31	36	29	20	29	4	0
			100.0	8.0	86.4	15.9	58.0	35.2	40.9	33.0	22.7	33.0	4.5	0.0
中高生(13~17歳)	男性	63	2	37	13	13	25	24	19	9	34	2	1	
		100.0	3.2	58.7	20.6	20.6	39.7	38.1	30.2	14.3	54.0	3.2	1.6	
中高生(13~17歳)	女性	70	3	57	14	22	22	26	21	28	48	2	0	
		100.0	4.3	81.4	20.0	31.4	31.4	37.1	30.0	40.0	68.6	2.9	0.0	

7 「犯罪の防止・防犯力の向上」について

- 東部Aでは、「インターネット」の割合が高い。
- 東部Bでは、「スーパーなどの商業施設内」の割合が高い。
- 北部Aでは、「公園」の割合が高い。
- 中央部では、「駐車場や駐輪場」の割合が高い。
- 中央南部では、「道路上」「ゲームセンターなどの娯楽施設」「駐車場や駐輪場」「バスや電車などの交通機関」「インターネット」の割合が高い。

◆表 居住校區別◆

		サンプル数	自宅（庭を含む）	道路上	学校	公園	ゲームセンターなど娯楽施設内	スーパーなど商業施設内	駐車場や駐輪場	バスや電車など交通機関	インターネット・電話（SNSを含む）	その他	無回答
上段:実数、下段:%													
全 体		467 100.0	39 8.4	355 76.0	124 26.6	215 46.0	195 41.8	200 42.8	155 33.2	101 21.6	205 43.9	11 2.4	4 0.9
居住校 区	東部A	24 100.0	2 8.3	16 66.7	8 33.3	10 41.7	10 41.7	10 41.7	7 29.2	6 25.0	14 58.3	0 0.0	0 0.0
	東部B	25 100.0	3 12.0	18 72.0	8 32.0	9 36.0	7 28.0	13 52.0	4 16.0	7 28.0	12 48.0	0 0.0	0 0.0
	北部A	49 100.0	5 10.2	38 77.6	14 28.6	31 63.3	21 42.9	22 44.9	15 30.6	8 16.3	22 44.9	1 2.0	0 0.0
	北部B	23 100.0	1 4.3	16 69.6	7 30.4	11 47.8	10 43.5	10 34.8	8 26.1	6 21.7	5 39.1	9 8.7	2 0.0
	中央東部	63 100.0	4 6.3	49 77.8	14 22.2	29 46.0	28 44.4	27 42.9	23 36.5	14 22.2	30 47.6	2 3.2	0 0.0
	南東部	39 100.0	4 10.3	30 76.9	8 20.5	20 51.3	17 43.6	17 43.6	11 28.2	8 20.5	10 25.6	2 5.1	0 0.0
	中央部	74 100.0	8 10.8	54 73.0	18 24.3	31 41.9	31 41.9	34 45.9	32 43.2	19 25.7	37 50.0	2 2.7	0 0.0
	中央南部	63 100.0	4 6.3	53 84.1	19 30.2	29 46.0	34 54.0	31 49.2	27 42.9	21 33.3	37 58.7	0 0.0	1 1.6
	南西部	47 100.0	3 6.4	32 68.1	16 34.0	18 38.3	19 40.4	14 29.8	10 21.3	7 14.9	13 27.7	2 4.3	1 2.1
	西部A	22 100.0	2 9.1	18 81.8	4 18.2	9 40.9	5 22.7	7 31.8	5 22.7	2 9.1	8 36.4	0 0.0	1 4.5
西部B	35 100.0	3 8.6	28 80.0	7 20.0	18 51.4	13 37.1	17 48.6	15 42.9	3 8.6	12 34.3	0 0.0	1 2.9	

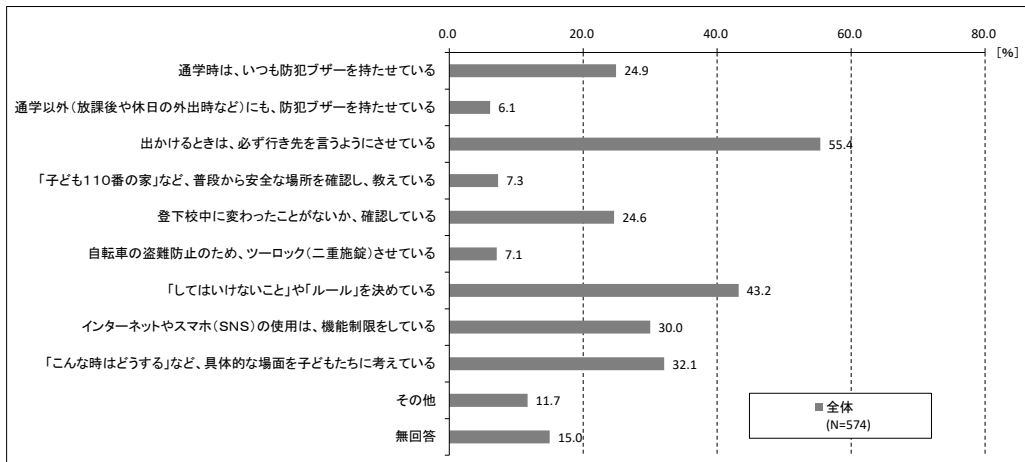
(34)子どもに対する防犯の取り組み

問 16. あなたは、お子さんに対してどのような防犯の取り組みを行っていますか。

(あてはまるものすべてに○)

防犯の取り組みは、『出かけるときは、必ず行き先を言うようにさせている』家庭が5割以上

- 子どもに対する犯罪防止の取り組みについて、「出かけるときは、必ず行き先を言うようにさせている」が55.4%で最も高くなっている。
- 「その他」の内訳について、「目を離さない」「1人で出かせせない」等の回答が多くみられた。



【属性別特徴】

- 防犯ブザーを持たせている割合は、小学生(6~13歳)が特に高い。
- 全体的に、子どもが女性のほうが防犯の取り組みを行っている割合が高い。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	防犯ブザーを持たせている割合	「子ども110番の家」を確認し、教えている割合	「出かけるときは、必ず行き先を言うようにさせている」割合	「してはいけないこと」や「ルール」を決めている割合	「目を離さない」割合	「1人で出かせせない」割合	「こんな時はどうする」など、具体的な場面を子どもたちに考えている割合	その他	無回答			
上段:実数、下段:%														
全体		574 100.0	143 24.9	35 6.1	318 55.4	42 7.3	141 24.6	41 7.1	248 43.2	172 30.0	184 32.1	67 11.7	86 15.0	
性別	男性	297 100.0	63 21.2	15 5.1	150 50.5	18 6.1	60 20.2	23 7.7	120 40.4	81 27.3	87 29.3	40 13.5	46 15.5	
	女性	264 100.0	78 29.5	20 7.6	160 60.6	24 9.1	76 28.8	17 6.4	121 45.8	87 33.0	93 35.2	27 10.2	39 14.8	
	回答しない	5 100.0	2 40.0	0 0.0	4 80.0	0 0.0	4 80.0	0 0.0	4 80.0	0 0.0	2 60.0	3 0.0	0 0.0	
性別・年代別	未就学(0~2歳)	男性	58 100.0	2 3.4	2 3.4	3 5.2	0 0.0	1 1.7	0 0.0	12 20.7	2 3.4	8 13.8	18 31.0	25 43.1
		女性	49 100.0	0 0.0	0 0.0	4 8.2	1 2.0	1 2.0	1 2.0	8 16.3	3 6.1	3 6.1	12 24.5	28 57.1
	未就学(3~6歳)	男性	52 100.0	8 15.4	0 0.0	13 25.0	3 5.8	6 11.5	0 0.0	14 26.9	5 9.6	15 28.8	11 21.2	11 21.2
		女性	43 100.0	10 23.3	1 2.3	15 34.9	2 4.7	6 14.0	0 0.0	24 55.8	6 14.0	18 41.9	5 11.6	6 14.0
	小学生(6~13歳)	男性	102 100.0	49 48.0	11 10.8	75 73.5	13 12.7	34 33.3	4 3.9	59 57.8	34 33.3	44 43.1	5 4.9	4 3.9
		女性	98 100.0	63 64.3	17 17.3	79 80.6	16 16.3	43 43.9	9 9.2	58 59.2	40 40.8	44 44.9	6 6.1	1 1.0
	中高生(13~17歳)	男性	84 100.0	4 4.8	2 2.4	2 70.2	2 2.4	19 22.6	2 2.4	18 21.4	35 41.7	40 47.6	20 23.8	6 7.1
		女性	73 100.0	5 6.8	2 2.7	61 83.6	5 6.8	26 35.6	7 9.6	31 42.5	37 50.7	28 38.4	4 5.5	4 5.5

7 「犯罪の防止・防犯力の向上」について

●中央東部では、「**「してはいけないこと」**や**「ルール」**を決めている」「インターネットやスマホ（SNS）の使用は、機能制限をしている」の割合が高い。

◆表 居住校区别◆

		サンプル数	ザイを出時持たせている	ザイを出時持たせている	通学以外（放課後や休日）の通学時持たせている	先を言うときは必ず行ける	出かけるときは必ず行ける	確認し、教えている	「子ども110番の家」など、普段から安全な場所を	「子ども110番の家」など、普段から安全な場所を	登下校中に変わったことがないか、確認している	登下校中に変わったことがないか、確認している	自転車の盗難防止のため、ツーロック（二重施錠）させている	「してはいけないこと」や「ルール」を決めている	制限をしている	インターネットやスマホ（SNS）の使用は機能	「こんな時はどうする」など、具体的な場面を子どもに考えさせている	その他	無回答
上段:実数、下段:%																			
全体		574 100.0	143 24.9	35 6.1	318 55.4	42 7.3	141 24.6	41 7.1	248 43.2	172 30.0	184 32.1	67 11.7	86 15.0						
居住校区	東部A	28 100.0	4 14.3	1 3.6	17 60.7	2 7.1	4 14.3	0 0.0	8 28.6	10 35.7	9 32.1	0 0.0	6 21.4						
	東部B	34 100.0	8 23.5	0 0.0	17 50.0	1 2.9	7 20.6	0 0.0	10 29.4	5 14.7	11 32.4	3 8.8	10 29.4						
	北部A	57 100.0	15 26.3	2 3.5	29 50.9	8 14.0	11 19.3	4 7.0	24 42.1	17 29.8	15 26.3	11 19.3	7 12.3						
	北部B	31 100.0	8 25.8	2 6.5	15 48.4	3 9.7	8 25.8	2 6.5	12 38.7	4 12.9	9 29.0	5 16.1	6 19.4						
	中央東部	76 100.0	19 25.0	5 6.6	48 63.2	4 5.3	20 26.3	13 17.1	43 56.6	32 42.1	24 31.6	6 7.9	12 15.8						
	南東部	47 100.0	11 23.4	2 4.3	28 59.6	6 12.8	13 27.7	0 0.0	24 51.1	12 25.5	15 31.9	2 4.3	5 10.6						
	中央部	90 100.0	28 31.1	6 6.7	47 52.2	5 5.6	24 26.7	7 7.8	42 46.7	26 28.9	30 33.3	19 21.1	10 11.1						
	中央南部	81 100.0	17 21.0	6 7.4	47 58.0	5 6.2	20 24.7	6 7.4	33 40.7	23 28.4	32 39.5	5 6.2	12 14.8						
	南西部	56 100.0	16 28.6	6 10.7	30 53.6	5 8.9	17 30.4	6 10.7	26 46.4	20 35.7	18 32.1	8 14.3	6 10.7						
	西部A	27 100.0	6 22.2	2 7.4	17 63.0	2 7.4	8 29.6	0 0.0	10 37.0	12 44.4	5 18.5	4 14.8	4 14.8						
西部B	42 100.0	11 26.2	3 7.1	22 52.4	1 2.4	9 21.4	3 7.1	16 38.1	11 26.2	14 33.3	2 4.8	7 16.7							

●ネット犯罪では、「インターネットやスマホ（SNS）の使用は、機能制限をしている」の割合が高い。

●ストーカーでは、「登下校中に変わったことがないか、確認している」の割合が高い。

●暴走族や暴力関係では、「**「してはいけないこと」**や**「ルール」**を決めている」の割合が高い。

◆表 子どもが巻き込まれる可能性があると思う犯罪別◆

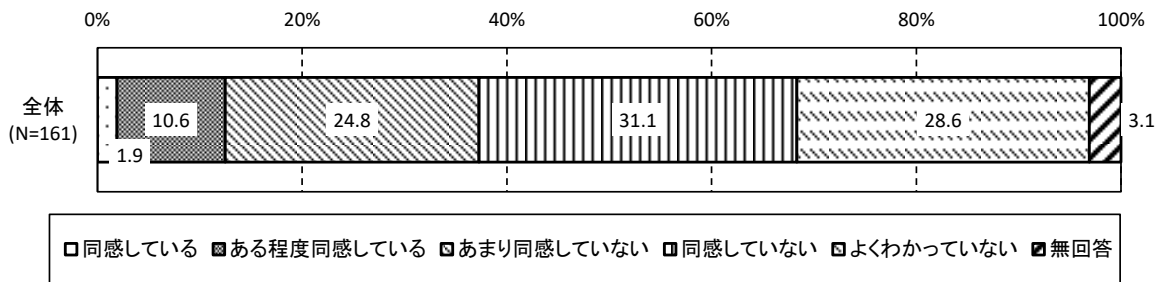
		サンプル数	ザイを出時持たせている	ザイを出時持たせている	通学以外（放課後や休日）の通学時持たせている	先を言うときは必ず行ける	出かけるときは必ず行ける	確認し、教えている	「子ども110番の家」など、普段から安全な場所を	「子ども110番の家」など、普段から安全な場所を	登下校中に変わったことがないか、確認している	登下校中に変わったことがないか、確認している	自転車の盗難防止のため、ツーロック（二重施錠）させている	「してはいけないこと」や「ルール」を決めている	制限をしている	インターネットやスマホ（SNS）の使用は機能	「こんな時はどうする」など、具体的な場面を子どもに考えさせている	その他	無回答
上段:実数、下段:%																			
全体		467 100.0	121 25.9	30 6.4	273 58.5	37 7.9	123 26.3	35 7.5	209 44.8	149 31.9	162 34.7	54 11.6	61 13.1						
子どもが巻き込まれる可能性がある	自転車やバイクなどの盗難	151 100.0	35 23.2	10 6.6	98 64.9	9 6.0	41 27.2	15 9.9	68 45.0	58 38.4	52 34.4	14 9.3	18 11.9						
	暴力（暴力行為、脅迫、傷害など）	254 100.0	69 27.2	19 7.5	141 55.5	16 6.3	58 22.8	18 7.1	116 45.7	72 28.3	82 32.3	29 11.4	40 15.7						
	性犯罪（強制わいせつ、痴漢、盗撮など）	259 100.0	74 28.6	20 7.7	159 61.4	27 10.4	82 31.7	19 7.3	126 48.6	88 34.0	104 40.2	27 10.4	33 12.7						
	ネット犯罪（SNSの利用による犯罪など）	218 100.0	36 16.5	14 6.4	127 58.3	14 6.4	51 23.4	19 8.7	96 44.0	94 43.1	66 30.3	25 11.5	36 16.5						
	ストーカー	70 100.0	17 24.3	3 4.3	42 60.0	5 7.1	25 35.7	5 7.1	36 51.4	25 35.7	31 44.3	6 8.6	12 17.1						
	暴走族や暴力団関係	32 100.0	4 12.5	2 6.3	18 56.3	5 15.6	5 15.6	3 9.4	17 53.1	11 34.4	14 43.8	2 6.3	6 18.8						
	その他	54 100.0	19 35.2	4 7.4	30 55.6	8 14.8	15 27.8	3 5.6	25 46.3	11 20.4	24 44.4	9 16.7	6 11.1						

(35)子どもの「男は仕事、女は家庭」という考え方について（中学1年生以上）

問 17. お子さんは、「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思っていますか。（○はひとつ）

「男は仕事、女は家庭」という考え方について「あまり同感していない」と「同感していない」をあわせた「同感しない」中高生が6割弱

- 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同感していない」が31.1%で最も高くなっている。



【属性別特徴】

- 性別でみても、特に大きな差はみられない。

◆表 子どもの性別◆

		サンプル数	同感している	ある程度同感している	あまり同感していない	同感していない	よくわかっていない	無回答
上段:実数、下段:%								
全 体		161 100.0	3 1.9	17 10.6	40 24.8	50 31.1	46 28.6	5 3.1
性別	男性	84 100.0	1 1.2	12 14.3	22 26.2	21 25.0	25 29.8	3 3.6
	女性	73 100.0	2 2.7	5 6.8	17 23.3	28 38.4	19 26.0	2 2.7
	回答しない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

- 親・子・孫（3世代）では、「よくわかっていない」の割合が高い。

◆表 家族構成別◆

		サンプル数	同感している	ある程度同感している	あまり同感していない	同感していない	よくわかっていない	無回答
上段:実数、下段:%								
全 体		161 100.0	3 1.9	17 10.6	40 24.8	50 31.1	46 28.6	5 3.1
家族構成	単身	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	夫婦のみ	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	親・子(2世代)	117 100.0	1 0.9	15 12.8	28 23.9	40 34.2	29 24.8	4 3.4
	親・子・孫(3世代)	39 100.0	2 5.1	2 5.1	10 25.6	10 25.6	14 35.9	1 2.6
	その他	3 100.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0

8 「DV防止と早期発見」について

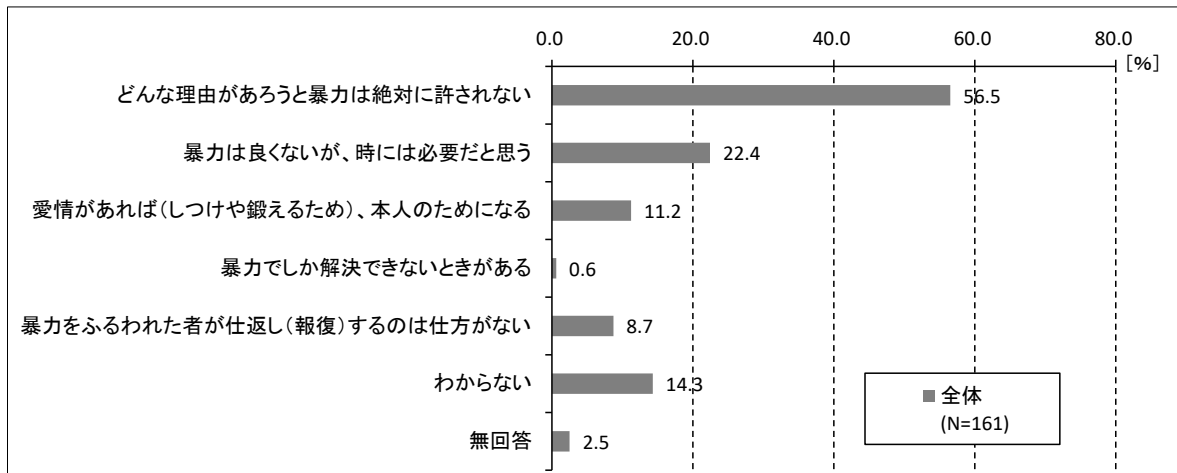
(36)子どもの「暴力」に対する考え方（中学1年生以上）

問 18. お子さんは、「暴力」についてどう考えていますか。（あてはまるものすべてに

○)

「暴力」について、『どんな理由があろうと暴力は絶対に許されない』と考えている中高生が5割以上

- 「暴力は良くないが、時には必要だと思う」と暴力を容認する中高生が22.4%いる。



【属性別特徴】

- 女性では、「どんな理由があろうと暴力は絶対に許されない」の割合が高い。

◆表 子どもの性別◆

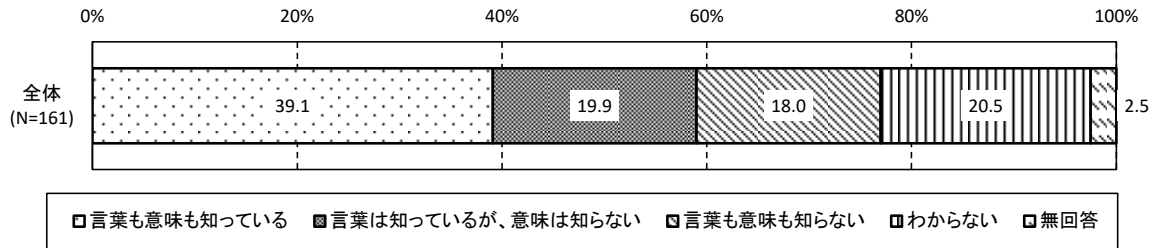
		サンプル数	どんな理由があろうと許されないと暴力	必要だと思わないが、時には	暴力は良くないが、本人のためや鍛えるため	愛情があれば、本人のためや鍛えるため	暴力でしか解決できないときがある	暴力をふるわれた者が仕返し(報復)するのは仕方がない	わからない	無回答
上段:実数、下段:%										
全体		161	91	36	18	1	14	23	4	
		100.0	56.5	22.4	11.2	0.6	8.7	14.3	2.5	
性別	男性	84	42	21	8	1	10	16	2	
		100.0	50.0	25.0	9.5	1.2	11.9	19.0	2.4	
	女性	73	47	15	9	0	4	6	2	
		100.0	64.4	20.5	12.3	0.0	5.5	8.2	2.7	
	回答しない	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

(37)子どものデートDVという言葉の認知度（中学1年生以上）

問 19. お子さんは、デートDV（ドメスティックバイオレンス）という言葉やその意味を知っていますか。（○はひとつ）

デートDVを知っている中高生は、約4割

●デートDVの認知度について、「言葉も意味も知っている」が39.1%で最も高くなっているが、18.0%は「言葉も意味も知らない」となっている。



【属性別特徴】

●属性別にみても、特に大きな差はみられない。

◆表 子どもの性別◆

		サンプル数	言葉も意味も知っている	言葉は知っているが、意味は知らない	言葉も意味も知らない	わからない	無回答
上段:実数、下段:%							
性別	全体	161 100.0	63 39.1	32 19.9	29 18.0	33 20.5	4 2.5
	男性	84 100.0	32 38.1	13 15.5	19 22.6	19 22.6	1 1.2
	女性	73 100.0	31 42.5	16 21.9	10 13.7	13 17.8	3 4.1
	回答しない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

8 「DV防止と早期発見」について

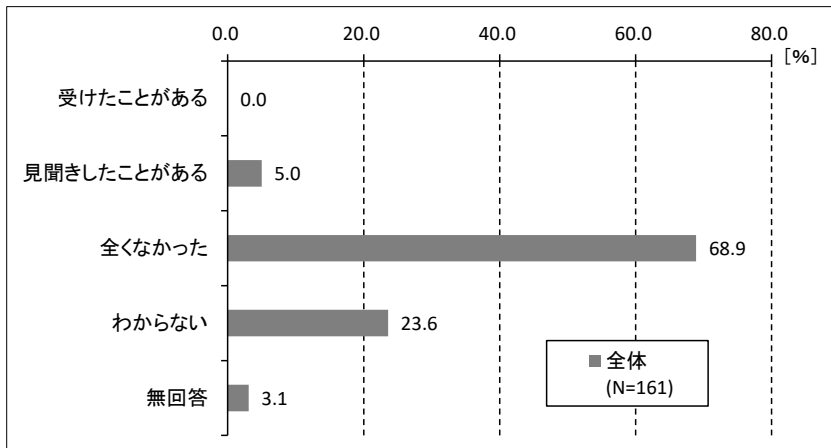
(38)子どもがデートDVを受けた又は見聞きした経験（中学1年生以上）

問 20. お子さんは、これまでデートDVを受けた又は見聞きしたことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

デートDVを『見聞きしたことがある』中高生は1割未満

●デートDVを見聞きした経験について、「全くなかった」が68.9%で最も高くなっている。



【属性別特徴】

●属性別にみても、特に大きな差はみられない。

◆表 子どもの性別◆

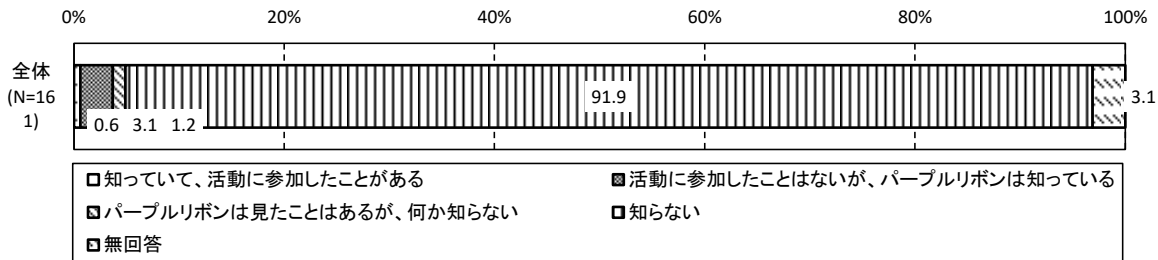
		サンプル数	受けたことがある	見聞きしたことがある	全くなかった	わからない	無回答
上段:実数、下段:%							
全体		161 100.0	0 0.0	8 5.0	111 68.9	38 23.6	5 3.1
性別	男性	84 100.0	0 0.0	4 4.8	56 66.7	22 26.2	3 3.6
	女性	73 100.0	0 0.0	4 5.5	52 71.2	15 20.5	2 2.7
	回答しない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

(39)子どもの「パープルリボン」の認知度（中学1年生以上）

問 21. お子さんは、「パープルリボン」について知っていますか。（○はひとつ）

「パープルリボン」については、『知らない』中高生が9割以上

● 「パープルリボン」の認知度について、「知らない」が91.9%で最も高くなっている。



【属性別特徴】

● 属性別にみても、特に大きな差はみられない。

◆表 子どもの性別◆

		サンプル数	知っている ことがあ る、活 動に参 加し	活動に 参加し たこと は知 りな い	パー プル リボ ンが 、何 か知 らな いこ と	知 ら な い	無 回 答
上段:実数、下段:%							
性別	全 体	161 100.0	1 0.6	5 3.1	2 1.2	148 91.9	5 3.1
	男性	84 100.0	0 0.0	4 4.8	1 1.2	76 90.5	3 3.6
	女性	73 100.0	1 1.4	1 1.4	1 1.4	68 93.2	2 2.7
	回答しない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

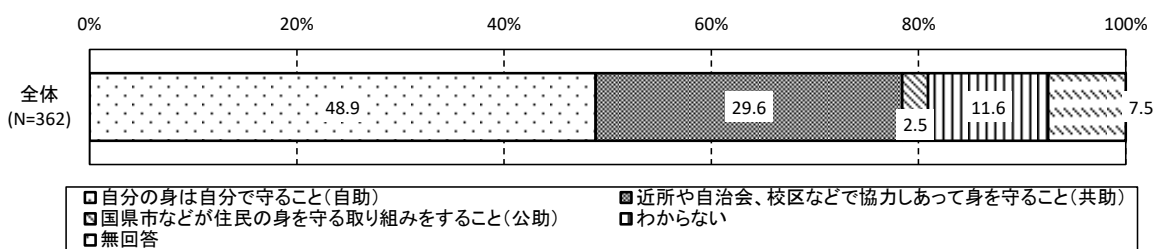
9 「地域防災力の向上」について

(40) 自然災害から身を守るために重要だと思うこと（小学1年生以上）

問 22. お子さんは、自然災害から身を守るために一番重要なものは何だと思っていますか。（○はひとつ）

自然災害から身を守るためには、『自分の身は自分で守ること』と考えている子どもが約5割

- 自然災害から身を守るために重要だと思うことについて、「自分の身は自分で守ること」が48.9%で最も高く、次に「近所や自治会、校区などで協力し合って身を守ること」が29.6%と続いている。



【属性別特徴】

- 男性・中高生（13～17歳）では、「自分の身は自分で守ること」の割合が高い。
- 女性・小学生（6～13歳）では、「近所や自治会、校区などで協力し合って身を守ること」の割合が高い。
- 中央南部では、「自分の身は自分で守ること」の割合が高い。
- 南東部では、「近所や自治会、校区などで協力し合って身を守ること」の割合が高い。

◆表 子どもの性別・年代別◆

	サンプル数	上段:実数、下段:%					無回答	
		自分の身は自分で守ること(自助)	近所や自治会、校区などで協力しあって身を守ること(共助)	国県市などが住民の身を守る取り組みをすること(公助)	わからない	無回答		
全体	362	177	107	9	42	27		
	100.0	48.9	29.6	2.5	11.6	7.5		
性別	男性	186	93	52	4	22	15	
		100.0	50.0	28.0	2.2	11.8	8.1	
	女性	171	82	53	5	19	12	
	100.0	48.0	31.0	2.9	11.1	7.0		
	回答しない	1	0	0	0	1	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0		
性別・年代別	小学生(6～13歳)	男性	102	44	35	1	14	8
			100.0	43.1	34.3	1.0	13.7	7.8
	女性	98	44	35	2	8	9	
		100.0	44.9	35.7	2.0	8.2	9.2	
中高生(13～17歳)	男性	84	49	17	3	8	7	
		100.0	58.3	20.2	3.6	9.5	8.3	
	女性	73	38	18	3	11	3	
	100.0	52.1	24.7	4.1	15.1	4.1		

◆表 居住校区別◆

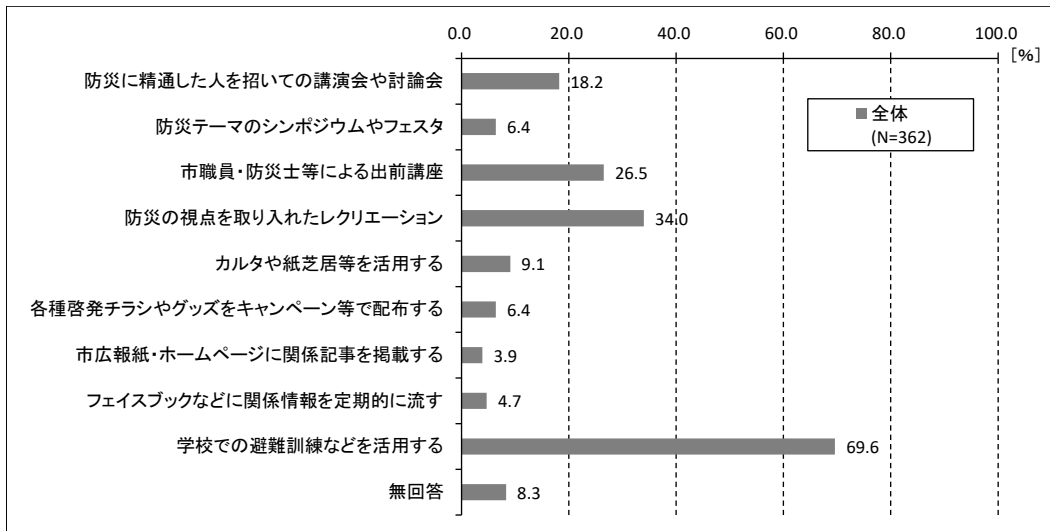
	サンプル数	上段:実数、下段:%					無回答
		自分の身は自分で守ること(自助)	近所や自治会、校区などで協力しあって身を守ること(共助)	国県市などが住民の身を守る取り組みをすること(公助)	わからない	無回答	
全体	362	177	107	9	42	27	
	100.0	48.9	29.6	2.5	11.6	7.5	
居住校区	東部A	18	10	5	0	2	1
		100.0	55.6	27.8	0.0	11.1	5.6
	東部B	18	9	5	0	2	2
		100.0	50.0	27.8	0.0	11.1	11.1
	北部A	31	13	8	4	2	4
		100.0	41.9	25.8	12.9	6.5	12.9
	北部B	17	6	6	0	3	2
		100.0	35.3	35.3	0.0	17.6	11.8
	中央東部	51	28	12	1	7	3
		100.0	54.9	23.5	2.0	13.7	5.9
	南東部	35	12	17	1	3	2
		100.0	34.3	48.6	2.9	8.6	5.7
	中央部	54	27	14	2	7	4
	100.0	50.0	25.9	3.7	13.0	7.4	
中央南部	56	33	12	1	8	2	
	100.0	58.9	21.4	1.8	14.3	3.6	
南西部	38	17	14	0	5	2	
	100.0	44.7	36.8	0.0	13.2	5.3	
西部A	18	10	7	0	0	1	
	100.0	55.6	38.9	0.0	0.0	5.6	
西部B	24	10	7	0	3	4	
	100.0	41.7	29.2	0.0	12.5	16.7	

(4 1) 「自助」の重要性を教えるために重要だと思うこと (小学1年生以上)

問 23. あなたは、お子さんに「自助」の重要性を教えるために、何が有効だと思いますか。(あてはまるもの2つに○)

「自助」の教育について、『学校での避難訓練などの活用』が有効であるとする保護者が約7割

● 「自助」の重要性を教えるために重要だと思うことについて、「学校での避難訓練などの活用」が69.6%で最も高くなっている。



【属性別特徴】

- 男性・小学生（6～13歳）では、「市職員・消防士等による出前講座」の割合が高い。
- 女性・中高生（13～17歳）では、「防災に精通した人を招いての講演会や討論会」の割合が高い。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	の講演会や討論会を招いて	や防災テーマのシンポジウム	市職員・防災士等による出前講座	防災の視点を取り入れたレクリエーション	カルタや紙芝居等を活用する	各種啓発チラシやグッズを配布する	市広報紙・ホームページに掲載する	フェイスブックなど定期的に流す	学校での避難訓練などを活用する	無回答	
上段:実数、下段:%													
全体		362 100.0	66 18.2	23 6.4	96 26.5	123 34.0	33 9.1	23 6.4	14 3.9	17 4.7	252 69.6	30 8.3	
性別	男性	186 100.0	35 18.8	13 7.0	54 29.0	57 30.6	18 9.7	13 7.0	8 4.3	9 4.8	125 67.2	16 8.6	
	女性	171 100.0	28 16.4	10 5.8	42 24.6	65 38.0	15 8.8	10 5.8	6 3.5	8 4.7	122 71.3	14 8.2	
	回答しない	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	
性別・年代別	小学生 (6～13歳)	男性	102 100.0	18 17.6	6 5.9	33 32.4	36 35.3	15 14.7	4 3.9	1 1.0	1 1.0	72 70.6	8 7.8
		女性	98 100.0	7 7.1	4 4.1	28 28.6	39 39.8	13 13.3	3 3.1	1 1.0	3 3.1	72 73.5	10 10.2
	中高生 (13～17歳)	男性	84 100.0	17 20.2	7 8.3	21 25.0	21 25.0	3 3.6	9 10.7	7 8.3	8 9.5	53 63.1	8 9.5
		女性	73 100.0	21 28.8	6 8.2	14 19.2	26 35.6	2 2.7	7 9.6	5 6.8	5 6.8	50 68.5	4 5.5

9 「地域防災力の向上」について

- 北部A、西部Aでは、「市職員・消防士等による出前講座」の割合が高い。
- 南西部では、「防災の視点を取り入れたレクリエーション」の割合が高い。
- 北部Bでは、「学校での避難訓練などを活用する」の割合が高い。

◆表 居住校區別◆

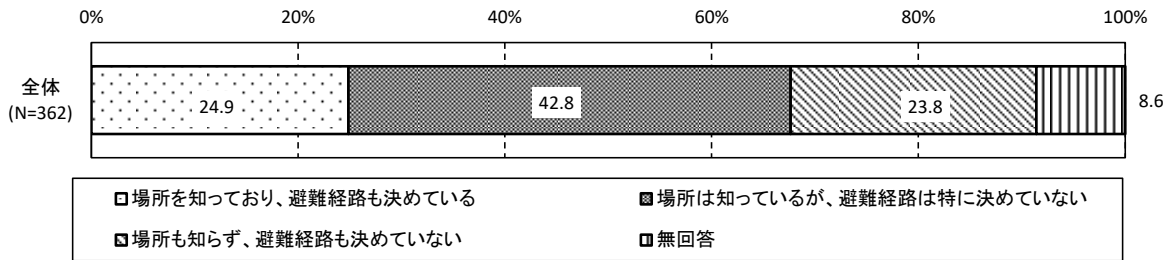
		サンプル数	防災の講演会や討論会の講演会や討論会を招いて	防災テーマのシンポジウムやフェスタ	市職員・防災士等による出前講座	防災の視点を取り入れたレクリエーション	カルタや紙芝居等を活用する	各種啓発チラシやグッズをキャンペーン等で配布する	市広報紙・ホームページに関係記事を掲載する	フェイスブックなどに定期的に流す	学校での避難訓練などを活用する	無回答
上段:実数、下段:%												
全体		362 100.0	66 18.2	23 6.4	96 26.5	123 34.0	33 9.1	23 6.4	14 3.9	17 4.7	252 69.6	30 8.3
居住校區	東部A	18 100.0	1 5.6	1 5.6	5 27.8	9 50.0	1 5.6	0 0.0	0 0.0	1 5.6	14 77.8	1 5.6
	東部B	18 100.0	3 16.7	2 11.1	5 27.8	4 22.2	1 5.6	2 11.1	2 11.1	1 5.6	12 66.7	2 11.1
	北部A	31 100.0	5 16.1	2 6.5	12 38.7	9 29.0	3 9.7	3 9.7	3 9.7	0 0.0	20 64.5	4 12.9
	北部B	17 100.0	3 17.6	1 5.9	5 29.4	4 23.5	4 23.5	0 0.0	0 0.0	2 11.8	14 82.4	1 5.9
	中央東部	51 100.0	11 21.6	3 5.9	13 25.5	20 39.2	4 7.8	3 5.9	3 5.9	2 3.9	35 68.6	3 5.9
	南東部	35 100.0	9 25.7	0 0.0	11 31.4	9 25.7	4 11.4	2 5.7	0 0.0	1 2.9	25 71.4	3 8.6
	中央部	54 100.0	13 24.1	4 7.4	15 27.8	18 33.3	4 7.4	4 7.4	1 1.9	2 3.7	39 72.2	3 5.6
	中央南部	56 100.0	10 17.9	6 10.7	11 19.6	19 33.9	5 8.9	1 1.8	2 3.6	6 10.7	40 71.4	5 8.9
	南西部	38 100.0	5 13.2	0 0.0	10 26.3	17 44.7	3 7.9	2 5.3	1 2.6	0 0.0	26 68.4	3 7.9
	西部A	18 100.0	1 5.6	1 5.6	7 38.9	6 33.3	1 5.6	2 11.1	0 0.0	2 11.1	12 66.7	1 5.6
	西部B	24 100.0	5 20.8	3 12.5	2 8.3	8 33.3	3 12.5	3 12.5	1 4.2	0 0.0	14 58.3	4 16.7

(42) 子どもの地域の避難所の認知度 (小学1年生以上)

問 24. お子さんは、地域の避難所を知っていますか。(○はひとつ)

地域の避難所の『場所を知らない』子どもは2割以上

●子どもの地域の避難所の認知度について、「場所は知っているが、避難経路は特に決めていない」が42.8%で最も高くなっている。



【属性別特徴】

- 小学生(6~13歳)では、「場所も知らず、避難経路も決めていない」の割合が高い。
- 男性・中高生(13~17歳)では、「場所を知っており、避難経路も決めている」割合が高い。
- 中央東部、南西部では、「場所は知っているが、避難経路は特に決めていない」の割合が高い。
- 南東部では、「場所も知らず、避難経路も決めていない」の割合が高い。

◆表 子どもの性別・年代別

		サンプル数	場所も決めており、避難経路は知っている	場所は知っているが、避難経路も決めていない	場所も知らず、避難経路も決めていない	無回答	
上段:実数、下段:%							
全体		362	90	155	86	31	
		100.0	24.9	42.8	23.8	8.6	
性別	男性	186	43	80	46	17	
		100.0	23.1	43.0	24.7	9.1	
	女性	171	45	74	38	14	
		100.0	26.3	43.3	22.2	8.2	
	回答しない	1	0	0	1	0	
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
性別・年代別	小学生(6~13歳)	男性	102	16	44	32	10
			100.0	15.7	43.1	31.4	9.8
	女性	98	25	36	29	8	
		100.0	25.5	36.7	29.6	8.2	
中高生(13~17歳)	男性	84	27	36	14	7	
		100.0	32.1	42.9	16.7	8.3	
	女性	73	20	38	9	6	
		100.0	27.4	52.1	12.3	8.2	

◆表 居住校區別◆

		サンプル数	場所も決めており、避難経路は知っている	場所は知っているが、避難経路も決めていない	場所も知らず、避難経路も決めていない	無回答
上段:実数、下段:%						
全体		362	90	155	86	31
		100.0	24.9	42.8	23.8	8.6
居住校区	東部A	18	4	8	5	1
		100.0	22.2	44.4	27.8	5.6
	東部B	18	6	6	4	2
		100.0	33.3	33.3	22.2	11.1
	北部A	31	8	12	6	5
		100.0	25.8	38.7	19.4	16.1
	北部B	17	6	7	3	1
		100.0	35.3	41.2	17.6	5.9
	中央東部	51	13	26	9	3
		100.0	25.5	51.0	17.6	5.9
	南東部	35	7	14	11	3
		100.0	20.0	40.0	31.4	8.6
	中央部	54	17	22	12	3
	100.0	31.5	40.7	22.2	5.6	
中央南部	56	13	22	16	5	
	100.0	23.2	39.3	28.6	8.9	
南西部	38	9	20	8	1	
	100.0	23.7	52.6	21.1	2.6	
西部A	18	4	8	5	1	
	100.0	22.2	44.4	27.8	5.6	
西部B	24	3	10	5	6	
	100.0	12.5	41.7	20.8	25.0	

9 「地域防災力の向上」について

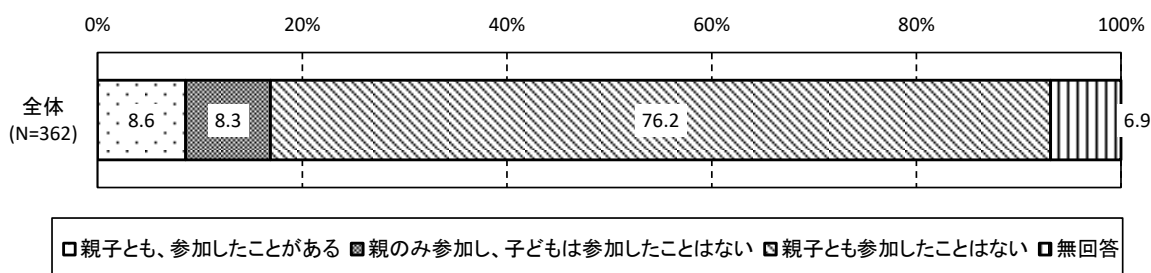
(43) 自主防災組織が行なう避難訓練や講演会等の参加状況（小学1年生以上）

問 25. 自主防災組織が行なう避難訓練や講演会等に、参加したことがありますか。

(○はひとつ)

自主防災組織が行なう避難訓練や講演会等には『親子共に参加したことがない』人が7割以上

●自主防災組織が行なう避難訓練や講演会等の参加状況について、「親子共に参加したことがない」が76.2%で最も高くなっている。



【属性別特徴】

●自治会に加入していない人や自治会加入がわからない人では、「親子とも参加したことはない」の割合が高い。

◆表 子どもの性別・年代別◆

		サンプル数	ある親子とも、参加したことが	親のみ参加し、子どもは参加したことはない	親子とも参加したことはない	無回答	
上段:実数、下段:%							
全 体		362 100.0	31 8.6	30 8.3	276 76.2	25 6.9	
性別	男性	186 100.0	13 7.0	18 9.7	141 75.8	14 7.5	
	女性	171 100.0	17 9.9	11 6.4	132 77.2	11 6.4	
	回答しない	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	
性別・年代別	小学生 (6~13歳)	男性	102 100.0	9 8.8	10 9.8	75 73.5	8 7.8
		女性	98 100.0	9 9.2	6 6.1	75 76.5	8 8.2
	中高生 (13~17歳)	男性	84 100.0	4 4.8	8 9.5	66 78.6	6 7.1
		女性	73 100.0	8 11.0	5 6.8	57 78.1	3 4.1

◆表 自治会の加入状況別◆

		サンプル数	ある親子とも、参加したことが	親のみ参加し、子どもは参加したことはない	親子とも参加したことはない	無回答
上段:実数、下段:%						
全 体		362 100.0	31 8.6	30 8.3	276 76.2	25 6.9
自治会の加入状況	加入している	324 100.0	29 9.0	27 8.3	243 75.0	25 7.7
	加入していない	28 100.0	2 7.1	3 10.7	23 82.1	0 0.0
	わからない	10 100.0	0 0.0	0 0.0	10 100.0	0 0.0

●南東部では、「親子とも参加したことはない」の割合が高い。

◆表 居住校區別◆

		サンプル数	ある親子とも、参加したことが	加親のみ参加したことはない、子どもは参加	い親子とも参加したことはない	無回答
上段:実数、下段:%						
全 体		362 100.0	31 8.6	30 8.3	276 76.2	25 6.9
居住校區	東部A	18 100.0	1 5.6	2 11.1	14 77.8	1 5.6
	東部B	18 100.0	4 22.2	0 0.0	12 66.7	2 11.1
	北部A	31 100.0	0 0.0	4 12.9	23 74.2	4 12.9
	北部B	17 100.0	3 17.6	1 5.9	12 70.6	1 5.9
	中央東部	51 100.0	3 5.9	6 11.8	39 76.5	3 5.9
	南東部	35 100.0	3 8.6	1 2.9	29 82.9	2 5.7
	中央部	54 100.0	4 7.4	4 7.4	43 79.6	3 5.6
	中央南部	56 100.0	7 12.5	5 8.9	41 73.2	3 5.4
	南西部	38 100.0	3 7.9	4 10.5	30 78.9	1 2.6
	西部A	18 100.0	2 11.1	2 11.1	13 72.2	1 5.6
	西部B	24 100.0	1 4.2	1 4.2	18 75.0	4 16.7

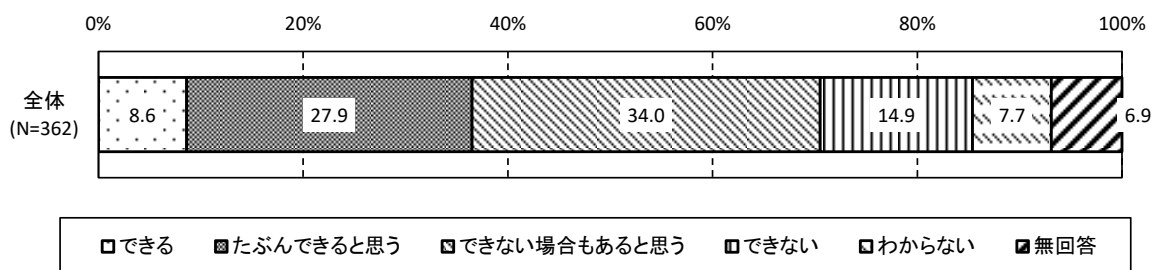
9 「地域防災力の向上」について

(44) 災害が発生したときのひとりで避難できるか（小学1年生以上）

問 26. お子さんは、災害が発生したときに、ひとりで避難できると思いますか。（○はひとつ）

約5割の保護者が、災害時に子どもが1人で『避難できない』『できない場合がある』と考えている

● 災害が発生したときのひとりで避難できるかについて、「できない場合もあると思う」が34.0%で最も高くなっている。



【属性別特徴】

- 小学生（6～13歳）では、「できない」の割合が高い。
- 中高生（13～17歳）では、「たぶんでできると思う」の割合が高い。

◆ 表 子どもの性別・年代別 ◆

		サンプル数	できる	たぶんでできると思う	できない場合もあると思う	できない	わからない	無回答	
上段:実数、下段:%									
全 体		362	31	101	123	54	28	25	
		100.0	8.6	27.9	34.0	14.9	7.7	6.9	
性別	男性	186	18	55	57	27	16	13	
		100.0	9.7	29.6	30.6	14.5	8.6	7.0	
	女性	171	12	45	64	26	12	12	
		100.0	7.0	26.3	37.4	15.2	7.0	7.0	
	回答しない	1	0	0	0	1	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
性別・年代別	小学生 (6～13歳)	男性	102	3	21	36	22	13	7
			100.0	2.9	20.6	35.3	21.6	12.7	6.9
	女性	98	2	17	42	21	7	9	
		100.0	2.0	17.3	42.9	21.4	7.1	9.2	
中高生 (13～17歳)	男性	84	15	34	21	5	3	6	
		100.0	17.9	40.5	25.0	6.0	3.6	7.1	
	女性	73	10	28	22	5	5	3	
		100.0	13.7	38.4	30.1	6.8	6.8	4.1	

- 中央部、南西部では、「できない場合もあると思う」の割合が高い。
- 東部Aでは、「できない」の割合が高い。

◆表 居住校区別◆

		サンプル数	できる	たぶんでできると思う	できない場合もあると思う	できない	わからない	無回答
上段:実数、下段:%								
全 体		362 100.0	31 8.6	101 27.9	123 34.0	54 14.9	28 7.7	25 6.9
居住校区	東部A	18 100.0	2 11.1	7 38.9	2 11.1	6 33.3	0 0.0	1 5.6
	東部B	18 100.0	2 11.1	7 38.9	3 16.7	4 22.2	0 0.0	2 11.1
	北部A	31 100.0	4 12.9	5 16.1	12 38.7	3 9.7	3 9.7	4 12.9
	北部B	17 100.0	2 11.8	3 17.6	6 35.3	4 23.5	1 5.9	1 5.9
	中央東部	51 100.0	5 9.8	16 31.4	18 35.3	5 9.8	4 7.8	3 5.9
	南東部	35 100.0	2 5.7	12 34.3	12 34.3	2 5.7	5 14.3	2 5.7
	中央部	54 100.0	4 7.4	9 16.7	26 48.1	10 18.5	2 3.7	3 5.6
	中央南部	56 100.0	6 10.7	19 33.9	14 25.0	6 10.7	8 14.3	3 5.4
	南西部	38 100.0	0 0.0	13 34.2	16 42.1	6 15.8	2 5.3	1 2.6
	西部A	18 100.0	2 11.1	5 27.8	5 27.8	4 22.2	1 5.6	1 5.6
西部B	24 100.0	2 8.3	3 12.5	9 37.5	4 16.7	2 8.3	4 16.7	

- 場所は知っているが、避難経路は特に決めていない人では、「たぶんでできると思う」の割合が高い。
- 避難訓練や講習会に親子とも参加したことがある人、親のみ参加したことがある人では、「たぶんでできると思う」の割合が高い。

◆表 子どもの地域の避難所の認知度、自主防災組織が行なう避難訓練や講演会の参加状況別◆

		サンプル数	できる	たぶんでできると思う	できない場合もあると思う	できない	わからない	無回答
上段:実数、下段:%								
全 体		362 100.0	31 8.6	101 27.9	123 34.0	54 14.9	28 7.7	25 6.9
子ども の 認 知 度 の	場所を知っており、避難経路も決めている	90 100.0	15 16.7	30 33.3	33 36.7	6 6.7	6 6.7	0 0.0
	場所は知っているが、避難経路は特に決めていない	155 100.0	15 9.7	55 35.5	58 37.4	15 9.7	12 7.7	0 0.0
	場所も知らず、避難経路も決めていない	86 100.0	0 0.0	15 17.4	28 32.6	32 37.2	10 11.6	1 1.2
自主 防 災 組 織 が 行 な う の 参 加 状 況	親子とも、参加したことがある	31 100.0	2 6.5	11 35.5	13 41.9	2 6.5	3 9.7	0 0.0
	親のみ参加し、子どもは参加したことはない	30 100.0	5 16.7	12 40.0	10 33.3	2 6.7	1 3.3	0 0.0
	親子とも参加したことはない	276 100.0	24 8.7	78 28.3	99 35.9	50 18.1	24 8.7	1 0.4

久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査

<子ども(17歳以下)>

ご協力のお願い

日頃より、久留米市政にご理解とご協力を頂きありがとうございます。
市では、WHO(世界保健機関)が推奨する「セーフコミュニティ」活動に取り組んでおります。

この「セーフコミュニティ」は、市民の皆さまや関係団体と協働で事故やケガの予防などに取り組むことにより、「安全に安心して暮らせるまちづくり」を目指すものです。

本調査は、セーフコミュニティの取り組みを推進するにあたり、その基礎資料とするため、市民の皆さまの事故やケガの状況やセーフコミュニティの重点取り組みなどについてお聞きするものです。

なお、平成29年7月28日現在で、市内にお住まいの方の3,500名を無作為に抽出し、調査票を送付させていただいております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願い申し上げます。

※この調査結果は統計的に処理する以外の目的では一切利用いたしません。

平成29年8月

久留米市長 檜原 利則

矢田で折の曲に返信していただきます

矢田で折の曲に返信していただきます

●調査票の記入について

1. 調査対象は、**封筒のあて名に記載したお子さん**となります。

ただし、質問に応じて、お子さんに聞き取りいただくか、保護者の方が自身のことについて、回答いただきますようお願いいたします。

2. 回答は、特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲ってください。
3. 調査票の回収については、お手数ですが**8月31日(木)まで**に、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、郵便ポストに投函いただきますようお願いいたします。
4. 本調査に関してご不明な点等がございましたら、お手数ですが下記の連絡先まで、ご連絡下さい。

問い合わせ・連絡先：久留米市 協働推進部 安全安心推進課
電話0942-30-9094 FAX0942-30-9706



セーフコミュニティ国際認証都市
久留米市

以下の質問は、調査結果を統計的に整理するために必要なものです。

ご記入に、ご協力をお願いいたします。

F 1 あなたの年齢と性別は。(平成29年8月1日現在)

年齢 () 歳

性別 1. 男性 2. 女性 3. 回答しない

F 2 お子さんの年齢と性別は。(平成29年8月1日現在)

年齢 () 歳

性別 1. 男性 2. 女性 3. 回答しない

F 3 あなたの家(同居している方のみ)の家族構成は。

1. 単身 2. 夫婦のみ 3. 親・子(2世代)

4. 親・子・孫(3世代) 5. その他()

F 4 あなたが同居している家族について、該当するものを選んでください。

(あてはまるものすべてに○)

1. 世帯の中に就学前の子どもがいる
2. 世帯の中に小学生がいる
3. 世帯の中に中学生がいる
4. 世帯の中に1～3以外の18歳未満の子どもがいる
5. 世帯の中に65歳以上の人がいる
6. 世帯の中に障害者手帳を持っている人がある
7. 世帯に上記1～6にあてはまる人はいない

F 5 あなたのお住まいの住居形態は。

1. 持ち家(一戸建て)
2. 持ち家(集合住宅・分譲マンション)
3. 借家住宅(一戸建て)
4. 賃貸住宅(アパート、マンション)
5. 勤務先給与住宅(公務員住宅・社宅・寮など)
6. 間借り、その他()

F 6 あなたの世帯は、自治会(町内会)に加入していますか。

1. 加入している
2. 加入していない
3. わからない

F7 あなたは、ふだん「広報くるめ」をどれくらい読んでいますか。

1. 毎号必ず読む
2. ときどき読む
3. あまり読まない
4. まったく読まない

F8 あなたのお住まいの校区（小学校区）は。（○はひとつ）

- | | | | | | |
|--------|---------|--------|--------|-----------|---------|
| 1. 西国分 | 2. 荘島 | 3. 日吉 | 4. 篠山 | 5. 京町 | 6. 南薫 |
| 7. 鳥飼 | 8. 長門石 | 9. 小森野 | 10. 金丸 | 11. 東国分 | 12. 御井 |
| 13. 南 | 14. 合川 | 15. 山川 | 16. 上津 | 17. 高良内 | 18. 宮ノ陣 |
| 19. 山本 | 20. 草野 | 21. 安武 | 22. 荒木 | 23. 大善寺 | 24. 善導寺 |
| 25. 大橋 | 26. 青峰 | 27. 津福 | 28. 船越 | 29. 水縄 | 30. 田主丸 |
| 31. 水分 | 32. 竹野 | 33. 川会 | 34. 柴刈 | 35. 弓削 | 36. 北野 |
| 37. 大城 | 38. 金島 | 39. 城島 | 40. 下田 | 41. 江上 | 42. 青木 |
| 43. 浮島 | 44. 西牟田 | 45. 大塚 | 46. 三瀨 | 47. わからない | |

1「主なケガ」について

- 問1. お子さんは、過去1年間(平成28年8月以降)にケガをされましたか。(○はひとつ)
(ケガとは、骨折、捻挫、打撲、切り傷などで、病院にかからないようなものも対象とします。)
1. ケガをした
 2. ケガはしていない

問1で「1」と回答された方にお聞きします。「2」と回答された方は、問2へお進みください。
※複数の経験があれば、最も重症だったものを選んでください。

問1-1. ケガの原因は何でしたか。(○はひとつ)

1. 交通事故
2. 転倒
3. 転落
4. 接触・衝突
5. はさまれた
6. モノの落下
7. 熱いものに触れた
8. 鋭利なものへの接触
9. 虫などにさされた・蛇などにかまれた
10. 犬などにかまれた
11. 暴行
12. 異物を飲んだ
13. 重い物を持った
14. その他 ()

問1-2. ケガをした時は何をしていましたか。(○はひとつ)

1. 通学を含む教育活動
2. 食事
3. 買い物を含む家事
4. 運動・スポーツ
5. 散歩
6. 入浴
7. 趣味・遊びなどを含む余暇活動
8. ボランティアなどの奉仕活動
9. その他 ()

問1-3. ケガをした場所はどこでしたか。(○はひとつ)

1. 自宅(居間)
2. 自宅(寝室)
3. 自宅(風呂)
4. 自宅(階段)
5. 自宅(玄関)
6. 自宅(台所)
7. 自宅の庭
8. 自宅(1～7以外)
9. 学校
10. 農地・林地
11. 公園
12. 駅・バス停
13. 商業・飲食・娯楽施設
14. スポーツ施設
15. 道路・歩道
16. その他 ()

問 1-4. ケガをした状況・きっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 段差や物でつまづいた | 2. 濡れた場所で滑った |
| 3. バランスを崩した | 4. あわてた |
| 5. ぶつかった | 6. よそ見・わき見をした |
| 7. 考え事をしていた | 8. 操作を誤った |
| 9. 飛び出した | 10. 身を乗り出した |
| 11. その他 () | |

問 1-5. ケガをした部位 (からだの場所) はどこですか。(○はひとつ)

※一番ひどく、傷の深かった部位や骨折、出血した部位を選んでください。

- | | |
|----------------------|-------|
| 1. あたま (顔、口、鼻、耳、口内等) | 2. 首 |
| 3. うで (手、手首、ひじ等) | 4. 肩 |
| 5. 胸部 | 6. 背中 |
| 7. 腹部 | 8. 腰部 |
| 9. あし (足、足首、ひざ等) | |
| 10. その他 () | |

問 1-6. どのようなケガでしたか。(○はひとつ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 脳挫傷・脳しんとう | 2. 骨折 |
| 3. ヤケド | 4. 脱臼 |
| 5. 捻挫 | 6. 打撲 |
| 7. 刺し傷・切り傷 | 8. すり傷・ひっかき傷 |
| 9. 中毒・誤飲 | |
| 10. その他 () | |

2「自宅でのケガや事故」について

※お子さんが、小学1年生未満（未就学児）の保護者の方のみご回答ください。それ以外の方は、問4へお進み下さい。

問2. お子さんは、過去1年間(平成28年8月以降)に、自宅でケガをされましたか。該当するものを選んでください。

	どちらかに○をつけて下さい。	あてはまるものに○をつけて下さい。
1. ベットや椅子などから転落	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
2. ベランダや窓の手すりを乗り越えるなどの高所からの転落	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
3. 階段からの転落	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
4. たばこやおもちゃなど異物の誤飲	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
5. 就寝中の窒息	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
6. 火気や熱湯、暖房器具などの接触によるヤケド	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
7. 入浴中の溺水	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
8. 廊下や浴室などでの転倒	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
9. 刃物や鋭利なものによるケガ	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
10. 家具や物、人などに体をぶつけるなどの衝突	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
11. ドアや窓、家具などに挟まれたケガ	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
12. 動物や虫などに咬まれたケガ	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない

問3. あなたは、家庭内の安全対策について、知っていたり、聞いたことがありますか。該当するものを選んでください。

	あてはまるものに○をつけて下さい。	どちらかに○をつけて下さい。
1. 家具の角にかぶせものをする	1 知っている 2 聞いたことがある 3 知らない	1 実践している 2 実践していない
2. たんすや食器棚、流し台のドアが開かないように固定する	1 知っている 2 聞いたことがある 3 知らない	1 実践している 2 実践していない
3. 部屋のドアを固定し急に閉じないようにする	1 知っている 2 聞いたことがある 3 知らない	1 実践している 2 実践していない
4. 窓を固定し窓から出られないようにする	1 知っている 2 聞いたことがある 3 知らない	1 実践している 2 実践していない
5. コンセントカバー等を使用して感電を防止する	1 知っている 2 聞いたことがある 3 知らない	1 実践している 2 実践していない
6. コード類は束ねてつまづかないようにする	1 知っている 2 聞いたことがある 3 知らない	1 実践している 2 実践していない
7. 家電等のスイッチを勝手に入れられないようにする	1 知っている 2 聞いたことがある 3 知らない	1 実践している 2 実践していない
8. 子ども用の便座や蓋を使用してトイレの中に落ちないようにする	1 知っている 2 聞いたことがある 3 知らない	1 実践している 2 実践していない
9. 浴槽の床にマット等を敷きすべらないようにする	1 知っている 2 聞いたことがある 3 知らない	1 実践している 2 実践していない
10. 階段や段差に柵をして転落しないようにする	1 知っている 2 聞いたことがある 3 知らない	1 実践している 2 実践していない

3 「屋外でのケガや事故」について

※お子さんの年齢に関わらず、すべての保護者の方がご回答ください。

問 4. お子さんは、過去 1 年間(平成 2 8 年 8 月以降)に、久留米市内(自宅を除く)で、ケガをされましたか。該当するものを選んでください。

	どちらかに○をつけて下さい。	あてはまるものに○をつけて下さい。
1. 川やプールなどでの溺水	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
2. 交通事故(徒歩、自転車、自動車に乗車中)	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
3. 道路や歩道を歩いているの転倒	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
4. 公園の遊具(ブランコ、すべり台など)で遊んでいるのケガ	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
5. 動物や虫などに咬まれたケガ	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
6. 人や物(電柱など)に衝突	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
7. 階段や高所からの転落	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
8. 建物や電車のドアに挟まれたケガ	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
9. 学校(校舎、体育館などの屋内)でのケガ(クラブ活動中も含む)	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
10. 学校(グラウンド、プールなどの屋外)でのケガ(クラブ活動中も含む)	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
11. 保育園・幼稚園でのケガ	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない
12. いじめによるケガ	1 該当する 2 該当しない	1 大人がいた 2 医療機関に行った 3 どちらでもない

4「自転車事故の防止」について

※お子さんの年齢に関わらず、すべての保護者の方がご回答ください。

問 5. お子さんは、普段、自転車に乗りますか。(○はひとつ)

- | | |
|-------------|-----------|
| 1. ほぼ毎日乗る | 2. ときどき乗る |
| 3. ほとんど乗らない | 4. 全く乗らない |

問 5 で「1」～「3」と回答された方にお聞きします。「4」と回答した方は、問 6 へお進みください。

問 5-1. あなたは、お子さんの自転車による加害事故の損害責任に備えて、自転車保険等に加入していますか。(○はひとつ)

1. 加入している (自動車保険の付帯として)
2. 加入している (自転車保険)
3. 加入していない

問 5-2. お子さんは、自転車に乗るときに、ヘルメットを着用していますか。(○はひとつ)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. 必ず着用している | 2. ときどき着用している |
| 3. ほとんど着用していない | 4. 着用していない |
| 5. ヘルメットを持っていない | |

問 6. お子さんは、過去 1 年間 (平成 28 年 8 月以降) に、「バイクの運転中」「自転車の運転中」「歩行中」に、交通事故にあった又はあいそうになったことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

	事故にあった (被害者)	事故にあいそ うになった	事故をおこし た (加害者)	事故をおこし そうになった	いずれもなか った
(A) バイク の運転中	1	2	3	4	5
(B) 自転車 の運転中	1	2	3	4	5
(C) 歩行中	1	2	3	4	5

問 6 で、「5」以外とご回答した方にお聞きします。すべて「5」と回答した方は、問 7 へお進みください。

問 6-1. お子さんは、どのようなときに交通事故にあった又はあいそうになりましたか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------|--------|
| 1. 登下校中 | 2. 習い事 |
| 3. 買い物 | 4. 遊び |
| 5. その他 () | |

5「児童虐待の防止」について

※お子さんの年齢に関わらず、すべての保護者の方がご回答ください。

問7. あなたは、次の行為は児童虐待にあたると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 子どもを叩いたり、蹴ったりする
2. 子どもにわいせつなものを見せる
3. 子どもの目の前で配偶者や他の家族へ暴力をふるう
4. 乳幼児を家に残して外出する
5. 家の外に締め出す
6. 子どもに食事を与えない
7. しつけと称して、押入れやクローゼットに閉じ込める
8. 体罰でしつけをする
9. 病気の子どものに必要な治療を受けさせない
10. 子どもを無視したり、拒否的な態度をとる

問8. あなたは、児童虐待について、次のことを知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 全国的に児童虐待が原因で、毎年60名程度の子どもが死亡している
2. 虐待をうけている子どもは、自ら相談できないケースがほとんどである
3. 児童虐待の背景には、身近な相談相手の不存在や子育てに対する負担増などがある
4. 児童相談所では、一時保護するケースが増え、期間も長期化している
5. 児童虐待や虐待されたと思われる子どもを発見した者には通報義務がある
6. 児童虐待の通報は匿名でもかまわない
7. 児童虐待を通報した者の秘密は守られる
8. 児童虐待防止のシンボルマークは「オレンジリボン」である
9. 毎年11月は児童虐待防止推進月間であり、オレンジリボンキャンペーンが行われる
10. 児童相談所全国共通ダイヤルの番号は「189」である

問9. あなたは、これまで児童虐待を見聞きしたことがありますか。(○はひとつ)

1. 見聞きしたことがある
2. 全くなかった
3. わからない

問10. あなたは、これまで自分が児童虐待をしているのではないかと思うことがありましたか。

(○はひとつ)

1. あった
2. ときどきあった
3. ほとんどなかった
4. 全くなかった
5. わからない

問 10 で「1」～「2」と回答された方にお聞きします。それ以外の方は、問 11 へお進みください。

問 10-1. あなたは、問 10 でお答えいただいた行為について、どう思っていますか。

(○はひとつ)

1. 別に何も思わない
2. 子どもが悪いから、仕方ないと思う
3. しつげだから、仕方ないと思う
4. 悪いことだと思うがしてしまう
5. わからない

問 10-2. あなたは、問 10 でお答えいただいた行為について、相談していますか。

(○はひとつ)

1. 相談している
2. ときどき相談している
3. ほとんど相談していない
4. 相談していない
5. 相談したいができない
6. どこに相談したらいいかわからない

問 10-2 で「1」～「2」と回答された方にお聞きします。それ以外の方は、問 11 へお進みください。

問 10-3. あなたは、誰に相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 同居中の家族
2. 他に住んでいる親族
3. 友人や知人
4. 民生委員や児童委員
5. NPO など民間の相談機関
6. 市家庭子ども相談課など市の相談窓口
7. 県や国の相談機関
8. その他 ()

問 11. あなたは、児童虐待の防止策として、何が有効だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 子育て世帯に、物心両面での支援を強化する
2. 児童相談所などの公的機関の権限を強化する
3. 虐待者の処罰（刑罰を含む）を明らかにするとともに、厳しく処罰する
4. 里親、(特別)養子などの新たな親子関係を築きやすい環境整備をする
5. 俗に言う「赤ちゃんポスト」を増やす
6. 未婚の若い世代への研修や啓発を推進する
7. 虐待の疑いがある場合は関係機関に通告しやすい環境整備をする
8. 虐待防止の広報啓発活動を積極的に行なう

6 「学校の安全」について

※お子さんが、小学1年生以上の保護者の方のみご回答ください。それ以外の方は、問15へお進み下さい。

問12. お子さんは、過去1年間（平成28年8月以降）に、ケガや病気等で学校の保健室を利用したことはありますか。（○はひとつ）

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. 全く利用していない | 2. 1～2回利用した |
| 3. 3回から10回くらい利用した | 4. 10回以上利用した |

問12で、「2」～「4」と回答された方にお聞きします。「1」と回答した方は、問13へお進みください。

問12-1. お子さんは、どんなときに保健室を利用しましたか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. ケガをしたとき | 2. 病気や気分が悪くなったとき |
| 3. 教室に入りたくないとき | 4. 養護の先生に相談があったとき |
| 5. その他（ | ） |

問13. お子さんは、帰宅後、外へ出かけるとき主な交通手段は何ですか。（○はひとつ）

- | | |
|---------|-----------|
| 1. 徒歩 | 2. 自転車 |
| 3. 車で送迎 | 4. 公共交通機関 |
| 5. その他（ | ） |

問14. お子さんは、これまで不審者にあつたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1. あとをつけられた | 2. 「こっちにおいで」などと声をかけられた |
| 3. 写真やビデオなどを撮られた | 4. 下半身などを見せられた |
| 5. 所持品を渡すように脅された | 6. 連れて行かれそうになった |
| 7. その他（ | ） |
| 8. あつたことはない | |

問14で、「1」～「7」と回答された方にお聞きします。「8」と回答した方は、問15へお進みください。

問14-1. お子さんは、不審者にあつたときどうしましたか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------------------------|---|
| 1. 急いで逃げた | |
| 2. 「子ども110番の家」など近くの家へ逃げ込んだ | |
| 3. 大声で助けを呼んだ | |
| 4. 防犯ブザーや防犯ベルなどを鳴らした | |
| 5. 家の人に話した | |
| 6. 警察に通報した（家族等がしたものを含む） | |
| 7. 学校の先生に話した（家族等がしたものを含む） | |
| 8. 何もしなかった | |
| 9. その他（ | ） |

7「犯罪の防止・防犯力の向上」について

※お子さんの年齢に関わらず、すべての保護者の方がご回答ください。

問 15. あなたは、お子さんが犯罪の被害にあうかもしれないという不安はありますか。

(○はひとつ)

1. 不安である
2. ときどき不安である
3. ほとんど不安はない
4. 不安はない

問 15 で、「1」～「2」と回答された方にお聞きします。「3」～「4」と回答された方は、問 16 へお進みください。

問 15-1. あなたは、お子さんがどのような犯罪に巻き込まれるかと思われると感じますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 自転車やバイクなどの盗難
2. 暴力(暴力行為、脅迫、傷害など)
3. 性犯罪(強制わいせつ、痴漢、盗撮など)
4. ネット犯罪(SNSの利用による犯罪など)
5. ストーカー
6. 暴走族や暴力団関係
7. その他 ()

* SNSとは、ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。人と人とのコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援するインターネット上のサービスのこと。

問 15-2. あなたは、お子さんがどこで犯罪に巻き込まれるかと思われると感じますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 自宅(庭を含む)
2. 道路上
3. 学校
4. 公園
5. ゲームセンターなど娯楽施設内
6. スーパーなど商業施設内
7. 駐車場や駐輪場
8. バスや電車など交通機関
9. インターネット・電話(SNSを含む)
10. その他 ()

8 「DV防止と早期発見」について

*** お子さんが、中学1年生以上の保護者の方のみご回答ください。それ以外の方は、問22へお進み下さい。**

問17. お子さんは、「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思っていますか。(○はひとつ)

1. 同感している
2. ある程度同感している
3. あまり同感していない
4. 同感していない
5. よくわかっていない

問18. お子さんは、「暴力」についてどう考えていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. どんな理由があろうと暴力は絶対許されない
2. 暴力は良くないが、時には必要だと思う
3. 愛情があれば(しつけや鍛えるため)、本人のためになる
4. 暴力でしか解決できないときがある
5. 暴力をふるわれた者が仕返し(報復)するのは仕方がない
6. わからない

問19. お子さんは、デートDV(ドメスティックバイオレンス)という言葉やその意味を知っていますか。(○はひとつ)

1. 言葉も意味も知っている
2. 言葉は知っているが、意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない
4. わからない

* デートDVとは、中高生の恋人又は元恋人の同士の間で起こる暴力のこと。

- ・身体的・・・殴る、蹴る、物を投げるなど
- ・精神的・・・ひどい言葉で傷つける、監視する、無断でメールチェックする、交際を制限するなど
- ・経済的・・・お金をたかる、借りたお金を返さない
- ・性的・・・キスやセックスを強要する、避妊しないなど

問20. お子さんは、これまでデートDVを受けた又は見聞きしたことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 受けたことがある
2. 見聞きしたことがある
3. 全くなかった
4. わからない

問21. お子さんは、「パープルリボン」について知っていますか。(○はひとつ)

1. 知っていて、活動に参加したことがある
2. 活動に参加したことはないが、パープルリボンは知っている
3. パープルリボンは見たことはあるが、何か知らない
4. 知らない

9 「地域防災力の向上」について

* お子さんが、小学1年生以上の保護者の方のみご回答ください。それ以外の方は、調査終了です。

問 22. お子さんは、自然災害から身を守るために一番重要なものは何だと思っていますか。

(○はひとつ)

1. 自分の身は自分で守ること (自助)
2. 近所や自治会、校区などで協力しあって身を守ること (共助)
3. 国県市などが住民の身を守る取り組みをすること (公助)
4. わからない

問 23. あなたは、お子さんに「自助」の重要性を教えるために、何が有効だと思いますか。

(あてはまるもの2つに○)

1. 防災に精通した人を招いての講演会や討論会
2. 防災テーマのシンポジウムやフェスタ
3. 市職員・防災士等による出前講座
4. 防災の視点を取り入れたレクリエーション
5. カルタや紙芝居等を活用する
6. 各種啓発チラシやグッズをキャンペーン等で配布する
7. 市広報紙・ホームページに関係記事を掲載する
8. フェイスブックなどに関係情報を定期的に流す
9. 学校での避難訓練などを活用する

問 24. お子さんは、地域の避難所を知っていますか。(○はひとつ)

1. 場所を知っており、避難経路も決めている
2. 場所は知っているが、避難経路は特に決めていない
3. 場所も知らず、避難経路も決めていない

問 25. 自主防災組織が行なう避難訓練や講演会等に、参加したことがありますか。

(○はひとつ)

1. 親子とも、参加したことがある
2. 親のみ参加し、子どもは参加したことはない
3. 親子とも参加したことはない

* 「自主防災組織」とは、校区コミュニティ組織などを母体として、災害時には住民がお互いに協力しあいつながら初期消火、救出活動などの活動を行う組織のこと。

問 26. お子さんは、災害が発生したときに、ひとりで避難できると思いますか。(○はひとつ)

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1. できる | 2. たぶんできると思う |
| 3. できない場合もあると思う | 4. できない |
| 5. わからない | |

以上で、「久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査」を終了します。

ご協力ありがとうございました。

